横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 平成23年度事業報告書



横浜市芸術文化教育プラットフォーム

(STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局)

【横浜市芸術文化教育プラットス	フォームとは】	 	04
【学校プログラムの個別報告】・		 	06

音楽

鶴見小学校 + サルビアホール	弦の音色を聴く	07
子安小学校 + かなっくホール	ゴスペルを歌おう	80
浅間台小学校 + よこはま音楽広場実行委員会	打楽器を楽しむ	09
間門小学校 + 吉野町市民プラザ	ラテンパーカッションを楽しむ(1)	10
六つ川台小学校 + オフィスマキナ	ジャズのアドリブを体感(1)	11
汐見台小学校 + オフィスマキナ	声とイメージ	12
西富岡小学校 + 横浜みなとみらいホール	歌のプレゼント	13
小雀小学校 + アートの時間	リズムをつくる、楽しむ	14
東戸塚小学校 + 横浜市芸術文化振興財団	ゴスペルの体験(1)	15
矢部小学校 + アートの時間	ゴスペルに触れる	16
港南台第三小学校 + 子どもに音楽を	ヴァイオリン体験	17
小坪小学校 + 吉野町市民プラザ	ラテンパーカッションを楽しもう(2)	18
永谷小学校 + 吉野町市民プラザ	ピアノと言葉と絵画の「動物の謝肉祭」	19
日限山小学校 + オフィスマキナ	みんなが持っている楽器「声」	20
日野南小学校 + 神奈川県立音楽堂	リズムとアンサンブル	21
上川井小学校 + サンハート	ラテンのリズムを楽しむ	22
左近山第二小学校 + 子どもに音楽を	ヴァイオリンを感じる	23
白根小学校 + 横浜市芸術文化振興財団	パーカッションを体験	24
十日市場小学校 + 神奈川県立音楽堂	パーカッションがやってきた	25
山下小学校 + オフィスマキナ	声の魅力とその響き	26
阿久和小学校 + Media Global	カリブの音色を感じよう(1)	27
瀬谷さくら小学校 + Media Global	カリブの音色を感じよう(2)	28
桂台小学校 + 横浜市芸術文化振興財団	ゴスペルの体験(2)	29
上郷小学校 + リリス	身近に楽しむ音楽(1)	30
小山台小学校 + リリス	身近に楽しむ音楽(2)	31
千秀小学校 + 子どもに音楽を	ヴァイオリンに親しむ	32
豊田小学校 + 横浜こどものひろば	手作りシェーカーでラテン音楽会	33
あざみ野第二小学校 + フィリアホール	アンサンブルの魅力と楽しさに触れる	34
荏子田小学校 + 横浜市芸術文化振興財団	音楽と心	35
川和小学校 + オフィスマキナ	ジャズのアドリブを体感(2)	36
本郷特別支援学校 + よこはま音楽広場実行委員会	ラテン音楽を楽しもう	37
くぬぎ台小学校 + 横浜シティオペラ	オペラへの好奇心(1)	38
今宿南小学校 + 横浜シティオペラ	オペラへの好奇心(2)	39

演劇

坂本小学校 + Media Global	パペットをつくる、演じる(1)	41
深谷小学校 + アートの時間	みんなでつくる演劇	42
上大岡小学校 + 急な坂スタジオ	妖怪のいる空間	43
善部小学校 + 芸術家と子どもたち	劇づくりを通して自己を発信	44
新治小学校 + Media Global	パペットをつくる、演じる (2)	45
いちょう小学校 + テアトルフォンテ	さわたり組出前二人芝居「宮澤賢治童話集」	46
鴨志田第一小学校 + 横浜こどものひろば	椋鳩士「大浩じいさんとガン」の劇づくり	47

ダンス

中丸小学校 + STスポット横浜	みんなでおどる、うごく	49
相武山小学校 + 吉野町市民プラザ	身体で表現してみよう	50
野庭すずかけ小学校 + Offsite Dance Project	詩から動きをつくってみる	51
二つ橋小学校 + Offsite Dance Project	ひろがる発想、表現する楽しみ	52
二つ橋高等特別支援学校 +STスポット横浜	いろんなからだを知る時間	53
泉が丘中学校 + テアトルフォンテ	カラダ×リズムで奏でる表現	54★
盲特別支援学校 +STスポット横浜	ちょっとだけ特別な日常	55★

(★については、複合分野での実施)

美術・工芸

駒岡小学校 + 横浜市民ギャラリー	新種発見!生き物ハットをつくろう	57
洋光台第四小学校 + 横浜市芸術文化振興財団	木炭画で似顔絵、自画像を描く(1)	58
新羽小学校 + 大倉山記念館	いろ×いろまん、作って食べよう	59
品濃小学校 + アートの時間	仮面パレード 2011	60
都岡小学校 + サンハート	木炭画で似顔絵、自画像を描く(2)	61
二俣川小学校 + サンハート	木炭画で似顔絵、自画像を描く(3)	62
竹山小学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野	自分の作った色で絵を描く、動物をつくる	63
公田小学校 + リリス	アクリル板で遊ぶ、つくる	64
伊勢山小学校 + テアトルフォンテ	つんでつんでならべてならべて~虹のアーチ~	65
山田小学校 + 黄金町エリアマネジメントセンター	普段動かないモノに、自分で動きを与えてみよっ	う66
六角橋中学校 + 横浜市民ギャラリー	六角コネクション	67
汐見台中学校 + 横浜美術館	美術館へ行こう・美術から広がる仕事	68
大正中学校 + 横浜美術館	絵具のざいりょう	69
鴨志田中学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野	学校展覧会	70
中村特別支援学校 + ART LAB OVA	まひるのディープ・ヨコハマ*アートクラブ・ナイト	- 71

❤️ 伝統芸能

琴を体験しよう	73
狂言を体験しよう(1)	74
狂言を体験しよう(2)	75
エイサーを体験しよう	76
狂言を体験しよう (3)	77
三味線を体験しよう(1)	78
三味線を体験しよう(2)	79
能楽囃子を体験しよう	80
落語を体験しよう	81
荒馬踊り	82
筝を通して日本の音色を知る	83
狂言を体験しよう(4)	84
筝の音を知る	85
古来の楽器に親しむ	86
笙の音色に身をまかせる	87
	狂言を体験しよう(1) 狂言を体験しよう(2) エイサーを体験しよう 狂言を体験しよう(3) 三味線を体験しよう(1) 三味線を体験しよう(2) 能楽囃子を体験しよう 落語を体験しよう 荒馬踊り 筝を通して日本の音色を知る 狂言を体験しよう(4) 筝の音を知る 古来の楽器に親しむ

【アーティストプロフィール】		 • •	 	 	 ٠.	• •		٠.	 ٠.	٠	 ٠.	٠.		88
【コーディネータープロフィー	·ル】	 	 	 	 		 		 		 	٠.	. (92

■横浜市芸術文化教育プラットフォームとは?

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

- (1) 学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり
- (2) 様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
- (3) 子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じて プログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。



事務局(STスポット横浜内に設置)

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会で構成されています。



推進委員会 芸術文化教育プラットフォームの総合的な推進を図ります。

芸術団体/文化施設

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、コーディネーターとして、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

今後の協働・連携やよりよいプログラムの提供につなげるプログラムとして、学校プログラムに付随する2事業を展開しました。

① コーディネーター会議 平成23年7月13日 10:30~12:00 @ヨコハマ創造都市センター



【参加者】24名(コーディネーターを担当するアートNPO、民間芸術文化団体・ 地域の文化施設・事務局構成団体)

【内容】今年度のプラットフォーム事業にかかわるコーディネーターの方々の情報交換と課題共有のための会議を開催しました。音楽、演劇、美術、伝統芸能分野のNPOや文化施設担当者が3グループに分かれて議論をし、現場の具体的なコーディネートのコツなどについて話し合いを進めました。

② 先生のためのワークショップ 平成24年1月30日 18:30~20:00 @STスポット



「伝統音楽編] 笙を体験しよう!

【講師】石川高(笙奏者)

【参加者】13人(小・中学校、高等学校の教員。おもに音楽科)

【内容】笙の実演、伝統音楽に関するレクチャー。

鑑賞:雅楽の歴史の簡単な説明、舞楽のビデオ鑑賞、楽器の説明

体験: 笙、篳篥、龍笛で音を出してみる、越殿楽の一節を吹いてみる、歌物をうたう

■学校プログラムのねらいとすすめかた

〇 アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします。

私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・ 科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するアート。自 由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

〇 芸術家が、直接学校へ出かけます。

平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。三日程度にわたり実施する「体験型プログラム」と、基本的に一日で終了する「鑑賞型プログラム」の2種類があります。音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家が、直接学校へ出かけます。

○ コーディネーターと先生が、実施内容を調整します。

学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、 授業づくりを支援します。 対象となる学年と教科・科目のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コー ディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識がひとつになることで、効果的なプログラムが実施できます。

* 体験型プログラム

実技体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。

* 鑑賞型プログラム

アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話しを聞くことで芸術文化を身近に 感じることができます。音楽や伝統芸能の鑑賞を通して、本物の芸術に触れる機会を提供します。

■これまでの学校プログラムの取組み

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この8年間で、のべ400校あまりの横浜市立の小・中学校、特別支援学校で、5万人を超える児童・生徒たちが、アーティストと時間をともにしました。

	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度	16年度
参加児童・生徒数	9, 945人	8, 706人	13, 432人	11,802人	9, 956人	1, 500人	434人	319人
実施校	77校	79校	82校	67校	52校	22校	8校	6校
音楽	39	36	38	40	34	7	-	4
美術・工芸	14	15	11	8	3	5	3	-
演劇	6	10	11	9	8	4	2	1
ダンス	5	6	6	4	3	3	3	1
伝統芸能	13	12	16	6	4	3	_	_

音楽分野の取り組み



目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。 聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際 にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感して いきます。



鶴見小学校 + サルビアホール

弦の音色を聴く

 担当アーティスト
 Ria & Rie (ヴァイオリン・ピアノデュオ)

 実施校
 横浜市立鶴見小学校 (鶴見区)

 コーディネート
 鶴見区民文化センターサルビアホール

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/クラシック音楽/4 学年、3 学級、80 人

 実施日程
 2011 年 12 月 8 日



授業のねらい

ヴァイオリンとピアノによる生演奏を聴かせ、また、過去に授業でとりあげた曲や一緒に歌う曲も取り上げ、鑑賞だけではない、一緒に音楽を楽しむ時間を作る。また、楽器として長い歴史を持つ「ヴァイオリン」そのものについての理解を深める。楽器の音色とハーモニーを身近で生に体験することで、表現の豊かさを感じ、生徒が意欲的に音楽活動に取り組むようになるきっかけを作る。

アーティストから

子どもたちが元気よく反応してくれたのでよかった。校歌を一緒に歌ったが、みんなきれいな声で上手に歌ってくれた。プログラムの途中に入れたクイズにも子どもたちが楽しそうに答えてくれたのが嬉しかった。ヴァイオリン体験も喜んでくれてよかった。

コーディネーターから

先生との打ち合わせ期間が短かったにも関わらず、控室の用意やプログラムの準備など大変丁寧に対応していただいた。演奏が始まると子どもたちが静かになり、演奏に聞き入っていたのが印象的だった。アーティストがプログラムを工夫してくれたおかげで、とても楽しい演奏会となった。次回は日程調整を早めに行い、より満足度の高い内容を提供できるようにしたい。

先生から

今回子どもたちにクラシック音楽の楽しさを伝えたいという思いがいろいろな方法で実践されていてとても良かったです。

子どもたちから

初めてヴァイオリンを聴いてすごくきれいだと思いました。/ りあさんりえさんに出会えていろいろな曲が聞けて良かったです。/ヴァイオリンとピアノと一緒に校歌や 80 周年の歌が歌えてよかったです。/ヴァイオリンは何でできているのか分かりました。





子安小学校 + かなっくホール

ゴスペルを歌おう

担当アーティスト	Anointed Mass Choir (ゴスペル団体)
実施校	横浜市立子安小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/ゴスペル/5 学年、4 学級、148 人
実施日程	2011 年 10 月 18 日

授業のねらい

子安小学校の児童は音楽に対する意欲が盛んで、毎年行われる「ウィンターコンサート」を柱に様々な場で合唱の力を伸ばしてきた。今回のゴスペルの体験型ワークショップを通して、メンバーの圧倒的な表現力に触れ、音楽や歌の楽しさ、豊かさを改めて体感してもらう機会とし、伝える力や表現する力を伸ばしていくことを目標とする。

主な内容

Live

M1.You are good、M2.Celebrate、M3.コール&レスポンス (Proud Mary で声の出し方、振りレクチャー)、

M4. Proud Mary, M5. Let it be

- ●ステージングレクチャー かっこいいデハケ、立ち方、ハンドクラップの仕方など。2 グループに分かれ、ステージに上がってもらい、体験。
- ●世界的に有名な、平和を願ったクリスマス曲「Happy X' mas」 を簡単なハーモニーと歌詞の繰り返しでみんなで歌う。 M6.Happy X'mas
- ●アンコール

M7. Come on let's worship him, M8.Stand by me

アーティストから

今日はアノインティッド・マス・クワイヤーの 80 回目の学校 コンサート (公演) でしたが、少しレクチャーしただけですぐ 歌えるレベルの高い子どもたちでした。最初は不安もありましたが、こちらが手を抜かずにやるとその分全力でこたえてくれ、一生懸命に対して一生懸命に返してくれる反応の良さがありました。今日もそうでしたが、その気になることが大切で、その 気になることで予想以上のものが出てきますね。私たちも勉強になりました。

コーディネーターから

アーティストが機材など持ち込んでくださってスムーズに進行しました。事前の準備段階でも大きなトラブルもなく、学校側の協力体制も整っていたのでやりやすかったです。メンバーの意識も高く、本番も非常にクオリティの高い内容でした。こどもたちの反応も良く、すぐに夢中になって盛り上がっていました。事業の目的である、歌う楽しさを再認識してもらうことが出来たと感じています。



先生から

「音楽を通して、表現することの楽しさを実感してほしい」という、こちらのねらい通りのアーティスト、プログラムで大変満足しております。演奏されたゴスペルの迫力に加え、児童を引き込む進行のうまさも有り、5年生の子どもたちは目を輝かせて取り組んでいました。最後には子どもたちは舞台に上がり、通常では味わえない楽しさを"体感"したようです。本校は全校音楽会という行事があるので、毎年実施して、音楽の楽しさを学校全体に根付かせられたらと思います。

子どもたちから

たくさん声を出して歌う"ゴスペル"を聞いて「これも音楽だ」と感じた。/全員で歌い踊ったことが思い出に残った。/迫力がすごい。もっとやりたかった。



浅間台小学校 + よこはま音楽広場実行委員会 打楽器を楽しむ

 担当アーティスト
 松本祐二 (洗足学園音楽大学、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団)

 実施校
 横浜市立浅間台小学校 (西区)

 コーディネート
 よこはま音楽広場実行委員会

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/打楽器/全学年、10 学級、250 人

 実施日程
 2011年11月30日



授業のねらい

音楽で感じたことを表現し、仲間と気持ちを合わせて演奏する 楽しさを体験させたい。全学年が分かりやすく楽しめる時間に したい。

アーティストから

今回は「リズムが音楽感受に与える影響」をテーマとした。同一旋律を、マーチ、ポップス、ジャズ、サンバの異なったリズムパターンで演奏した場合、楽曲の感じ方が異なる事を体感して貰った。更に「ツー・スリー」のリズムを楽曲に合わせ手拍子で奏するリズム体験を試みた。児童達は様々なリズムに接する事ができたと思う。小学1年生から6年生を同時に対象とする難しさも感じられた。

コーディネーターから

学校側は本プログラムに対する期待度が高く、事前に保護者に 周知するなど、積極的に取り組む様子が感じられた。また、学 校側の意向により、全学年対象での実施となったが、アーティ ストは専門性を駆使し、プログラムは、どの学年にも理解しや すく参加しやすい内容であった。また、後日に担当の先生から、 学習発表会では仲間の発表を聞きながら自然と手拍子が広がっ ていったとの事で、今回のプログラムのおかげですと感謝のメ ッセージが届いた。

先生から

音楽ホールや劇場のそばに住んでいても、実際に行ったことのない子が多く、楽器を習っている子が少ないというのが本校の実態です。芸術鑑賞会(学校プログラムによる)も3回目となり「今年は何かな…」と期待をよせる子(先生方も)が多くなってきました。本年度は、かなりリラックスした雰囲気での鑑賞会となりました。手拍子やかけ声で、アーティストさん方と一体になっていた感じです。いつもながら、子どもたちから、笑顔や感動を引き出す、アーティストの方々の演奏に、プロ(本物)の力ってすばらしいと感服しております。その上、アーティストのみなさんと交流する場をいただき、温かく接していただきました。ありがとうございます。子どもたちの鑑賞態度や言動を誉めていただき、たいへん嬉しく思います。これを励みに私たち教職員も日々の教育活動をがんばっていこうと思っております。来年度もぜひぜひよろしくお願い致します。今から楽しみにしております。

子どもたちから

「やさいの気持ち」がおもしろかった。/言葉が音楽になるなんてすごい。/片手に2本マレットを持って演奏したのがすごかった。やってみたい。/同じ曲でもリズムを変えると違う曲に聴こえる。/芸術鑑賞会を聴いて、前よりも音楽が好きになった。また来て欲しいです。



間門小学校 + 吉野町市民プラザ ラテンパーカッションを楽しもう(1)

担当アーティスト 松井イチロー (音楽家)
実施校 横浜市立間門小学校 (中区)
コーディネート 吉野町市民プラザ
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/ラテン・ジャズ/4学年、3学級、98人
実施日程 2012年1月20日



授業のねらい

世界で一番古い楽器である打楽器を通して、音楽の楽しさを知り、芸術をじっくりと鑑賞する経験の場とします。学校の授業では触れることのないジャズやラテン音楽の演奏を身近に聴くことで、心がふるえるような感動を味わい、言葉ではない表現の多様さと素晴らしさを実感してもらいます。また、人前で演奏する体験を通して自分らしい表現を探求する心情を養い、豊かな学びの中でお互いを認め合える機会とします。

主な内容

デモ演奏、楽器紹介、楽器に触れてみよう、ジャンベリレー、 質疑応答

アーティストから

体験教室が始まる前に校長先生お話しすることができたのが有意義でした。「楽器別にリズムパターンを変えてみてはどうか」と、校長先生のアイデアも出され、それが当日の授業に反映することができたのは画期的なことだったと思います。私たち講師と学校、そして仲介していただく機関が一体になってプログラムを作ることが大切だと感じました。今後も、限られた時間を効率よく、そしてインパクトある授業をめざしたいです。

コーディネーターから

元気一杯の間門小学校 4 年生のこどもたち、松井イチローさんの迫力ある演奏、学校にある楽器の紹介に目を輝かせて喜んで、打楽器でテンポの違いや音の強弱を表現する楽しさを実感してくれました。音楽が苦手でも音が出ることで楽しめる打楽器。自分で演奏してみんなに聴いてもらうこと、みんなのいろんな表現を見ることで、それぞれの個性の違いの素晴らしさを発見してもらえたのではないかと思います。こうした貴重な場を創るためにご尽力くださった先生方にも深謝いたします。





六つ川台小学校 + オフィスマキナ ジャズのアドリブを体感 (1)

	ユキ・アリマサ (ジャズ・ピアニスト)
実施校	横浜市立六つ川台小学校(南区)
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目·教科名	音楽
実施概要	体験型/ジャズ/4 学年、1 学級、41 人
実施日程	2012年2月1日、2月6日、2月7日



授業のねらい

ジャズは横浜にとってゆかりのある音楽でありながら、子どもにとって、聴く機会は多くありません。まず、本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験します。また、子どもたち自身も楽器を持って、実際にアドリブを体験します。お互いに聴き合いながら自由に表現する楽しさと、バンドと一緒に演奏する喜びを味わうことを目的とします。

主な内容

(1日目)講師による演奏・音楽の雰囲気を感じてみよう(2日目)音楽の雰囲気を作ってみよう・アドリブに挑戦(3日目)アドリブに挑戦・発表会

アーティストから

今回は何か「曲」を演奏することを目的にせず、その場で音楽を作ってもらうことを中心に授業を進めました。いつもは子どもたちに「お題」を出してもらって、僕らが演奏をしていますが、今回は自分たちで出したアイデアを自分たちで音にするという方法を取りました。ある雰囲気を出すには、どんな楽器がいいか、どんな音を出したらいいか、みんなとても積極的に取り組んで、非常によく表現していたと思います。

コーディネーターから

数年継続して実施しているので、子どもたちは以前体育館で聞いたことをよく覚えていました。今年は去年よりさらに一歩進んで、子どもたち自身が「楽しい」「怖い」など、音楽の雰囲気をつくることにどんどん挑戦していました。自由に音楽をつくる楽しさを、めいっぱい感じていたように思います。今回は練習なしの、完全なアドリブだけの発表会でしたが、講師がパッ

と言ったことにすぐ反応して、とてもいい音を出していて驚き ました。

先生から

今回で六度目のジャズ教室となり、体験する児童も鑑賞する児童も大きな期待感を持って参加しました。今回は、曲の感じを決め、皆で即興的に表現することをたくさん体験しました。イメージすることで音が自然と変わっていくことを教えていただき、実際に演奏する体験はとても貴重なものでした。互いの音を聴きながら音楽を作り上げる喜びを感じた児童の満足した顔をたくさん見ることができました。最終日の発表会では、全校児童でジャズに親しみました。継続していくことで、子どもたちにも力がついていきますので、今後もこのプログラムを実施していただきたいです。

子どもたちから

ジャズは自由で、自分で考えて適当にできるから楽しかった。 /アドリブが楽しく、講師の先生と一緒に演奏できてうれしかった。/講師の先生と一緒に演奏してコミュニケーションして ジャズがとても楽しいと思った。





汐見台小学校 + オフィスマキナ

声とイメージ

 担当アーティスト
 鈴木慶江 (ソプラノ歌手)

 実施校
 横浜市立汐見台小学校 (磯子区)

 コーディネート
 株式会社オフィスマキナ

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 体験型/声楽/5 学年、2 学級、80 人

 実施日程
 2012年1月25日、1月26日、2月2日



授業のねらい

子どもたち自身が、自分が持っている楽器である「声」の魅力に気づくことを目標とします。からだをほぐし、腹式呼吸を学び、全身を使って歌う楽しさや面白さを体験します。また、文部省唱歌の「冬景色」を課題曲とし、日本語を丁寧に発音して、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌うことを学びます。

主な内容

(1日目) 音楽室で講師演奏の鑑賞・発声練習 (2日目) 発声練習・歌唱練習 (3日目) リハーサル・発表会 (全校生徒・保護者の方)

アーティストから

こちらの言ったことをとても素直に受け止めて、一生懸命に歌ってくれました。初めは恥ずかしかったり、集中できなかった 男の子も、最後は真剣にからだを使って歌っていました。音楽 専科の先生や担任の先生が、発表会に向けて準備をしてくださって、子どもたちのモチベーションも高かったと思います。また、他の学年の子も含め、子どもたちが以前のコンサートのことをよく覚えていて驚きました。

コーディネーターから

学校全体がこの WS を楽しみにしていてくださり、進行もとてもスムーズでした。校長先生、専科の先生はじめ、先生方が普段から素地を作ってくださっているのが、本当に有難いことだと思いました。とてもあたたかく迎えていただきました。同じ学校での実施が6年目となり、講師もコーディネーターも、少々のハプニング程度なら落ち着いて対応できるようになったように思いました。

先生から

ソプラノのオペラ歌手の鈴木慶江さんの5年生対象のミニコンサートでは、音楽室での身近な演奏でした。演奏以外にお話を聴いたり、質問がどんどん広がったりする中で、講師の人柄を感じ、オペラ歌手という職業への憧れと、きびしさを感じることができました。1クラス各の2回の授業では準備体操を教えてもらい、実際に講師のお腹を一人ずつ触らせてもらい、声を出したときの呼吸の仕方を体験することができ、実際に自分のおなかはどうだろうと試していました。給食ではそれぞれのクラスで楽しく会食でき、演奏以外でのプロの音楽家の魅力を感じることができました。子どもたちの日常生活の中では味わうことのできない本物の音楽に身近に接することができ、プロの演奏家の人間性に触れ「歌がもっと好きになった」「声がよく出るようになった」と大満足の感想をよせていました。全校児童、保護者向けのコンサートも全員が楽しみにしており6年間継続的に指導をしていただいたことが大きな力となっています。



子どもたちから

準備運動で体をほぐすということを教えてもらえてよかったです。/「音楽はスポーツだ」と教えてもらったことが心に残った。/鈴木慶江さんのおなかをさわらせていただいたことが思い出です。おなかのポンプやタンクの入れ方を教えてもらってよかったです。/一緒に給食を食べてもらえ、質問すると優しく答えてくださったのでうれしかったです。



西富岡小学校 + 横浜みなとみらいホール

歌のプレゼント

担当アーティスト	高畠信吾(テノール歌手)
実施校	横浜市立西富岡小学校(金沢区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/声楽/5 学年、2 学級、61 人
実施日程	2011年9月28日、10月6日、10月13日



授業のねらい

5年生2クラスの児童に"人の声の美しさ""歌うことの楽しさ"を再認識してもらう。実際に歌う曲は、ゴスペルの定番「Oh happy day」と、ポピュラー曲より「世界に一つだけの花」の2曲に取り組む。

主な内容

(1日目) 体を動かしながらリズムゲームなどを取り入れ、歌ではなくまず"声"を出すこと(2日目)"声"から"歌"へ、リズムの難しい曲に取組、言葉の大切さを伝えた。(3日目)発表会に向けての仕上げ練習。 $3\cdot 4$ 年生の前で発表。

アーティストから

協力的な先生で、取り組みやすかった。発表会という目標に向けて実質2回の授業で仕上げていくことが難しかった。子どもたちの反応に戸惑うこともあったが、自分自身も良い経験の機会となった。

コーディネーターから

担当の先生がとても協力的で、制作は順調に行えた。子どもたちとの交流を図るために、若い声楽家を講師に起用したが、経験の少なさから子どもたちの反応に戸惑う面も見られた。しかしながらゲームを取り入れたプログラムなど工夫をしコミュニ

ケーションをとって進めていた。発表会があると、それに向けた内容が中心になってしまい、本当に伝えたいことが伝えられなくなる難しさを感じた。

先生から

大変お世話になりました。たくさんの方に関わっていただいたこと感謝しています。前年に続きこのプログラムをお願いするのは2回目です。声楽のプロの先生の歌声に子どもたちは驚き感動していました。その様子は3回目のコンサートの時にも感じることができました。生の迫力有る歌声に「どうしたらこんな風に出せるんだろう?」{先生のように歌えるかな?」と考えていた子もたくさんいました。その思いを具体的に体験してできたらもっと良かったかと振り返っています。〈後日〉足柄宿泊体験学習でキャンプファイヤーの歌の中に「世界に一つだけの花」をみんなで歌いたいというリクエストがあり、全員で2度も(アンコール)歌いました。みんなで歌うことの楽しさを感じてくれたようです。

子どもたちから

最後に学年で歌を歌ったことはとても思い出に残っていて一体 となって歌えた気がした。/この授業を通して音楽が好きにな った。またやりたい。/芸術プログラムに参加し、歌を歌うの が少し好きになり音楽の楽しさを感じられました。



小雀小学校 + アートの時間 リズムをつくる、楽しむ

担当アーティストTONES (木村奏子・木村大介・小畑寛・平野有希子:打楽器アンサンブルグループ)実施校横浜市立小雀小学校(戸塚区)コーディネートアートの時間実施科目・教科名音楽実施概要体験型/打楽器/4学年、2学級、67人実施日程2012年2月1日、2月15日、2月29日



授業のねらい

- ・パーカッション(打楽器)を使ってリズムを感じ、自己を解放、表現につなげ、アンサンブルすることでコミュニケーション能力を高める。
- ・アーティストの演奏を目の前で鑑賞し、音楽、リズムを感じて、普段の授業とは異なる体験をする。
- ・2分の1成人式での発表を目指して、協力し合い、発表当日の達成感につなげる。

主な内容

(1日目) TONESミニコンサート:全学年対象、打楽器体験:4年生対象(2日目) ボディパーカッション及び、校歌の打楽器アンサンブルのパート練習(3日目) ボディパーカッション及び、校歌の打楽器アンサンブルのクラス毎指導

アーティストから

今回、打楽器合奏を1曲、ボディーパーカッションを1曲、計2曲に子供たちは取り組みました。打楽器合奏では個人差がありましたが、ボディーパーカッションではクラス全員で一つの作品を作り上げようと、毎日練習したようです。最終日、全員が自信満々の顔だったことは忘れられません。クラスで誇りに思えることが一つ増えたのだと、私たちも嬉しかったです。この活動を通じて、子供たちに音楽の楽しさ、それ以上に大切なことを学んでほしいと思います。

コーディネーターから

1日目のミニコンサート、全校生徒が45分間集中して演奏を聴き、参加していた。打楽器の力を感じる。その後の打楽器体

験は、本来の対象学年である4年生だけだったが、タンバリンやトライアングルでも、学校の授業では習わない奏法をアーティストに教えてもらい、難しいと言いながら楽しげに体験していた生徒たちが印象的だった。ボディーパーカッションのアンサンブルは、クラスを超えて4年生全体を一つにまとめ、アーティストの存在とともに、生徒の心にこれからも残っていくことであろう。

先生から

子どもたちにとって、アーティストの演奏や授業はたいへん刺激的だったようです。2分の1成人式で発表した「ボディパーカッション」へ取り組む一生懸命な姿に驚かされました。保護者の方々にもたいへん喜ばれました。その後、子どもたちは卒業する6年生にプレゼントするために毎日ボディパーカッションの練習に励んでいます。こんなに子どもたちが自主的に取り組み、学年で「そろえよう」と心を1つにする姿が見られたことをたいへん嬉しく思います。今年度の4年生だけの経験にとどまらず、次年度の4年生にもぜひ経験させてあげたいです。

子どもたちから

前から音楽は好きだったけど、もっと好きになりました。ボディーパーカッションというおもしろいえんそうを知ることができてよかったです。





東戸塚小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 ゴスペルの体験(1)

担当アーティスト城田有子 (ピアニスト/歌手/作曲家/編曲家/プロデューサー)、河原厚子 (歌手)実施校横浜市立東戸塚小学校 (戸塚区)コーディネート公益財団法人横浜市芸術文化振興財団実施科目・教科名音楽実施概要体験型/ゴスペル/5 学年、5 学級、169 人実施日程2011 年 11 月 16 日、11 月 22 日、11 月 24 日



授業のねらい

身体をいっぱいに使って、声を出す心地よさを感じながら、クラスで1つの作品をつくりあげる過程を体験し、表現することの楽しさや音楽の豊かさを感じます。歌う曲は『アメージンググレース』。高学年になると苦手意識を持ちがちな「歌う」ことを、英語の歌詞を使うことで払拭していきます。また、各クラスの個性を発揮したアレンジに取り組み、最後にお互いのクラスの曲を聴きあうことで、音楽の持つ魅力に気づくことも目標とします。

主な内容

(1日目)声を出すことへの抵抗感をなくすための練習をする、歌う曲の意味を知る(2日目)クラスごとにアレンジを決めて、3日目の発表に向けて練習をする。(3日目)リハーサルを行い、体育館でクラスごとに発表を行う。

アーティストから

去年からひとクラス増えて、5クラスという事で、始まる前は 多少不安があったのですが、プログラムが始まると、その心配 が吹き飛び、それぞれのクラスの個性的なアイディアに目を見 張る私たちでした。今回で4年目だというのに、大人の私たち の予想を遥かに超える見た事も聴いた事もない斬新なパフォー マンス!本当におそれいりました。また、先生方のエネルギッシュなサポートにも感激いたしました。ますます横浜の子供たちを愛し、誇りに思えるようになった私たち!素晴らしい出会いに感謝しております。

コーディネーターから

固定概念にとらわれない豊かな発想を促すべく、講師が活動初日から生徒同士で自由な意見が言える雰囲気を作り出していました。子どもたちからは多様なアイデアが出され、アメージング・グレイスを盆踊りのリズムに乗せたり、クラス内の多文化を生かしてポルトガル語や日本語歌詞を取り入れたり、また、ダンスや縄跳びなどの得意分野も音楽に合わせて披露するなど、生徒ひとりひとりの個性あふれる発表となりました。

先生から

実施3年目となる今年、児童数の増加によりクラス数が増えたことが懸案事項でしたが、講師の先生方のご協力によりスムーズに行えたと思います。また毎年の積み重ねにより、教師側も見通しが持ちやすく、実のある活動となったように思います。ぜひまた来年も実施できることを期待しています。



矢部小学校 + アートの時間

ゴスペルに触れる

担当アーティスト 西川珠香子 (歌手)、河原厚子 (歌手)、城田有子 (ピアニスト/歌手/作曲家/編曲家/プロデューサー) 実施校 横浜市立矢部小学校 (戸塚区) コーディネート アートの時間 実施科目・教科名 音楽 鑑賞型/ゴスペル/4 学年、3 学級、96 人 実施日程 2011 年 9 月 9 日



授業のねらい

普段の授業ではできないゴスペルワークショップを通じ、子どもたちの視野を広げ、豊かなものの見方を持つきっかけとする。 特にゴスペルが大事にしている「声を届ける」という歌い方や、 ノリというものを体験することで、声を合わせて歌うことの楽 しさを再発見する。

主な内容

子どもたちと講師陣で互いに歌の披露をし合ったあと、発声・発音の指導を受け「you are my sunshine」を歌う。コール&レスポンスを体験。

アーティストから

ゴズペルはいわゆる黒人音楽。宗教にはこだわらず、私達はみんなと心ひとつにリズムを感じて楽しく歌う。そして自分の神様は誰?何?感謝しよう!という目的を持ってもらおうと思っている。ただ大きな声を出すのでなく伝える声を意識してもらい、クラップしてみんなが楽しそうに笑顔で歌っている姿がまだ目に焼きついている。リズムが自然に体に入り、みんな段々とノリが出て来て短い時間だったのに英語もバッチリ!素晴らしい!上手に歌うことがすべてではない。何かを感じ、みんなとひとつものを作り上げるパワー。そして楽しく。少しでも思い出として残り、音楽を生活の中で生かしてくれたら嬉しい。

コーディネーターから

♪you are my sunshine~を歌う。子どもたちは講師陣の歌うままに唄える。「じゃ、聞こえたままを書いてみようか?」との声かけに、前に出た子が「ユーアーマイシャンサイ」と書く。よく聞くと私にもそう聞こえる。その発音は多分ネイティブに通用するだろう。「聞こえるまま」「感じるまま」って本当に大事なんだよね!子どもたちに気づかされることはまだまだたくさんありそうだ。たった 90 分で子どもたちを開放してくださった講師陣に心から感謝したい。

先生から

子どもたちはとてもノリノリで取り組んでいました。いつもおとなしい子が大きな動きでリズムを取っていたのが印象的でした。子どもたちの感想に繰り返し出て来たのが自分たちの歌声に対する満足感でした。リズムにのれた!きれいな声が出たetc…それと楽しい気分になれたことだと思います。クラスの友達と一緒に楽しく過ごせたという満足感もたくさんの子どもたちが感じていたようです。私も一緒に楽しませてもらってHAPPYでした。素晴らしい歌声を聴かせていただいてありがとうございました。

子どもたちから

先生の歌声がすごくきれいだった。 / 将来ジャズピアニストになりたいので、先生方とコラボしたい。 / みんなと手をつないで歌って、最後はポーズまで決めてすごく楽しかった。 / 他のゴスペルも歌いたい。



港南台第三小学校 + 子どもに音楽をヴァイオリン体験

担当アーティスト 川田知子 (ヴァイオリン)、百武恵子 (ピアノ)
実施校 横浜市立港南台第三小学校 (港南区)
コーディネート NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/クラシック音楽/3・4 学年、4 学級、120 人
実施日程 2011 年 12 月 14 日



授業のねらい

当初、2月の土曜日に計画されていたイベントの一環として、 全校で聴く音楽を希望しての申し込みだったが、最も寒い季節 で体育館での実施は演奏家には厳しい環境なので、音楽室での 実施を提案。日程を組み直して表記の日に実施した。

アーティストから

- ・一人一人の子ども達の顔がはっきり見えてとても良かった。 皆が参加してよく聴いていたように思う。質問も積極的にして くれてその内容にも興味深いものがあった。子ども達と給食を 一緒に食べることができたこともいい経験になった。
- ・子ども達ものびのびとして素直で、とても静かに聴いてくれて手ごたえを感じた。また、子ども達と給食を食べるということが出来て楽しかった。

コーディネーターから

担当の先生から「素敵なコンサートになりました。想像以上にレヴェルの高い演奏で、私達教員も仕事を忘れうっとり聴き入

ってしまいました。-中略- 今後の学習の中でもこの経験を 役立てることがきっとできることと思います。-後略-」とい う感想も頂き、打ち合わせも含め、丁寧に説明をして実施にこ ぎつけることができ良かった。

先生から

想像以上のレベルの高い演奏で満足です。子どもたちへのお話の内容、説明も分かりやすく、質問にも気さくに答えていただきました。給食を一緒に食べた4年生はとても喜んでおりました。ピアニストさんに「マルマルモリモリ」をリクエストしてオルガンで弾いてもらったそうです。気どらず気さくなお人柄にも子どもたちはとても楽しい時間を過ごすことができたようです。どうもありがとうございました。

子どもたちから

バイオリン、大好きになりました。/初めて聞いたバイオリン に感動した。友だちに聞かせたかった。/私はピアノを習って いるので、とってもためになりました。



小坪小学校 + 吉野町市民プラザ ラテンパーカッションを楽しもう(2)

担当アーティスト 松井イチロー (音楽家)
実施校 横浜市立小坪小学校 (港南区)
コーディネート 吉野町市民プラザ
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/ラテン・ジャズ/6学年、2学級、56人
実施日程 2011年8月31日

授業のねらい

音楽の授業ではあまり触れることのないジャズやラテン音楽の 世界を味わいながら、音楽の楽しさを実感し、学校内にある打 楽器をもっと身近に感じられるようにします。打楽器の演奏方 法や楽器の性質、音の多彩さなども学ぶことで、表現方法の広 がりを発見できる機会とします。また、人前で演奏する体験を 通して、自分らしい表現を求め続けようとする心情を養い、豊 かな学びの中でお互いを認め合い、自分らしさが発揮できれば よいと思います。

主な内容

デモ演奏、楽器紹介、楽器に触れてみよう、ジャンベリレー、 質疑応答

アーティストから

飽きのこない、印象に残る授業を心がけました。打楽器の講義の中で、できるだけ多くの楽器を紹介したい気持ちがありましたが、一方的になりそうなのであえて紹介数を減らしました。今回は、ジャンベという楽器に絞って本物の音を聞き、それに触れ、音を出し、最後はゲーム感覚で全員が人前で即興ソロを演奏披露、という一連の流れの中で参加意識を高め、体験をしてもらうことができました。生徒は参加したりゲームをすることが大好きです、太鼓は誰もが音を出せますし、ストレス発散にも最適です。太鼓を叩いているうちに子供たちの目が輝いてくるのがわかりました。太鼓演奏は互いの心を開き、コミュニケーションにも役立つことを改めて感じました。

コーディネーターから

「6 年生たちはお行儀良く音楽を聴けるので、それをあえてノリノリにさせて崩して欲しい」という小坪小学校、そんな子どもたちにラテンパーカッションで松井イチローさんがどんなアプローチをするのか、とても楽しみなプログラムでした。目の前で感じるパーカッションの響き、学校にあるタンバリンやマラカスといった身近な楽器をプロが演奏するとすごい音になるという発見、どんどんこどもたちを惹きつけていきます。アーティストの力、音楽の力は本当に素晴らしいです。音楽をみんなで「楽しむ」良い体験をしていただけたと思います。会場準備やこどもたちへのサポート等、先生方にもたくさんのお力添えをいただきました。どうもありがとうございました。

先生から

松井さんがドラムで演奏する伴奏にのって、子どもたち一人一人がジャンベでリズムリレーをしました。はじめはとまどってなかなか自分を表現しきれないでいた子どもたちが多かったのですが、松井さんのサポートによって何度か繰り返すうちにどんどん心からわき出るリズムを演奏し始めました。子どもたちはとても楽しそうでした。「自分で考えて自分で作って演奏する」ということが得意ではない子どもたちにはとてもいい経験だったと思います。





永谷小学校 + 吉野町市民プラザ

ピアノと言葉と絵画の「動物の謝肉祭」

担当アーティスト 田村緑(ピアニスト)

実施校 横浜市立永谷小学校(港南区)

コーディネート 吉野町市民プラザ

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/クラシック音楽/4 学年、2 学級、77 人

実施日程 2012年1月11日、1月17日、1月23日



授業のねらい

身近に本物の音楽に触れ、心が揺さぶられるような感動を味わってもらいたいです。サン=サーンスの「動物の謝肉祭」を題材に、音楽から感じるものを言葉や絵で表現し、一つの作品として発表できるものをクラスのみんなで作ることにより、感じ方や表現の仕方がたくさんあるということを発見し、コミュニケーション力を高めます。またこの創作を通じて、お互いに個性を尊重し合い、協力しながら作り上げるおもしろさを実感し、最後に発表することで自己表現の大切さを学べる機会とします。

主な内容

(1日目) オープニング演奏、ピアノのひ・み・つ、ショパン:「軍隊行進曲」、サン=サーンス:『動物の謝肉祭』より「ライオンの行進」・「ろば」・「カンガルー」・「森の奥に住むかっこう」、モーツァルト:「トルコ行進曲」(2日目)「動物の謝肉祭」を聴く、ことばで表現してみよう、絵に描いてみよう(3日目)リハーサル、3年生に贈るコンサート 4年1組「ダイヤモンドベスト フレンズ 謝肉祭」、2組「ぼくたち・わたしたちの動物の謝肉祭 コンサート」

アーティストから

永谷小学校の元気な4年生に3回会いましたが、回を重ねる毎に、子どもと音楽の距離、子どもと私の距離が縮まっていく実感がありました。一回目は、「ピアノに出会う、音に出会う」体験が、楽しく新鮮、且つ、もっと音楽に触れたいという想いを促す内容であるよう心がけました。子どもたちの弾けんばかりのエネルギーに圧倒されながらも、後日、感想文を読み、子どもがそれぞれ何かを受け取ったという手応えを感じました。二回目は、14曲からなる大作「動物の謝肉祭」を取り上げ、自由なる音楽の世界に触れ、自分なりの言葉で感想をアウトプット

し、お気に入りの数曲を決める作業に挑戦。前回より子どもたちの集中力も更にアップ、「能動的に聞く姿」に子どもの感性の豊かさと、音楽の懐の深さを感じました。最終回では、子どもたちが親しんだ大曲を、今度は3年生にプレゼントするコンサートを一緒に創りました。子ども自身が音から得たイメージを元に描いた絵、朗読、鳴らした楽器の音を通し、子どもたちも表現者になりましたが、その姿を興味を持って見つめる3年生の姿がとても印象的でした。今回ご一緒した子どもたちが、音楽がある空間は居心地がよく、楽しいものだと思ってくれていたら嬉しいですし、これから出会う様々な音楽によって、子どもたちの人生が彩あるものになるようにと願っています。最後に、永谷小学校の先生方、吉野町市民プラザのスタッフの皆様、素晴らしいサポートを頂きましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

コーディネーターから

ピアノの紹介から始まった全3回のプログラム。田村緑さんのピアノや音楽のことを伝える力、音楽専科の先生、学級担任の先生方のこどもたちへのまなざし。いろんな子がいて、さまざまな表現をして、こどもたちがお互いを認め合いながら音楽の楽しさをたくさん発見できたのではないでしょうか。教育のプロと芸術のプロの見事なコラボレーションで子どもたちの無限の可能性を引き出し、創造性あふれる素晴らしいひとときとなりました。ご尽力くださった皆さま、本当にありがとうございました。

先生から

短い期間の中でとても濃い体験をさせていただき、子どもたち も教師も成長することができました。音楽を聴いて感じたこと を絵やことばで表わして終わりではなくて、より深いところま で揺さぶられたようです。それもアーティストの方の本物の演 奏や姿勢に触れることで生まれることと、この機会に感謝して おります。

子どもたちから

ピアノの部品がいっぱいあることにびっくりした。/田村さんの共演したことが一番楽しかった。/3年生に発表できて嬉しかった。/ピアノを習っているからもっと頑張りたいと思った。/興味がなかったけど、ピアノのすごさが分かった。/将来田村さんみたいになりたいと思った。/好きな曲、印象に残る曲が見つかった。/すごいピアニストの田村緑さんと音楽ができてとても楽しかったです。絵を描いて本番で3年生と一緒に田村さんのピアノを聴いて発表してすべてが心に残りました。



実施日程

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

2011年11月9日、11月14日、11月19日

日限山小学校 + オフィスマキナ みんなが持っている楽器「声」

担当アーティスト	山口佳子(ソプラノ歌手)
実施校	横浜市立日限山小学校(港南区)
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目·教科名	音楽
実施概要	体験型/声楽/5学年、3学級、100人



授業のねらい

子どもたち自身が、自分が持っている楽器である「声」の魅力に気づくことを目標とします。からだをほぐし、腹式呼吸を学び、全身を使って歌う楽しさや面白さを体験します。また、文部省唱歌を課題曲とし、日本語を丁寧に発音して、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌うことを学びます。

主な内容

(1日目) 1-5 年生での鑑賞・発声練習 (2日目) 発声練習・歌唱練習 (3日目) リハーサル・本番 (授業参観)

アーティストから

とても素直な子どもたちで、こちらが言ったことをすぐにやってみる、真似してみるという姿勢が見て取れました。普段とは違う筋肉を使うせいか、はじめは「大変」「疲れた」と言っていた子たちもいましたが、本番は皆最後まで集中してよく歌っていました。ことばに気を付けながら、とてもやさしい声を出していました。

コーディネーターから

はじめは緊張したような様子だった子どもたちも、回を重ねる

につれ講師にも慣れ、一生懸命歌っていました。音楽専科の先生が準備から本番まで熱心にサポートしてくださり、本番では子どもたちの発表の伴奏も弾いていただきました。担任の先生たちも子どもたちを強く励ましてくださったようでした。やはり学校側のご支援あってのワークショップだと感じました。

先生から

子どもたちは、今回の授業を大変心待ちにしていました。そして、子どもたちの期待を裏切らない素晴らしい授業をしていただきました。プロの声楽家の声の力強さや美しさを敏感に感じ取り、感動していた様子です。声の出し方が分かるようになったという子どもたちがたくさんいました。また、練習を重ねることにより人間の声はあのように素晴らしいものになるのだということに気が付いていました。今後もぜひこの活動を継続していただき、歌が大好きな子どもを増やしてほしいです。ありがとうございました。

子どもたちから

きれいな声で歌えたことや、山口先生のきれいな声を聞いたことです。



日野南小学校 + 神奈川県立音楽堂 リズムとアンサンブル

 担当アーティスト
 神田佳子 (パーカッショニスト)

 実施校
 横浜市立日野南小学校 (港南区)

 コーディネート
 神奈川県立音楽堂

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 体験型/打楽器/5 学年、2 学級、77 人

 実施日程
 2011 年 10 月 19 日、10 月 21 日、10 月 24 日



授業のねらい

子どもたち全員が楽しめるワークショップを行うことを目標に 企画した。

主な内容

(1日目) 打楽器ワークショップ (演奏を聴く。打楽器を叩いてみる。アンサンブルしてみる。) (2日目) 打楽器ワークショップ (身の回りの物を叩いてみる。良い音を探してみる。リズムに乗る。) (3日目) 合同ワークショップ&リハーサル/合同発表会

アーティストから

見たこともない楽器や、音色に子どもたちは興味津々でした。 色々な楽器を知り、体験し、音楽の楽しさや奥深さを触れさせ ることが出来て良かった。

コーディネーターから

ただ楽器を鳴らすのではなく、子どもたちの身の回りにあるありふれた物を楽器にさせることで方程式にはない答えを出すことが子どもたちの創造性をより豊かにできると感じた。

先生から

今回、アーティストの方が用意して下さった珍しい楽器に触れる中で、自分の好きな音色を見つけたり楽器に対していろいろな疑問を持ったりする姿が見られました。そして、奏法や楽器の成り立ちなどをアーティストの方に教えていただくことによって、一人ひとり興味・関心を持って主体的に学習に取り組むことができたのではないかと思います。私としても「この子はこんな風に音楽を感じられるのか」と子どもたちの新たな魅力を発見することができてとても実りある活動となりました。ありがとうございました。

子どもたちから

まったく見たことのない楽器をさわらせてもらって、すごくうれしかったし楽しかったです。/神田先生がスイスに自分で行っていい音の鳴るカウベルを探してきたと言っていたことが印象に残りました。/アーティストの演奏がとても速くてとてもすごいと思いました。/もう少し練習する時間があったら、もうちょっと良い演奏ができたと思います。



上川井小学校 + サンハート ラテンのリズムを楽しむ

担当アーティスト やまもときょうこ (ラテンジャズボーカリスト)

実施校 横浜市立上川井小学校(旭区)

コーディネート 旭区民文化センターサンハート

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/ラテン音楽/全学年、6学級、155人

実施日程 2011 年 10 月 12 日



授業のねらい

ラテンのリズムを通して、音楽の楽しさやリズムの面白さを教える。特に、ラテン音楽の定番曲だけでなく、身近に聴いたことのある歌のラテンアレンジを披露したり、生徒と一緒に歌うことによって、音楽の新しい楽しみ方を発見してもらいたい。 (学校が朝礼で歌っている「今月の歌」や校歌のラテンバージョンを作って、生徒と一緒に歌う。)

主な内容

校歌と今月の歌 (WA になっておどろう) をラテンのリズムでアレンジして全員で歌う

アーティストから

職員の皆様の甚大なるご協力と、生徒の皆さんの鑑賞会への真っ直ぐな取り組みのお蔭で、楽しいひと時を過ごせました事を感謝いたします。体育館に座って、校長先生の話をきちんと聞いていた皆さんの姿を見て、自分の小学校の頃の事を思い出しました。きらきら輝く皆の瞳を見ていたら、私も気分がウキウキしました。一緒に、手拍子、歌拍子、楽器、ダンスといろんな事をやる事が出来ましたが、時間はあっという間にすぎた!という感じでした。もっともっと、沢山の音楽を聴いて、そして楽しんで貰いたかったとも思いました。

コーディネーターから

上川井小学校は、横浜市旭区の中でも、極めて自然が豊かな良

い環境に位置し、児童は大変伸び伸びと学校生活を送っているようだったが、中には文化的な経験が比較的少ない児童もいた。 そこで、先生との打ち合わせを重ねる中で、生演奏やセッションの楽しみを重視した授業を作りあげるというゴールを見出した。 やまもときょうこさんは、そのような面で最適であったと考える。 過去に小学校への訪問授業を多数重ねられた経験を活かし、児童に耳なじみのある校歌や今月の歌等をラテン風にアレンジして披露する事で、日常の中にあるラテンのリズムや、更には音楽の自由さ、楽しみを存分に演出できる授業となったのでは、と考える。

先生から

生演奏で音楽を聴く機会の少ない児童の多い学校なので、音楽の楽しさを味わってもらいたいという思いを持ってお願いしました。音楽鑑賞会ですが、一緒に歌ったり踊ったりと体験的なことや、編曲された校歌や今月の歌の曲を皆で歌うことで一体感を味わいながら参加していました。プログラム通りにはいきませんでしたが、児童の様子やこちらの希望を取り入れながら進めていただいたおかげだと思います。ありがとうございました。

子どもたちから

みんなで歌ったり踊ったり楽器で演奏したりして楽しかった。 全部の楽器の音がきれいだった。/すごく元気になれた。聴く だけではなく自分も歌う、踊るということでもっと元気になれた。



左近山第二小学校 + 子どもに音楽を ヴァイオリンを感じる

担当アーティスト | 漆原啓子 (ヴァイオリン)、林絵里 (ピアノ) | 実施校 | 横浜市立左近山第二小学校 (旭区) | コーディネート | NPO 法人子どもに音楽を | 実施科目・教科名 | 音楽 | 鑑賞型/クラシック音楽/5、6 学年、4 学級、90 人 | 実施日程 | 2011 年 7 月 20 日



授業のねらい

当初、学校側の希望は児童に体験したことのない楽器に触れさせることによって、音楽の楽しみ方を広げたいということだった。打ち合わせの折、「なかなか体験できない超一流の演奏を聴く折角の機会なので・・・」と説明させて頂いた。実際に現地へ伺ってしっかりお話しすることはとても大事なことと実感した。ただ活動するだけではなく、学校側の気持ちを汲みつつこちらの思いも理解してもらってこそ、より良い結果が出るのではないだろうか。

アーティストから

当日の学校側の対応から、色々な訪問者に学校、児童とも慣れていない感じがしました。演奏を聴く態度も消極的な感じがしましたが、きっと何か少しでも残ったりしてくれたら良いな、と思います。演奏しながら子どもたちに気持ちが届いているのか少々不安でしたが、このような活動は積み重ねが大事だと思います。子どもたちの心に、すぐの反応はなくても音のもつ魅力が届いていれば嬉しい。

コーディネーターから

担当の先生は打ち合わせを進めるうちにお互い理解をすることができたと思います。当日までピアノの調律を含め、お願いした準備をきちんとして頂くことが出来ました。曲目については1,2曲、子どもたちがよく知っているものを入れた方が良かったのか、とも考えましたが、それで子どもたちの反応が増したかどうか、子どもたちがどんな感想を持ったか、いつもより興味があります。

先生から

とても素晴らしい演奏でした。技術も素晴らしく、またストラディバリウスの音色を間近で聴くことができ、良い機会を持てたと思います。最初に曲の説明をしていただいたので曲をイメージして聴くことができました。バイオリンから聴こえてくる音域、響きなど一つの楽器からの音の広がりやバリエーションにびっくりしました。なかなかバイオリンの音だけを聴く機会がないので改めてオーケストラなど合奏での響き合いと違った音のおもしろさを感じました。「生」で見ることで演奏のすごさを肌で感じることができました。できれば子供たちの知ってる曲を演奏していただけると嬉しいです。素敵な演奏をありがとうございました。

子どもたちから

もう1回聞きたい。/思い出に残ったことは曲が良かった。一生の思い出になるかもしれない。/バイオリンの音が迫力あってすごかった。



白根小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 パーカッションを体験

担当アーティスト	松井イチロー(音楽家)
実施校	横浜市立白根小学校(旭区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目·教科名	音楽
実施概要	体験型/ラテン音楽/4 学年、3 学級、93 人
実施日程	2012年2月27日、3月5日、3月13日



授業のねらい

「白根小学校校歌」を、各クラス異なるリズムで演奏(歌を含む)してみることで、ラテンのリズムを体感し、自己表現することの喜びを体感できるようにしたい。また、最終日には「1/2成人式」という晴れの場で、保護者や他学年の児童に作品を発表し、人に聴かせることの難しさや喜びを感じ取る一方、他のクラスの発表を聞くことで同じ旋律であっても、異なるリズムで表現される違いの面白さを理解できるプログラムとする。

主な内容

(1日目) ラテンのリズムを感じてみよう 実際のラテンパーカッションの演奏を聴き、太鼓を触ってみる (2日目) ラテンのリズムをつくってみよう 各クラスごとにテーマをもってリズムを実際に演奏してみる (3日目) みんなの前で発表してみよう 1/2成人式の場でクラスごとの発表

アーティストから

授業が三回あったので、回を追うごとに、生徒が上達している のが確認できた。パーカッションは、コードやメロディーを覚 える必要がなく、すぐに演奏を楽しめるのが魅力である。今回 の体験で、世界にはいろんな楽器、そして音楽があることを知 り、興味の範囲を広げてほしい。

コーディネーターから

音楽の授業でストレス発散できたので、生徒も楽しかったと思う。4 年生の年齢だと、メロディーやハーモニーより、リズムの方に興味を示すので、音楽の授業が得意でない生徒にも有効ではないかと思う。

先生から

このプログラムを通し、子どもたちがいきいきと楽しく楽器を演奏する姿が見られました。普段の授業では、楽譜にそって決まったメロディーやリズムを演奏している子どもたちが、お気に入りの楽器を手に、思い思いのリズムで演奏しており、子どもたちが試行錯誤しながら、よりよいクラス合奏にしようとしている姿から子どもたちの実態に合ったよいプログラムだと思いました。プロの方からの言葉や披露してくださる演奏1つひとつに私自身も感動し、楽器を演奏することの楽しさを感じることができました。そして、子どもたちの思い出にのこる10歳を祝う会にすることができました。本当にありがとうございました。

子どもたちから

自分たちが演奏するジャンベを、講師の方が演奏するジャンベの音がちがく、プロの技に感動した。講師の方からのお話で、「夢はあきらめなければ叶う」という言葉を聞き、夢にむかってがんばろうと思った。



十日市場小学校 + 神奈川県立音楽堂パーカッションがやってきた

 担当アーティスト
 神田佳子 (パーカッショニスト)

 実施校
 横浜市立十日市場小学校 (緑区)

 コーディネート
 神奈川県立音楽堂

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/打楽器/全学年、795 人

 実施日程
 2011 年 10 月 31 日



授業のねらい

普段演奏会に行ったことのない児童が多いので、楽しいコンサートにすることを3者で確認した。

アーティストから

今回演奏をしてみて感じたことは、全校生徒対象の演奏会となると全員の興味を引くようなプログラムを組むのが難しい。ただし、全校生徒で「風になりたい」の演奏に参加した時の子供達の笑顔や躍動感を見ていると、全校生徒を対象にした演奏会の場合は、このような参加型の演奏会にした方が、子どもたちの自主性を引き出してくれるのではないかと感じた。

コーディネーターから

今回の企画を行ったことで、各小学校のニーズを的確に受け取り、その学校に必要な企画をオーダーメイドで作る必要があるのではないかと感じた。

先生から

地域的にもなかなか生の音楽に触れる機会がない子どもたちが多いので、見たことのない楽器や初めて聴く音をとても楽しんでいるようでした。カエルの形の打楽器や外国のおもしろい音の楽器を実際に演奏させていただいた子どもたちもいて、音やリズムを体で感じ取っている様子でした。全学年一緒に鑑賞しましたが、低学年も飽きずに聴くことができました。今後もこのように生の芸術に触れる機会があればぜひ参加したいと思います。

子どもたちから

「風になりたい」はみんなで足や手でたたきながらやって面白かったです。/ゴミ箱や新聞紙などで楽器みたいに演奏していた。/捨てるものでもメロディーは作れる。リサイクルした楽器があったらいいな。



山下小学校 + オフィスマキナ

声の魅力とその響き

担当アーティスト	山口佳子(ソプラノ歌手)
実施校	横浜市立山下小学校(緑区)
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型/声楽/4、5 学年、6 学級、170 人
実施日程	2011年11月7日



授業のねらい

音楽室で、間近で声楽の生演奏を聞き、その魅力と迫力を体験 することを目的とします。子どもたちがよく知っている曲も演 奏し、楽しく音楽が鑑賞できるようにします。

主な内容

鑑賞・歌唱指導

アーティストから

参加する子どもの人数にもよりますが、今日のような鑑賞 + 体験型のダイジェスト版という形は、子どもとの距離が近い音楽室で行うのが良いと感じました。「コンサートで感じたことをすぐに試してみる」という流れでしたので、子どもたちも聴いたままの声を素直に真似して出していました。みんなで歌う歌については、音楽専科の先生の選曲の良さもあったと思います。のびやかに歌っていました。

コーディネーターから

どちらの学年も、非常によく集中して聴いてくれました。歌だけでなくお話にも色々と反応を示して、それぞれがコンサートを楽しんでいる様子がわかりました。体験が20分だけでは、短すぎるのではないかと心配していたのですが、たとえ短い時

間であっても、講師と「一緒に歌う」という体験が大事なのだ と感じました。講師の指示をとても素直に受け止めて、一生懸 命歌っている様子が印象的でした。

先生から

山口佳子先生を講師に、声楽を学びました。学習に合わせて、 教科書教材や行事に向けての合唱曲など打ち合わせの中で希望 を伝えることができ、子どもたちの力につながるものになった と思います。地域の特性上、プロの演奏に触れる機会が少ない ので、感動も大きかったようでした。また、耳なれない外国語 の歌や物語のこと、声の魅力に気づいてきいている子どもたち でした。本当にありがとうございました。



阿久和小学校 + Media Global カリブの音色を感じよう(1)

担当アーティスト	珠(TAMAKI、Steel Pan 奏者)
実施校	横浜市立阿久和小学校(瀬谷区)
コーディネート	企業組合Media Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/打楽器/全学年、253 人
実施日程	2012年1月20日、1月27日、2月2日



授業のねらい

音楽鑑賞の機会が少ない児童もいる。今回のスチールパン演奏を身近に聴ける良い機会なので全学年鑑賞のあと、4 年生は体験とその後の2回のワークショップでいろいろな打楽器に触れ、即興で音で表現する体験をする。

主な内容

(1日目) スチールパンの演奏を全学年鑑賞 (前半) 4年生だけ実際に打楽器に触れる(後半)(2日目) スチールパンを学ぶ。全員スチールパンに触れ、音をだしてみる(3日目) 即興表現。いろいろな打楽器に触れる 奏法など体験し、音で表現する

アーティストから

今回も全校でのスチールパン鑑賞、喜んで頂けました。校歌は 先生方にもとても喜んで頂き、児童も大きな声で歌ってくれま した。2回目はスチールパンについて学びました。現地の演奏 映像を鑑賞、全員スチールパンに触れて音階などを体験。3回目は4拍子2小節のリズムを各班で作り、サンバのリズムに合わせながら、班ごとにソロ回し。言葉からリズムを作ったので、

リズムを簡単に作れました。各班のオリジナリティー溢れたリズムや掛け声が出て、笑顔いっぱいの授業でした。

コーディネーターから

スチールパンという子どもたちにあまりなじみのない楽器を知り、実際に触れてもらおうと考えたプログラムでした。アーティストの協力があり実際に音を出せたことは対象学年の4年生のみなさんに音楽を楽しんで体験できたと思っています。先生方からも同様のご感想もいただいています。

先生から

音楽科の主題「様々な発想をもって即興的な表現しよう」で4 学年の学習をお願いした。主に使用したスチールパンは、珍し い楽器である。一回目に全校生に聴かせていただきスチールパ ンの音色に魅力を感じた。4年生の授業では子供たちにスチー ルパンを演奏させてくださり、大いに満足することができた。 また中心の講師が教師経験のある方で、子どもたちの心をひき つけた。来年度は様々なリズム遊びや即興的な演奏に発展させ ていただけたらと考える。



瀬谷さくら小学校 + Media Global カリブの音色を感じよう (2)

担当アーティスト	珠(TAMAKI、Steel Pan 奏者)
実施校	横浜市立瀬谷さくら小学校 (瀬谷区)
コーディネート	企業組合Media Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/打楽器/全学年、460人
実施日程	2011 年 9 月 15 日、9 月 22 日、10 月 5 日

授業のねらい

スチールパンの演奏を身近に聴ける良い機会なので1時限を全学年鑑賞とする。4年生は実際にスチールパンに触れる体験とその後の2回のワークショップでいろいろな打楽器を演奏してみる。 リズムの違いを学び合奏する楽しさを体験する。

主な内容

(1日目) スチールパンの演奏を全学年鑑賞 4年生だけ実際にスチールパンを叩いてみる(2日目) いろいろな打楽器に触れる 実際に音を出してみる リズムを楽しく学ぶ(3日目) 課題曲パート別打楽器の練習 課題曲を合奏する

アーティストから

全体の演奏では、子ども達の目がキラキラしていた事、今までに聞いたことの無いような大声で校歌を歌って頂けた事、先生方がご協力下さって演奏と一緒に歌を歌って頂けた事がとても心に残っています。学校全体が1つになった感じがしました。4年生の授業では、3拍子と4拍子の違いを取り入れながら、いろいろな打楽器や合奏の楽しさなどを伝えることが出来たと思います。児童も真剣に取り組んでくださいました。感謝しております。

コーディネーターから

4年生のみなさんは数々の打楽器に興味を持って快活に3回のワークショップ体験を通して音楽の楽しさを感じてもらえたと思っています。演奏会は先生方の歌も入り大変盛り上がりました。振り返りで、大きな声で校歌を歌う児童のみなさんの表情は先生方にも驚きのようでした。

先生から

スチールパンは日本ではあまり知られていない楽器である。しかし1時間目の演奏会でその響きの美しさとプログラムの楽しさに全校異動はすっかり心を奪われ、のりのりになって鑑賞することができた。4年生のワークショップでも珍しい楽器の演

奏やリズムアンサンブルに目を輝かせて取り組んでいた。生演奏の迫力とプロの方々のカッコよさに触れた子どもたちは音楽に対する興味・関心を広げただけでなく、キャリア教育としても貴重な体験の場となった。よいプログラムを提供していただきありがとうございました。



子どもたちから

ドラムカンでできた楽器を見てびっくりしました。ドレミファソラシドができるのがすごいと思いました。/自分で叩いてみたらきれいな音でした/。初めて見た楽器に驚きました。スティールパンは音を聴いたらすごくやわらかい音で楽しかったです。/プロの演奏家がすぐ目の前で楽器を弾いてくれたので「かっこいいなあ」と思いました。/スチールパンの演奏を聴いたら、やさしくたたいてるのに大きな音が出たのですごいなと思いました。



桂台小学校 + 横浜市芸術文化振興財団

ゴスペルの体験(2)

担当アーティスト 城田有子 (ピアニスト/歌手/作曲家/編曲家/プロデューサー)、河原厚子 (歌手)
実施校 横浜市立桂台小学校 (栄区)
コーディネート 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/ゴスペル/5 学年、2 学級、67 人
実施日程 2011 年 10 月 26 日、10 月 28 日、10 月 29 日



授業のねらい

身体をいっぱいに使って、声を出す心地よさを感じながら、クラスで1つの作品をつくりあげる過程を体験し、表現することの楽しさや音楽の豊かさを感じます。歌う曲は『アメージンググレース』。高学年になると苦手意識を持ちがちな「歌う」ことを、英語の歌詞を使うことで払拭していきます。また、各クラスの個性を発揮したアレンジに取り組み、最後にお互いのクラスの曲を聴きあうことで、音楽の持つ魅力に気づくことも目標とします。

主な内容

(1日目)声を出すことへの抵抗感をなくすための練習をする、歌う曲の意味を知る。(2日目)クラスごとにアレンジを決めて、3日目の発表に向けて練習をする。(3日目)リハーサルを行い、オープンスクールにてクラスごとに発表を行う。

アーティストから

毎年楽しみにしている桂台小学校ですが、今年も感動の3日間でした。今年の5年生もみんな澄んだきれいな目の子供たち!アッという間に打ち解けて、アッという間に《Amazing Grace》を歌い出し、溢れるようにアイディアが飛び出しました。1組も2組も奇想天外だけれど、曲の意味をきちんと表現した素晴らしいパフォーマンスとなりました。そして、彼らのアドリブの発言、気の利いたコメントにも驚きの連続でした。桂台の熱い・厚い先生方のご指導に心から感謝いたします。

コーディネーターから

講師が活動当初から子どもたちの緊張をほぐし、子どもたちの自由な発想を歓迎していました。活動中は常に子どもたちの笑顔が絶えず、自主的・積極的に自分たちの表現を考え挑戦する姿が見られました。発表会では緊張した子供も見受けられましたが、先生方の最初の発表に心ほぐされ、リハーサル以上の発表ができたと思います。終了後先生を筆頭に、たくさんの子どもたちが達成感に満ち溢れ感極まって泣き出してしまいました。号泣の子どもたちに囲まれた講師、父兄や先生も、満足感を感じたことと思います。

先生から

私自身2回目のプログラムでしたが、子どもたちがその時その時で作りあげていくものがこんなにも違うものかと驚いた。それは先生方が目の前の子どもたちの実態をすぐにつかみ、その子どもたちの特性を生かしてくれているからだと思う。また、たった 2・3 回で子どもたちが集中していく姿も見られ、普段とも違う一面が見られた。これからもプロの生の声、指導を続けていってください。

子どもたちから

本番せいいっぱい頑張れたので、とてもよかった。/自分のアイディアを入れてくれたりしたことがうれしかった。/先生方が楽しくて分かりやすかった。



上郷小学校 + リリス 身近に楽しむ音楽(1)

担当アーティスト tomoko(シンガーソングライター)
実施校 横浜市立上郷小学校(栄区)
コーディネート 栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/音楽/5、6学年、6学級、198人
実施日程 2011年12月5日、12月6日、12月15日



授業のねらい

プロのアーティストの音楽にかける気持ちや演奏の良さを身近に感じ、音楽の良さや楽しさをあじわう体験。発声の仕組みを学び、気持ちよく声を出す方法を知ることにより、自己表現する楽しさを再発見する。また、バンドの演奏を通して、ジャズやラテンなど様々なジャンルのリズムを体感。具体的な楽器の役割を学び、音楽の基礎的な構造を楽しく理解できるプログラムとする。

主な内容

(1日目)発声練習も含む歌のワークショップ (2日目)楽器体験を含む楽器のワークショップ (3日目)共演プログラムを含む音楽鑑賞

アーティストから

対象が 5、6 年生と高学年だったこともあり、少し難しい話も 熱心に聞いてくれた。楽器体験などを通して、音楽というもの はいくつもの要素(ここでは個々の楽器の役割)が混ざり合っ て出来上がっていることを伝えられたと思います。純粋で、多 感な時期に音楽を通してコミュニケーションすることは非常に 有意義だと思う。ただ、興味を持ってくれた子どもたちが大勢 いたので、ワークショップの最後に、児童と直接コミュニケー ションをとれる時間があると更によいと思う。

コーディネーターから

この学校は三度目ということもあり、先生方もとても慣れていて非常に助かりました。今までとは異なるジャンルでしたが、 先生とアーティストが直接打合せをしたことで、お互いの希望と実現可能な内容のすり合わせができました。体験型では特に事前の打合せと先生の提案が重要だと改めて感じました。親密な雰囲気の中、子どもたちが直接アーティストと交流することができ、音楽の楽しさを実感できるとても有意義な時間だったと思います。

先生から

tomokoさんのバンドにワークショップとコンサートをしていただきました。通常の授業では、あまり触れることのない楽器や音楽に身近に触れることができました。低音・和音・旋律・リズムの役割についてもお話くださったのでそういう面からも大変有意義でした。ありがとうございました。

子どもたちから

ベースの音が体に響いて感動しました。/楽器の仕組みなどを 教えてもらったことが思い出になりました。/最後の最後まで しっかりとした音で心がしびれた。



小山台小学校 + リリス 身近に楽しむ音楽(2)

担当アーティスト	tomoko (シンガーソングライター)
実施校	横浜市立小山台小学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/音楽/3、4学年、2 学級、55 人
実施日程	2011年9月2日、9月16日、11月29日

授業のねらい

プロの歌手の指導のもと、歌う楽しさ、声を出す喜びに気付けるようなワークショップを行う。2 日目にはバンドメンバーも参加し、楽器体験なども予定。普段触れることのないプロの音楽を通して、自己表現する喜びを発見することを目標とする。なお、三日目には全校生徒の前でコンサートを予定。その際に、ワークショップで指導を受けた楽曲を披露する。

主な内容

(1日目)発声練習も含む歌のワークショップ(2日目)楽器体験を含む楽器のワークショップ(3日目)共演プログラムを含む音楽鑑賞

アーティストから

子どもたちと接する機会があまりないため、子どもたちの素直な反応に勉強させられることも多く、とても有意義なひと時でした。楽器体験や、発声練習も興味津々で参加してくれたので、とてもやりやすかったです。 小学生という多感な時期に楽器それぞれの違いや特性・魅力を目の前で体感できる機会は非常に貴重ですばらしいことだと思います。 3 日間にわたって交流をもった 3、4 年生には、またぜひ再会したいです。

コーディネーターから

初めてお伺いする学校でしたが、先生方の積極的な協力のおかげで、とてもスムーズに開催することができました。内容については、先生の希望をアーティストが消化する形で、具体化していったので、有る程度希望に沿うものが実現できたと思います。3日間の体験型ということで、1日の鑑賞型とは違い、子どもたちとアーティストの直接の交流ができ、会場は非常に親密な雰囲気でした。ただ、体験型は鑑賞型よりも時間配分が難しく、その点をどうマネジメントしていくかは、今後の課題だと思います。

先生から

美しくパワフルな tomoko さんの歌声と曲を引き立てるバンド の演奏は子どもたちを音楽の世界に引き込みました。そして tomoko さんは伝えたいことを持つ大切さ、伝える喜びを子ど もたちに切々と訴え、子どもたちもそれをしっかり受け取ることができました。tomoko さんのお力だと思います。また、事前にアーティスト・コーディネータ・教員で打合せを1時間あまり行い、本校の児童・教師の願いをくみ取っていただいたからこそだと思っています。

子どもたちから

「すきさすきさ」を一緒に歌ったことが思い出。/とてもリズムにのれて楽しかったのでまた来てほしい。/英語の歌ばかりで歌詞がわからなかったけど、歌の雰囲気がわかったので音楽ってすごいと思った。/楽器体験がおもしろかった。





実施日程

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

千秀小学校 + 子どもに音楽を ヴァイオリンに親しむ

 担当アーティスト
 松山冴花(ヴァイオリン)、津田裕也(ピアノ)

 実施校
 横浜市立千秀小学校(栄区)

 コーディネート
 NPO 法人子どもに音楽を

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/クラシック音楽/全学年、6 学級、190 人



授業のねらい

全学年に聴かせたいという学校側の希望により体育館での実施を念頭に打ち合わせに伺ったが、体育館のピアノがアップライトということで、急遽音楽室での実施に変更した。「何とか全校児童に!」という先生の熱意に答えたいということで、低学年20分、高学年40分のプログラムを組むことにした。

2011年11月14日

アーティストから

アウトリーチに参加させていただきありがとうございました。また、是非弾かせてください!子ども達の素直な反応がとても嬉しく印象に残りました。特に「ヴァイオリンってどうしてそんなに良い音がするのですか?」という低学年の男の子の質問には感動しました。純粋無垢な心を持つ子ども達の前で演奏する事は演奏者にとっても音楽に対して純粋であることの大切さを教えてくれる気がしました。素敵な機会を頂いてありがとうございました。

コーディネーターから

とても気持ちよく活動できました今回は低学年と高学年に分け て活動しましたが、高学年になると恥ずかしいという思いが強 くなるのか質問の数がぐっと減りますが、心の中には印象が強 く残ってくれることを念じています。

先生から

先日は貴重な機会を提供していただきまして、ありがとうございました。日本国内はもとより、海外でも広く活躍されている演奏家を招いて鑑賞会を実施できるなんて思ってもみませんでした。演奏される方の息づかいを感じ、子どもたちは五感で味わい感動していました。

子どもたちから

また来て欲しいです。/すべて暗記していてすごいと思いました。/素晴らしい演奏をもとにして合奏などでいかしたいです。



豊田小学校 + 横浜こどものひろば 手作りシェーカーでラテン音楽会

担当アーティスト	古川はじめ、あらたに葉子、上村純(東京カンソン)
実施校	横浜市立豊田小学校(栄区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目·教科名	音楽
実施概要	体験型/ラテン音楽/4 学年、3 学級、110 人
実施日程	2011年11月8日、11月17日

授業のねらい

芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく能力を育てる。学びの基礎づくりの中で発揮すること、コミュニケーション能力の育成など豊かな感性を育てる。

主な内容

(1日目)各クラス毎にラテン音楽で使用する楽器の紹介と、 リズムを紹介し、生徒全員が自分のシェーカーを作る。(2日目) 3クラス合同の音楽会、作ったシェーカーを使ってのリズム遊び。クラス毎に楽器に触れ、音の出し方等を出演者から教わる。

アーティストから

ワークとコンサートの二回行うことで、ラテン音楽とその楽器を関連付けながら説明することが出来たと思う。特に、ラテンパーカッションは、学校にもあるが、馴染みが少ないらしく、その本格的な奏法を見聞きした子どもたちの驚きが新鮮だった。ワークでは、クラス別で行い、一人一人に楽器の音を多角的に聴かせることが出来た。コンサートでは、ラテン音楽を紹介することに主旨を置いたため、やや固い雰囲気も感じられたので、本来の「音楽は楽しい」という事との両立が、今後の我々の課題と考える。四年生に限らず今後、五、六年生でも行ってみたい

コーディネーターから

パーカッショニスト古川はじめのラテンリズムへの情熱のこもった楽器とリズム紹介で今回のワークショップと、生徒自身の手作り楽器を使った音楽会の幕が開いた。古川自身幾つかの手作り楽器を試作し、プラスティック容器を使用したシェーカーに行き着いたと話していたが、中に入れる材料は米、小豆等6種類を用意し生徒たちが自分の音を選んで作れるように配慮されていてよかった。音楽会はあらたに葉子の歌が素晴らしく、校長先生はじめ先生方も感動させ、生徒たちのカラダにラテンのリズムが一瞬でも残ってくれた様に感じた。

先生から

今回は2回来校していただき、世界の音楽(ラテン音楽)を指導していただき、子どもたちに生で音楽の良さが伝わったと感じました。身近な教材をアレンジして当日演奏してくださったり、手拍子でリズムを感じることができたりということがとてもよかったです。また実際に楽器を作ることによって楽器の音の鳴り方の良い音を見つける作業もできました。

子どもたちから

たのしかった。/アーティストの方々の歌声や演奏に拍手が自然とおこりました。







あざみ野第二小学校 + フィリアホール アンサンブルの魅力と楽しさに触れる

 担当アーティスト
 五田詩朗 (パーカッショニスト)、那須亜紀子 (ヴァイオリニスト)、齊藤直樹 (コントラバシスト)、渡邊 梓 (ピアニスト)

 実施校
 横浜市立あざみ野第二小学校 (青葉区)

 コーディネート
 青葉区民文化センターフィリアホール

 実施科目・教科名
 総合的な学習の時間

 実施概要
 鑑賞型/音楽/全学年、573 人

 実施日程
 2012 年 2 月 21 日



授業のねらい

開校 30 周年記念事業のひとつ。生徒だけではなく、教職員、 保護者 や地域の方々にも音楽を楽しんでいただく。生のアンサンブル演奏へのふれあいを通して、音楽をする喜びや楽しみを 演奏家と共有し、一つのことに集中して取り組む意義・価値に 気づき、一人ひとりの感性に基づく自由で感情豊かな表現力や 潜在する可能性を伸ばす。学年別に実施することにより、年齢 に応じた最適な取り組みを実現する。

主な内容

《クラシック音楽でのアンサンブルの魅力と楽しさに触れる》 モーツァルト:トルコ行進曲(室内楽)、バッハやモーツァルト のメヌエット(ヴァイオリンとコントラバス)、モンティ:チャ ールダッシュ(ヴァイオリン紹介)、シューマン:献呈(ピアノ ソロ)、ピアソラ:キーチョ(コントラバス紹介)、ビゼー:カ ルメン組曲(打楽器紹介)、チャイコフスキー:くるみ割り人形 組曲(室内楽)、あざみ野第二小学校校歌(團伊玖磨 作曲)※ 全員で歌う。

アーティストから

低学年から集中して聴いて、学年が上がるにつれて表面的な反

応は少なくなったが、それぞれの感性で受け止めている様子だった。 興味を広げるきっかけになってくれたらよいと思う。 クラシック音楽の演奏者として、普段の演奏会とは違った生の触れ合いの場に臨めたので、貴重な勉強の機会となった。

コーディネーターから

当初は音楽室での実施を予定していたことや、楽器編成が特殊だったこと、低学年から高学年までの3クラス分などの理由で、プログラム制作は思っていたより苦労した。文化レベルの高い地域の小学校ということもあり、子供たちの反応、手ごたえはとても良かった。先生方も忙しい中ご対応いただいたが、もう少し事前の情報交換など、コミュニケーションをこちらからも積極的に取れたら、さらに実りのある取り組みになったと感じる。

先生から

事前の打ち合わせから細かい話ができて良かった。/生演奏が 聞けて良かった。



荏子田小学校 + 横浜市芸術文化振興財団

音楽と心

担当アーティスト	森美紀子 (ジャズシンガー)
実施校	横浜市立荏子田小学校(青葉区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目·教科名	音楽
実施概要	体験型/ジャズ/4 学年、3 学級、95 人
実施日程	2011年11月17日、11月28日、12月1日



授業のねらい

歌やアーティストの体験談を通して、「生まれてきた生命の大切 さ」や「自分や家族、周りの人を大切にする心」を育てる。仲間とともに活動することで一体感を味わう。これらの体験を通 して、生まれてから 10 年間、今日までの成長に感謝し、未来 の自立した自分への希望を抱くことにより、1 月に行う「2 分 の1成人式」を立派に成し遂げたいと考える。

主な内容

(1日目)課題曲アメージンググレースの歌詞と基本のメロディを覚える。歌の背景を知り、こめられた意味を理解する。(2日目)課題曲について、クラスごとに選択した4種の異なるリズムで歌うことをマスターする。(3日目)①3クラス合同発表会、②サウンド・オブ・ミュージックの朗読ミニコンサート

アーティストから

在子田小学校4年生の授業をして3年目になりました。毎年、生命と平和をテーマに同じ曲の指導をして参りましたが、今年度は大きな災害の後で子供達の意識も高く、届いた感想文は4年生とは思えないような素晴らしいものでした。2分の1成人式の招待状が届き、今年も出席させて頂きました。校長先生はじめ先生方も前向きで、私も手応えを感じています。以前は、ただ大人になったらこういう職業につきたいといった発表だけだったとの事ですが、今は、如何に成長できるか、周りの人達

に思いやりを持てるかよいう形に変わって来たとの事で、短時間の授業が少しなりとも子供達の心に残り、お役に立てているなら、こんなに嬉しい事はありません。こういう機会を与えて下さって、感謝しています。ありがとうございました。

コーディネーターから

今回のクラスは歌声がきれいで合唱の基礎力がある印象でしたが、歌に込められた意味を理解し、また一つの歌を様々なリズムで歌い分けられることを知り、音楽の楽しさを体感していたように思います。担任の先生、音楽専科の先生も積極的に参加してくださり、子どもたちと一体となっていたことで、子どもたちにとっても濃度の濃い時間となっていました。

先生から

森先生から音楽の楽しさはもちろん、その背景にある「戦争」「人種差別」と行ったテーマの話を聞くことで、命の大切さについて考えることができました。子どもたちは、真剣に受けとめ、友だちへの言葉の使い方や、関わり方に着いても改めて考え直すいい機会になりました。音楽を通して先生の人がらにも触れることができ、歌に気持ちを込めて発表することができました。ありがとうございました。



川和小学校 + オフィスマキナ ジャズのアドリブを体感 (2)

 担当アーティスト
 ユキ・アリマサ (ジャズ・ピアニスト)

 実施校
 横浜市立川和小学校 (都筑区)

 コーディネート
 株式会社オフィスマキナ

 実施科目・教科名
 音楽

実施概要 鑑賞型/ジャズ/5 学年、2 学級、75 人

実施日程 2011年12月7日



授業のねらい

子供にとってなかなか聴く機会のないジャズを鑑賞します。本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験します。音色や奏法など、楽器についても学びます。また、子どもたち自身も楽器を持って、実際にアドリブを体験します。お互いに聴き合いながら自由に表現する楽しさと、バンドと一緒に演奏する喜びを味わうことを目的とします。

主な内容

講師による演奏鑑賞・音作り体験

アーティストから

とても積極的に参加してくれる子どもたちでした。間違いはないから自分自身で感じて、自分で考える、ということに一生懸命取り組んでくれたと思います。5年生での実施ということもあり、子どもたちがこちらの投げかけたことを「理解して」反応しているのがよくわかりました。横浜市のプログラムでは初めて実施した1回のみのWSでしたが、「音楽の雰囲気を作る」「思いついたことを自由にやってみる」というエッセンスは体験してもらえたのではないかと思います。

コーディネーターから

専科の先生が普段の授業で様々な楽器を取り入れていらっしゃ

るようで、子どもたちがすぐに楽器を選び、ぱっと音を出していて驚きました。また、手を挙げて演奏には参加しないけれど、じっと耳を澄まして聴いている子どもたちも印象的でした。1回型のWSでも、子どもたちの新鮮な音楽体験となりうると強く感じました。

先生から

5年生の子どもたちは前期の授業で「音楽に仕組みを生かし、 見通しを持って音楽をつくろう」の主題で雨の音楽をつくる活動を行い、いろいろな音表現ができることや友達の音を重ね合わせることの楽しさを学びました。今回のジャズ鑑賞ではプロの方たちの演奏によるドラムのリズムやコントラバスのベース音、ピアノのバッキングが子どもたちの創造力をさらに掻き立てたように思います。ジャズの魅力はもちろんのこと音楽は自由であることに驚きと共感を持って親しむことができたのではないかと思います。来年も可能ならばぜひお願いしたいと思います。本当にありがとうございました。

子どもたちから

まさかジャズがそのときに考えたことを演奏しているとは思わなかったのでびっくりしました。/いろんなものの表現がわかってよかった。/ドラムを菜箸でたたいても音楽を作ることができてすごかった。/音楽も本のようにいろいろなことが想像できるのだなと思った。



本郷特別支援学校 + よこはま音楽広場実行委員会 ラテン音楽を楽しもう

担当アーティスト 松井イチロー (音楽家)、鈴木タケオ (ドラムス&キーボード)
実施校 横浜市立本郷特別支援学校 (栄区)
コーディネート よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/ラテン音楽/中学部学年、7 学級、40 人
実施日程 2011 年 11 月 4 日



授業のねらい

楽器を演奏する経験をもつこと。リズムを感じながら打楽器を叩くことによる自己表現を促すこと。「聴く」ことと、「音の創出」といったさまざまな音楽体験をすること。

主な内容

打楽器の鑑賞と演奏体験によるワークショップ

アーティストから

今回の特別支援学校では通常のプログラムでいいのだろうかと 悩みましたが、やってみれば皆さん笑顔!それぞれの表現で楽 しめたことがこちらに伝わってきました。今回は言葉で説明す るよりも実際に太鼓の音を聴いてもらうこと、そして触れても らうことに重点をおきました。音楽に言葉は要らない、改めて 音楽の力を実感しました。残念だったのは学校側に準備して頂 いたマイクの調子が悪かった事。ピアニカで奏でたドラえもん やディズニーが届けば一層盛り上がったのではと思いました。

コーディネーターから

今回は特別支援学校ということでアーティストの方に言語の説 明や楽器の提示に工夫をして頂きました。先生方にもかなり介 入して頂き、生徒一人一人のペースが尊重されたことは、存分に表現する機会に繋がったと思います。人数が多かったため、 リズムに乗れる生徒は自発的に参加していましたが、音刺激に 強い生徒や障碍により主体的な参加の難しい生徒への細かいフォローについては今後の課題になってくると思われます。

先生から

音に対して敏感な生徒が多数いるため、どのような反応を見せるのか正直不安が多かったです。しかし、打楽器の音が体の中に響いて来るのが、心地よかったのか、体育館から出て行ってしまう生徒はほとんどいませんでした。アーティストの方の生徒を上手にのせてくれる話し方や興味をひく見せ方などで本当に生徒が目をキラキラさせて楽しそうにしている様子が見られました。また本物の楽器に触れられたり、ドラムの迫力を間近で見られたりと貴重な体験もでき、"生徒参加型"が素晴らしかったです。今後は今回と同じようなパターンで異なる楽器のバージョンにも参加できたらいいと思いました。

子どもたちから

太鼓楽しかったです。/太鼓をまた叩きたい。/「上手」とほめてもらえて嬉しかった。



くぬぎ台小学校 + 横浜シティオペラ

オペラへの好奇心(1)

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	横浜市立くぬぎ台小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型/オペラ/全学年、6 学級、164 人
実施日程	

授業のねらい

マイクを使用しない生の演奏を聴いてもらい、歌でお芝居をするオペラを鑑賞してもらう。

アーティストから

全学年でも 164 名という少ない児童数なせいか、とてもまとまりも良く素直に反応してくれて、演奏していても楽しかった。

コーディネーターから

事前に打ち合わせに伺った時に、校長先生よりオペラを知らない児童達がほとんどと伺い肩の荷を感じた。本番が終わり、後日感想文が送られてきた。その中には、子ども達の感動あふれたメッセージがありとても嬉しかった。

先生から

今回の活動の中で一番印象に残ったのは公演後の劇団員の方々と児童との質問コーナーでした。ひとつひとつていねいに応えて下さっただけでなく、子どもたちに対して「自分が好きなことを一生懸命続けることの大切さ」を語ってくださったことは児童にとってとても印象に残ったようです。



今宿南小学校 + 横浜シティオペラ

オペラへの好奇心(2)

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	横浜市立今宿南小学校(旭区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目 • 教科名	音楽
実施概要	鑑賞型/横浜シティオペラ/全学年、274人
実施日程	2011 年 12 月 12 日

授業のねらい

生の音楽演奏を身近で聴いてもらい、クラシック音楽の素晴らしさを感じたり、興味を持ってもらいたい。

アーティストから

児童達の鑑賞態度はとても良く、楽しい場面では笑いも起きた。 喜んでもらえて嬉しかった。

コーディネーターから

「オペラ座の怪人」の曲を6年生が合奏し、それに合わせて衣装も変えて、ソプラノとバリトンが歌った。とても素晴らしい演奏に、児童や先生、私達も感動した。

先生から

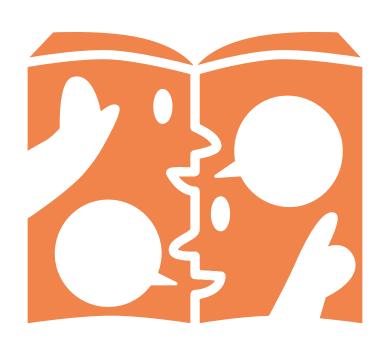
子どもたちの食い入るような生き生きと輝いた目が忘れられません。横浜シティオペラの方に学校独自に色々なお願いをしてしまいましたが、それ以上に準備をして下さり、とてもありがたかったです。お願いしたことは ①オペラに全校児童が歌っ

て参加すること。②6 年生の合奏「オペラ座の怪人」に合わせて歌っていただくこと の2つでした。子どもたちがオペラ歌手の方々と共演して間近で迫力有る歌声に触れられたことは貴重な体験だったと思います。私自身も、とても感激しました。終わった後の質問タイムでも、どの学年からも手が挙がり、時間の限りまでたっぷりお答えいただきました。このような機会が得られて、とても幸せに感じています。ありがとうございました。

子どもたちから

すごく気持ちよく歌っていたり、きれいな声で劇をやっていてかっこよかった(1年)/ピアノの人の手の動きがすごく早くてびっくりした(2年)/衣装が厚みがあったり、着るのが大変そう(3年)/野球をやっているので、大きな声の出し方をまねしたい(4年)/人を楽しませるための一生懸命さが伝わってきてすごく楽しかった(5年)/音楽の授業で学習している「オペラ座の怪人」の合奏に合わせて歌ってもらえて、緊張したけど、とても嬉しかった(6年)

演劇分野の取り組み



自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。 学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。



坂本小学校 + Media Global パペットをつくる、演じる(1)

担当アーティスト	中村信子(人形劇俳優・美術家)
実施校	横浜市立坂本小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	企業組合Media Global
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型/パペット/3 学年、3 学級、80 人
実施日程	2011 年 10 月 25 日、11 月 1 日、11 月 8 日

授業のねらい

製作したパペットを通して子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力の向上を目標とする。練習の成果は 12 月の学習発表会で保護者へ公開する。

主な内容

(1日目)パペット人形制作(2日目)パペット操演① 講師 と一人ずつ会話形式で自分らしく表現する(3日目)パペット 操演② 班に分かれテーマに沿って寸劇を作る

アーティストから

坂本小学校では、もう4年間もお世話になっていますが、学校の行事などでもパペットが活用されているとのことで、大変嬉しく思っています。この授業では、人形劇の技術習得というより、表現を実体験することで、自分の中にある「たのしい」「うれしい」「面白い」を発見して頂くことが狙いでした。様々な子ども達の様子を観て私達も勉強になりました。また、他の人たちに観てもらう為のマナーや、観る側のマナーも心に刻んでおいて欲しいです。

コーディネーターから

今年度は通常に各 2 時間 3 日間で実施しました。継続校でもあり先生方も意欲的に取りくんでいただいており、過去実施の他学年でもパペットを全校行事などに取り入れ活用されています。年数が経っても子どもたちがパペットを大切に身近に持っていて活用していると聞いてうれしく思いました。

先生から

最初、戸惑っていた様子の子どもたちもアーティストやコーディネーターの方の優しくて、熱心なご指導のおかげで、活動の最中は、笑顔が途切れませんでした。特に、自分の手でパペットを作り上げることができた時、グループで簡単なストーリーを考えて思いや願いを込めてパペットを操作できたときは、一人ひとりの子ども達の横顔が、アーティストのそれに変わっていて、大変うれしく思いました。どうも、ありがとうございました。







深谷小学校 + アートの時間

みんなでつくる演劇

 担当アーティスト
 柏木陽 (俳優・演出家)

 実施校
 横浜市立深谷小学校 (戸塚区)

 コーディネート
 アートの時間

 実施科目・教科名
 総合的な学習の時間

 実施概要
 体験型/演劇/3 学年、2 学級、42 人

 実施日程
 2011 年 11 月 10 日、11 月 24 日、12 月 8 日



授業のねらい

自己表現する力を育むためのきっかけとする。このプログラム を通して、自分や友達の新たな一面に気づき、お互いの理解が より深まることをめざす。

主な内容

(1日目)身体で「物」の形をつくる:講師とコミュニケーションととるとともに、ゲームを通して演劇ワークショップのルールを伝える。(2日目)表現の工夫:1日目で決定したテーマをシーンに分け、グループごとに表現してみる(3日目)表現を深める:メインのシーンを強調するために、その前後のシーンを加えつなげていく。互いに見せ合う。

アーティストから

「あの子達がもめるところを初めて見た」という先生からの感想が印象的でした。子供たちがただ楽しく感じるだけで終われることも時には必要かもしれません。しかし誰かと関わること、共になにかを創り出そうとすることは、「楽しい」だけでないように思うのです。 譲れないこだわりがあってぶつかったり、まったく違う他者の意見に耳を傾けたり、その違うアイディアを楽しいと感じられたり、こうやりたいのに上手くいかなくて悔しい、どうやったらいいんだという子供たちの様子から、誰か(共演者・観客←普段関わる人々)と関係を築くことに対するポジティブさを感じられて、よい時間となったように思えました。

コーディネーターから

このプログラムでは、3分、1分と時間を決めて、グループごとに動きを作るという作業を何度も繰り返します。短い間に、アイディアを搾り出さねばならず、それを友達に伝え共感を得なければならず、反対の意見も聞かねばならず、さらに、観る人にわかってもらえるように表現に工夫をしなくてはならない。高度です。モチモチの木の劇で追い込まれた「せっちん」役がしゃべりだした時は驚きましたが、そのセリフがぴたりとはまりました。そんな奇跡が幾つも起こることが、このプログラムのなによりの面白さです。

先生から

子どもたちが生き生きと目を輝かし、アーティストの先生方の 言動に聞き入り指示に従って自分らしく行動する姿がとてもほ ほえましく感じました。初回のだるまさんが転んだのルールで は、子どもたちの動作の変化が体育の表現活動と似ていると思 いながらも、自然に楽しみながら動き、創造性豊かに表現でき ている学習は、活動の指導法などが大変勉強になりました。3 回目のモチモチの木をグループで表現するための活動では、子 どもたちが自分の考えを積極的に出し合う、動作することを重 ねながら、より良い物を作って行く姿は、とても感動的でした。 このアートの時間に狙っていた、自分の思いや考えを声に出し て、伝え合うことを十分に満足させていたのではないかと思い ました。/教師側の狙いと講師側の狙いが一致することが難し い場面があり、教師がどこまで支援したらいいか迷うところが 多かった。プログラムの狙いをもう少し明確にするとさらに良 いちのになると思う。

子どもたちから

最初は緊張したけど3回やってなれたし、もうできないのが悲しくなりました。/僕は大声を出した方がおもしろくて楽しくなることを知ったから他の授業でもたくさん発言して大きな声をできるだけ出したいです。/自分が心の中で本当に思ったときに手を上げたり、大勢の前でしゃべることが少し好きになった。



上大岡小学校 + 急な坂スタジオ

妖怪のいる空間

担当アーティスト	武田力(俳優)
実施校	横浜市立上大岡小学校(港南区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間・国語
実施概要	体験型/演劇/5 学年、2 学級、59 人
実施日程	2011年9月27日、9月28日、9月29日

授業のねらい

- ・ 妖怪絵を題材とし、そこから持った自分のイメージや感覚を相手に伝える。その際、"説明するための言葉や身体"で伝えるやりかたと、"感じさせるための言葉や身体"で伝えるやりかた。その2つを意識的に行い、違いを認識する。
- ・日々なにげなく過ごしている学校内の空間を意識的に認識し、 自分が持ったイメージや感覚を"相手に感じさせる"という観 点から言葉や身体を使い、その空間を再構成する。
- ・ 上記、"説明するための言葉や身体" "感じさせるための言葉 や身体" の使い分けが可能ならば、それは生活における様々な 場面において表現を広げることになるだろう。そのことに気付 かせ、今後の活動に生かしてもらいたい。

主な内容

(1日目)水木しげる氏の妖怪絵を子どもたちの"相棒"とし、その相棒はどんな妖怪なのか、ひとりひとりの想像で創りあげていくこと。またその妖怪が学校空間にいたら、どこにどのようにいるのか。日々過ごしている空間を意識的に捉え、異なる観点から再認識することを目標とした。(2日目)「目をつぶって動く」ことは、恐怖を覚え、普段目から得ている分の情報を、想像することで埋めようとする。では「目をつぶる」という行為の上で、その想像をどのようにしたら、こちらの意図する方向へと導き、感じさせることができるのか。妖怪を媒体に体験をしながら考えてみることを目標とした。(3日目)自身が想像した妖怪を学校空間の中で、他人に感じさせる発表を行った。妖怪を通し、自分の持ったイメージや感覚を「相手に感じさせる・体験させる」という観点で言葉や身体を使い、その空間を再構成することを目標とした。

アーティストから

「妖怪を感じる・感じさせる」ということをテーマに行った授業でしたが、そこには「想像力」というものが大きなポイントとなっていたことは間違いありません。現在の日本の、すべての「闇」を消していこうとする風潮はまったく間違っていると僕は思っていますが、それも人間から闇を消していけばどうなるのかという想像力の欠如が引き起こしていると思います。この授業では妖怪を通じて子どもたちの多種多様な想像を見ることができました。どうか想像すること、静かに感じてみることを日常にしていってもらえたら、嬉しいかぎりです。

コーディネーターから

3 年目ということもあり、先生方がプログラムの意図を汲んでくださりスムーズに進行することができました。発表場所の自

由な選定や授業時間の延長などのご配慮、また子どもたちへの 的確なアドバイス等多くの面で好意的にサポートしていただき ました。子どもたちからも、「楽しい」「終わってほしくない」 といった声や、授業後にも活動の感想を言い合う様子が見られ、 心に引っかかる時間になったと感じています。アーティストは、 昨年に引き続き教育とアートについて改めて考え、今後の活動 への意欲となっているようです。

先生から

今年度は妖怪を表現したり、感じたりすることをめあてに、1 日2時間の学習を三日間行った。1日目の「ダルマさんが転ん だ」では、一つの言葉でも様々な表現の仕方があることを学ん だが、同じような表現をする児童が多かった。ここでいろいろ な表現の仕方があることを、もっと確実に理解させた方が良か った。女子児童が自分の妖怪を受け取った時に怖がってしまい、 きちんと向き合っていなかったのは予測していなかったと反省 した。三日目には目を閉じて物を触る体験を行った。普段から なじみのある場所だったために、何を触っているのか予測でき てしまっていた。妖怪を表現する活動には、積極的に関わるこ とができている児童が多かった。三日目に友達を呼んで妖怪を 表現する際、徐々にお化け屋敷のようになってしまったグルー プがあったが、サポートしてくれたアシスタントの方に早めの 軌道修正をお願いできるとよかった。子どもたち同様、担任も 表現するということについて理解を深めることができました。 三日間ご指導していただき、ありがとうございました。

子どもたちから

妖怪を表現するのが楽しかった。/人に感じさせることが一番 楽しかったです。そのことができれば、他のことができると思 いました。





善部小学校 + 芸術家と子どもたち

劇づくりを通して自己を発信

 担当アーティスト
 わたなべなおこ (演出家・ワークショップファシリテーター)

 実施校
 横浜市立善部小学校 (旭区)

 コーディネート
 NPO 法人芸術家と子どもたち

 実施科目・教科名
 総合的な学習の時間

 実施概要
 体験型/身体表現/5 学年、2 学級、70 人

実施日程 2012年1月30日、2月6日、2月13日



授業のねらい

「自分で考え、それを他者へ伝える楽しさを体感していく」ことを目標とした取り組み。身体的要素を取り入れながらの劇あそび・お芝居づくりを通して、自分で考え臨機応変に即興でお芝居をつくったりすることを体験していく。1日目は気楽に楽しめるシアターゲームや寸劇づくりを行いながら演劇へのハードルを下げ、2~3日目にかけて発展させていく。

主な内容

(1日目)最初にウォーミングアップとして椅子とりゲーム等のアレンジ版を行う。3日間とも前半にこのゲームを行い、身体を動かしながら自分たちでゲームの攻略法を探し出し、互いに協力し合う機会を重ねた。その後、ジェスチャーゲームへ。お題をもとにグループごとにサイレントの寸劇をつくり、発表。短い時間でも自分たちで劇がつくれるという発見や、相手に伝わることの面白さを体感していった。(2日目)宿題として自分の「サインネーム」を考えてきた子どもたち。5~6人1グループとなり、グループ内で互いのサインネームを組み合わせて一つの流れをつくり、発表し合う。6コママンガのようになりストーリーが感じられるグループや、ダンスのように見えるグループなど、それぞれの創意工夫が感じられる発表となった。(3日目)前回とは異なるメンバーでのグループワーク。メンバー全員のサインネームを使って、コマーシャルのようなお芝居を

つくり、発表し合う。そこにアーティストが丁寧にアドバイス を加え、再度つくりなおす作業を行う。その際、各グループに 新たなお題を足して、中身をよりふくらませていった。

アーティストから

子どもたちの変化に驚きました。誰にとっても、経験したことのない新しい世界に身を置くのはとても怖いことだし、勇気のいることだと思います。はじめは不安や緊張でいっぱいだった子どもたちも、自分が一歩踏み出せるチャンスを逃さず、未知の世界に挑戦することそのものを楽しんでいる姿がとても印象的でした。子どもたち自身の中にたくましさや強い気持ちがあることに改めて気づかされた三日間でした。

コーディネーターから

グループワークを重ねるごとに、意見のやりとりが活発になり、 身体を動かしながらアイデアを出し合って創作することが楽し くなっている様子が見てとれました。発表時には相手の発表に もしっかり目を向け、それぞれの作品に「あ〜なるほど」「それ はちょっとわかんなかった」など素直な反応(評価)を出し合 う姿が印象的でした。



新治小学校 + Media Global パペットをつくる、演じる(2)

 担当アーティスト
 中村信子(人形劇俳優・美術家)

 実施校
 横浜市立新治小学校(緑区)

 コーディネート
 企業組合Media Global

 実施科目・教科名
 総合的な学習の時間

 実施概要
 体験型/パペット/3学年、2学級、45人

 実施日程
 2012年1月26日、2月3日



授業のねらい

自分で工夫したパペット人形を作りそれを遣って寸劇やグループ発表を通して豊かな創造性とコミュニケーション能力を高めたい。

主な内容

(1日目) パペット人形制作(2日目) パペット操演 班ごと 操演後、講師と一人ずつ会話形式で自分らしく表現する

アーティストから

子どもたちは明るくのびのびとしていて、落ち着いた印象を受けました。創作や演技のなかでコミュニケーションの投げ方や受け方、表現する楽しさ、演ずる側、観る側のマナーをクラス全体で体験できたと思います。授業を通して感じた楽しさや発見できたことをこれからの学校生活に活かしていただけたらと思っています。

コーディネーターから

振り返りで予想以上のコミュニケーション能力を引き出すプログラムだったと先生方からお声を頂戴しました。パペットを媒体にしている効果だと再認識しました。材料がカラーウレタン

で楽しみながら制作や操演ができたようです。子どもたちが自 発的に学校行事でパペットの活用を提案して練習していると伺 い、うれしく思います。

先生から

本校に来て4年、毎年3年生が本当に嬉しそうにパペット人形を持ち帰る姿は見ていたものの、正直どの教科とからめてどんな活動をするのかわからずにおりました。しかしこの学年が作成の時に見せた集中力に驚き、2回目のシアター活動の中でもこの子がこんな表現を…?

と思うようなシーンに出会って日々の学習の中だけでは引き出されない子どもたちの眠っている力をパペットの活動は引き出してくれたと思います。2月の学級集会でもパペットシアターを練習して発表したい、という児童があらわれ、9人の子が賛同してプログラムに入れることになりました。おとなりの特別支援学校のお友達にも見せに行く、とはりきっています。ありがとうございました。

子どもたちから

家でも遊んで楽しかった。/かわいくて毎朝「おはよう」と言っています。/おうちの人にほめてもらってうれしかった。



いちょう小学校 + テアトルフォンテ さわたり組出前二人芝居「宮澤賢治童話集」

 担当アーティスト
 さわたり組(さわたりちひろ、石井桂)

 実施校
 横浜市立いちょう小学校(泉区)

 コーディネート
 泉区民文化センターテアトルフォンテ

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/演劇鑑賞/全学年、200 人

 実施日程
 2011年10月26日



授業のねらい

- ・芸術家が行う本物の芸術を鑑賞し、その素晴らしさに触れる。
- ・日本語独特の表現を、言語・音・身体表現などの要素で味わ い、また一部体験をすることで理解を深める。
- ・俳優の演技を通して物語世界のイメージを膨らませ、想像力 を養う。

主な内容

(低学年)「どんぐりと山猫」「注文の多い料理店」 質疑応答 (高学年)「セロ弾きのゴーシュ」 質疑応答

アーティストから

低・高学年共にとても反応が良く、客席と舞台の一体感も生まれ、演じていて気持ち良く、やり甲斐もありました。質疑応答でも沢山の手が上がり、内容についてはもちろん演劇に興味を持ってくれた質問などもあり嬉しかったです。給食交流も児童との距離がより縮まり有意義でした。また、学校との打合せ等を担当してくださったフォンテ職員の方が当日も同行、進行係など裏方を務めてくださったので大変助かり、有り難かったです。

コーディネーターから

体育館という制約が多い空間で、子どもたちは逆に想像力を豊かに膨らませて作品の世界観を補完していたように思う。観客と演者のコミュニケーションも多く、各所に仕掛けたカラクリで体育館に「異世界」を出現させ、賢治独特のオノマトペは肉体を得て、その世界観を子どもたちの目と耳と肌で感じさせることができた。子どもたちが今回の公演のディティールまで記憶していないかもしれないが、この「異世界」で感じたひとときをいつまでも覚えてくれていると嬉しく思う。

先生から

二人芝居という子どもたちにとって初めてのプログラムで、期待度も高かったです。内容が「宮沢賢治」ということで、6年生はちょうど国語の学習と重なり、より興味を持って鑑賞できました。お芝居は迫力が有り舞台装置や転換などにも工夫があり、低学年の子供たちも十分楽しめました。給食も一緒に食べていただき、子どもたちとの交流もはかれてよかったです。

子どもたちから

同じ言葉でも言い方を少し変えたりするだけで変わるところが すごかった。/二人でも演劇ができることがびっくりした。/ セロがないのに本当に弾いてるみたいですごかったです。



鴨志田第一小学校 + 横浜こどものひろば 椋鳩十「大造じいさんとガン」の劇づくり

担当アーティスト	望月純吉(文学座・演出家)
実施校	横浜市立鴨志田第一小学校(青葉区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	国語、音楽、総合的な学習の時間
実施概要	体験型/演劇/5 学年、2 学級、45 人
実施日程	2011年10月26日、11月7日、11月24日、11月29日



授業のねらい

12月3日の学習発表会での発表に向けて、「大造じいさんとガン」を演劇化する。演劇や声楽など体を使って自分を表現する。 棒読みのセリフでなく本格的な表現を目指す。 自らの能力にさらに磨きをかけられるような体験となることを目標に、常に全員が出演者であることを自覚して、一体感、達成感を得られるようにする。 演出家は土井先生とし、望月さんは演出補と位置づける。

主な内容

(1日目) 文学座との出会い、シアターゲーム、大造じいさんとガンの演劇化に向けてお互いに努力することを確認。(2日目) 個々の動きを確認しつつ、通し稽古。(3日目)全体の動きを作りつつ、通し稽古。(4日目)通し稽古。

アーティストから

子供たちの発想力に触れられた楽しい時間でした。自由に描いた翼をつけて、皆で演じた雁の群れの「喜怒哀楽」では、子供たちは先生の「言葉」から得た沢山のヒントを舞台に持ち込めました。繰り返し練習することで得た自信、発想を共有し、深めながら一つのものを作り上げるという素晴らしい時間を共に過ごせました。導いていく担任教諭とそれを支える学校関係者の心で、鴨志田第一小学校はさらに大きく羽ばたけると確信しました。

コーディネーターから

学校と文学座の事前打ち合わせを3回に渡って行い、演出家自ら予定になかった稽古をかって出るなど、双方が本気になっての劇化となった。また生徒たちがよく動き、堂々と演じる姿は気持ち良いほどで、3年時に行った他作品の上演が成功体験としてあり、積み重ねられていることが分かった。また学校全体が今回のような「出前授業」に積極的に取り組んでいるので、外部講師の存在にも慣れている様に感じました。

先生から

文学座の望月さんは子どもたちに分かりやすく演技の指導をしていただきとても助かりました。舞台をどうしようか、音楽はどうしようかと迷っている時もいろいろな提案をしていただきました。おかげでとても良い発表ができたことを感謝しております。これで終わりではなくこれからもこのプログラムを活用していければ学校や児童の文化的レベルが高まるのではないかと思います。事務局の方、そして文学座の方々には本当に感謝しております。ありがとうございました。

子どもたちから

文学座の望月さんがすごく優しい方で、なんでもわかりやすく 指導していただいたのがとてもうれしかった。

ダンス分野の取り組み



言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。 自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだをうごかし てみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感覚 の大切さを体験します。



中丸小学校 + STスポット横浜 みんなでおどる、うごく

	早川朋子(ダンサー、振付家)
実施校	横浜市立中丸小学校(神奈川区)
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型/コンテンポラリーダンス/4 学年、2 学級、68 人
実施日程	2011年12月16日、2012年1月13日、1月16日



授業のねらい

10歳を祝う会に向けて、創作の種になるような取組を行う。元気でハツラツとしたことが伝えられるような内容で、みんなで盛り上がれるような活動を行う。

主な内容

(1日目) いろんな体の動かし方を体験する/動詞から動きをつくる(2日目) 4年生になってできるようになったことをもとに動きをつくる(3日目) 動きを構成して一連のパフォーマンスにする

アーティストから

自分たちで動きをつくったダンスと曲があり振付を覚えて踊るダンス、ふたつのダンスができあがった。つくったりアイデアを出す、まとまらなくてぐちゃぐちゃになる、覚えて練習するといった舞台にのせるまでの過程のどこかでダンスを楽しんでくれたらと思う。普段から相当にぎやかなクラスと聞いていたが、やるやるやってみる!という空気で、陽のよくあたる気持ちのいい教室でみんなと踊ることができた。途中にぎやかになりすぎた時は相手が 10 歳だろうとかまわず、やる気があるのか本番で人前で踊る気があるのかと聞けば、やると言う。3回を終えどう舞台に乗せるかはみんなと先生に託すところとなった。楽しい本番を迎えられることを願っている。

コーディネーターから

元気いっぱいな子どもたちとの取組になりました。表現したいことを自分たちで決め、どんな動きにしていったらいいのかを考えてつくったダンスと、自分たちで選んだ曲にアーティストが振り付けを決めて踊ったダンス、ふたつのアプローチに挑戦しました。いずれも、自分たちが責任を持って最後までやる楽しさと大変さを体験することができました。子どもたちがそれぞれ自分のやるべきことを精一杯やっている姿がそこにはありました

先生から

まず動いて見る、そこから新しい動きを創造する、という流れが新鮮でした。はじめは子どもの表情に少し戸惑いも見られましたが、活動が進むに連れて生き生きと自由に表現する姿に変わって行きました。動きが出来上がって来てから「自分ができるようになったこと」というテーマに沿った動きや言葉をつけ足し、各グループの工夫が見られました。何より、講師の皆様の表現することを楽しむ姿が、子どもが表現を楽しむことにつながっていたと思います。ありがとうございました。



相武山小学校 + 吉野町市民プラザ 身体で表現してみよう

担当アーティスト	東野祥子(振付家、ダンサー)
実施校	横浜市立相武山小学校(港南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型/コンテンポラリーダンス/3 学年、4 学級、127 人
実施日程	2011月10月18日、10月19日、10月25日



授業のねらい

言葉を使わない表現芸術であるコンテンポラリーダンス。まずはアーティストのダンスを身近に観て、本物の芸術に触れ、表現の多様さを発見し、言葉に頼らない表現の素晴らしさを実感してもらいます。自分で考えたことを身体で表現することの楽しさを味わい、ひとりひとりが積極的に自己表現できるようになることを目指します。また、グループで小さな作品を作り、仲間で協力して創造することにより生まれる広がりや喜びを知って、お互いを認め合い、自分らしさを表現することの大切さを学ぶ機会とします。

主な内容

(1日目) デモンストレーション、ストレッチ、真似してダンス、体にボールが入っているイメージで動く、イメージでキャッチボール、身体を使って空間に絵を描く、人を動かす(1・3組)(2日目) デモンストレーション、ストレッチ、真似してダンス、体にボールが入っているイメージで動く、イメージでキャッチボール、身体を使って空間に絵を描く、人を動かす(2・4組)(3日目)前回の復習(ストレッチ、真似してダンス、体にボールが入っているイメージで動く、人を動かす)、言葉のイメージを身体で表現(1・2・3・4組)

アーティストから

おとなしい学年だと伺っていたのですが、実際にプログラムを やってみると、子どもたちひとりひとりのキャラクターやオリ ジナルの感覚がどんどん出てきて、大変素晴らしかったです。 固定観念がなく想像力が豊かな3年生が、のびのびと楽しく身 体を動かして表現できたのは、ベースに相武山小学校全体の生 き生きとした雰囲気、環境があったからではないでしょうか。 普段おとなしい子や目立たない子が自分で考えて、自分の中か ら生み出されるオリジナリティ溢れる動きをしてくれて、自由 に想像して身体で表現するというコンテンポラリーダンスの特 性が大いに活かされたと思います。

コーディネーターから

銀髪頭にいままでみたことのない身体の動き。授業開始とともに始まったアーティストのデモンストレーションに、こどもたちはぐっと惹きつけられていました。「真似をして動く」ことから始まり、「自由に動く」へ。与えられた言葉から、自分なりに自由に想像し、体を動かすということが、はじめはなかなか難しいようでした。しかし、アーティストの言葉や動きから、徐々にコツをつかみ、最終的には、こどもたちそれぞれが考え、楽しみながら表現をすることができたように思います。アーティストの素晴らしい指導、先生方の熱い想いとご協力により実現できた、実り多い素晴らしいプログラムでした。



野庭すずかけ小学校 + Offsite Dance Project

詩から動きをつくってみる

	康本雅子 (ダンサー・振付家)
実施校	横浜市立野庭すずかけ小学校(港南区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目·教科名	国語
実施概要	体験型/ダンス/3 学年、3 学級、91 人
実施日程	2011年12月13日、12月15日、12月16日

授業のねらい

学校の重点研究として「国語」に取り組んでいる。昨年度は読む力の育成に重点を置いたが、今年度は「表現力を高める」ことを目的に、語る力/聞く力に取り組む。今回は国語の授業と連動し、教科で使用する詩を身体的に展開する授業を行い、こどもたちの「感じる力」を育成したい。→(イメージとして「詩のダンス」)使用するテキスト:まどみちお作「はしる しるしる」「じゃがいも」「雪」

主な内容

(1日目)「じゃがいも」の詩から、身体の声を聞き対話する(手と手、つむじとつむじ、他)(2日目)「なまけ忍者」の詩から、他者との関係性をつくる(僕と忍者が歩く、触る/触られる。他)(3日目)「はしり しるしる」の詩から、リズムを感じる(走る、リズムを作る、動きを作る、他)

アーティストから

3つのクラスを受け持ちましたが、クラスごとに差はあまりな くどのクラスも動く事に対して積極的で素直という印象を受け ました。小学生の時の自分を思い出してみてもそうですが、あ の年頃で自分の体を意識するという概念はあまりないと思いま す。意識する必要がないほどに心と体がいっしょくたに存在し ている。大人になると羞恥心が芽生えて、本音と建前の社会に 入ってく中で心と体に差がうまれてしまう訳で、その差を縮め る為にダンスは有効だと思うのですが、その差がまだない子ど もにとって意味のあるダンスとは何だろう?と思いました。例 えば変な動きや面白い動きをすると子供は喜んで真似をします が、自分でイメージして動く事に関しては途端に億劫になって しまう。具体的なテーマでは動けても、抽象的な要素が入ると 動けなくなってしまう訳で、自分で想像してみる力をまず育て ないといけないのかなと思いました。ですから教える側の課題 としては、子どもたちが頭では勿論のこと体でも空想出来るよ うに、もっと飛び込める為のきっかけを工夫しないといけない と思いました。

コーディネーターから

今回は、①康本雅子というアーティストを通して子どもたちがコンテンポラリーダンスに触れること、②国語の授業と連動して詩を用い、詩の内容を身体で体験すること、がポイントとなった。講師紹介も兼ね、講師がダンスを披露するところから授業は始まり、子どもたちの強い興味と関心を引いた。また、題材として使用した詩は会話や人と影など他者との関係性をテーマとしていることから、身体を通して他者と触れ合う課題が多



授業は、今後の芸術教育のプログラムとして発展できる可能性があると思う。と同時に、ダンスの授業において言葉をどのように捉えるのか、さらなる試行錯誤を重ねる必要もあると感じた。アーティストによる授業実施の魅力は、アーティストの表現活動を目の当たりにできること、アーティスト自身が好奇心を持って追求している内容が授業に反映されることである。授業を通して子どもたちは、日常に接する機会の少ないアーティストのアイディアや感じ方を共有することになる。今後はインターンを含めたアーティスト同士の研鑽の場を設けるとともに、ダンス未体験の劇場や芸術機関のコーディネーター養成にも繋げたいと考えている。

先生から

子どもたちには「詩のダンス」という言葉で伝えました。詩を体で表現することに、子どもたちは興味津々わくわくどきどきでした。始まって早速の康本先生のダンスパフォーマンスに子どもたちは"のめり込む"感じでした。目をまん丸にしていたり、ウフフッと笑ったり、自然な反応に見ていた私も安心いたしました。2日目に他のクラスの一人の子に「どうだった?」と尋ねると、ちょっと考えて、笑顔で「とろけました。」と言ってくれました。すてきで、ぴったりな表現だと思いました。少し残念だったのは私たちとしては国語科の詩の表現と思っていましたので、もう少し詩の言葉とのかかわりが多くても良いかなと思いました。作者の伝えたかったことを詩全体または詩の流れとしてとらえられると良かったかなと思いました。とても良い企画だと思っています。是非これからも現場を助ける思いで続けていって下さるとありがたいです。

子どもたちから

音楽に合わせて体を動かすことは、あまりやったことがなかったから難しいかと思っていたけど、先生たちのおかげで簡単だということが分かりました。/ロでしゃべらなくても表現でお話しできるんだなあと思いました。



二つ橋小学校 + Offsite Dance Project

ひろがる発想、表現する楽しみ

	東野祥子(振付家、ダンサー)
実施校	横浜市立二つ橋小学校(瀬谷区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	
実施概要	体験型/コンテンポラリーダンス/4 学年、3 学級、91 人
実施日程	2011年11月14日、11月15日、11月16日



授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。日常の動作や遊びから発展するダンス、からだ全体を使ってコミュニケーションするダンス、グループワークにおるダンスなどの手法を通じて、自由な発想で自分を表現する楽しさを体験し、仲間との関わり方・相互理解を深める機会を提供する。

主な内容

(1日目) デモンストレーション、ストレッチ、動きのフレーズ、動きのコピー、イメージボール (2日目) ストレッチ、動きのフレーズ、イメージボール、イメージお絵描き、彫刻ごっこ (3日目) ストレッチ、動きのフレーズ、イメージボール、身体が別々に動く、キーワードからの創作

アーティストから

3クラスとも非常に素直で元気がよく、生徒、先生ともに3日間、真摯にダンスに取り組んでくれました。4年生ながら、集中力があり、身体の機能もダンスの自由さ、楽しさもしっかり

理解し、発揮していました。想像力も豊かで、「言葉でイメージを動きにすること」などは非常に豊かな表現ができていました。 内容的にも比較的難しいことを実践してみましたが、「楽しい!」という意識が強く、どのメソッドもうまくこなしていて驚きました。

コーディネーターから

授業内容は3日間を通して大変豊富で、飽きさせないものだっ た。子どもたちにとって、初めてのコンテンポラリーダンスは 簡単ではなかったと思うが、高い集中力とモチベーションで 様々な課題に積極的に取り組んでいた。結果として、子どもた ちにダンスの面白さや楽しさを伝える事ができたと考えている。 その要因は、豊富な経験を通して練られたカリキュラムにある。 3回を通して繰り返す動きがあり、それをベースに新たな展開 へと導くことで、子供たちが「できる」という自信と達成感が 毎回得られ、挑戦する意欲が持続できた。また、授業の中でア ーティストらが随所でデモンストレーションを行うことで、子 どもたちの動きを引き出すための視覚的な刺激となり、子ども たちが見たまま/感じたまま動こうとしている姿が見受けられ た。ダンスが学校教育において認知度が低い現状では、すぐれ たカリキュラムと同時に、プロのダンサーによるホンモノのダ ンス、真剣勝負のダンスの実演も強い説得力となる。今回はイ ンターンとして、大学で芸術教育を学び実践しているダンサー がアシスタントとして参加した。今後もインターシップを継続 し、次の人材育成に繋げたい。

先生から

まず第良い地に感じたことは「プロは違うな」ということである。その道を極めた人に教わる機会はなかなかないので、子どもたちにとって非常に良い機会となった。具体的には東野先生のひと言で子どもたちの動きが変わり、体のいろいろな部位を使ってのびのびと踊ることができていた。指導する立場としても得るものがたくさんあり、とても有意義な時間となった。またぜひお願いしたい。



二つ橋高等特別支援学校 + STスポット横浜 いろんなからだを知る時間

	ほうほう堂(ダンスデュオ)
実施校	横浜市立二つ橋高等特別支援学校(瀬谷区)
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型/コンテンポラリーダンス/高3学年、6学級、48人
実施日程	2012年1月24日、1月31日、2月7日、2月10日

授業のねらい

軽度知的障害の生徒の企業就労を推進することを目標としている学校において、ダンスを通じて、身体感覚を重視したコミュニケーションの豊かさを学ぶ。安定的な就労の鍵をにぎる余暇活動の充実に向けて、教員と芸術家が協働して取り組む。

主な内容

(1日目) 自己紹介、体を動かすことを通してアーティストと生徒がお互いに知り合う(2日目)身体の一部に意識を集中して動かしてみる、普段は行わないような動きを体験する(3日目)発表に向けて構成を考える(4日目)発表、全校生徒でのダンス体験

アーティストから

新鋪美佳:思春期まっただ中とは思えない程に、皆さんとても素直に身体を投げだしダンスに挑戦していました。3回の授業でしたが、身体を操る回路がみるみる開拓されボキャブラリーが増え、それぞれの身体でできる事に没頭しつつも開かれていくようでした。素直であるという事が、存分に身体やダンスに反映されるのはとても清々しい事でした。ダンスが簡単でダイレクトなコミュニケーションとして、素朴に成立していたのは彼らだからこその部分もありますが、ダンスのこのような可能性を実感できたのは嬉しい事でした。

福留麻里:スポーツ選択の生徒さん達との授業で強く印象に残ったのは、素直さ、です。投げかけた言葉に耳を傾けてくれる表情や、判りづらい、恥ずかしいと感じた時戸惑う身体の動き、でも受け止めよう、応えようとしてくれる態度。色々な場面で、みんなの身体から素直さがはみ出るように伝わってきました。最終日の学習発表会で、声援を浴びながら、身体まるごと解放するようにのびのび動く姿は、その素直さが爆発している場面のようで、感動しました。

コーディネーターから

アーティストからの投げかけに対して、真剣に取り組んでくれている子どもたち。最初のうちは、自分で動きを考えたり、自由に動いたりすることは難しいところもあったようですが、回数を重ねるうちに楽しみ方を覚え、自分たちなりの動きを作り出すことができました。発表では、自信を持って舞台に挑み、観客の子どもたちや保護者のみなさんも積極的に見てくれていました。

先生から

動きが決まっていない身体表現は難しいと思った。「リズムに乗って」というような打楽器系、ダンス系のものにも取り組んでみたい。







泉が丘中学校 + テアトルフォンテ カラダ×リズムで奏でる表現

担当アーティスト	篠田浩美(打楽器奏者)、井上大輔(ダンサー)、棚川寛子(舞台音楽家)
実施校	横浜市立泉が丘中学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型/音楽・ダンス/1 学年、4 学級、155 人
実施日程	2011年12月9日、12月12日



授業のねらい

身体を自由に動かしておこなう表現活動を通して、自分の思いや考えを恥ずかしがらずに伝達できるような機会を創ることを目標に、打楽器奏者・ダンサー・舞台音楽家のコラボレーションによるワークショップを実施する。身近な「身体」で音楽(リズム)を奏でるボディパーカッションをはじめ、中学生ならではのカラダ×リズムの楽しさを体験できるような活動をおこなう。個々の資質や創造性を生かしつつ仲間との(非言語)コミュニケーションをはかりながら活動できる要素もプラスすることを目指す。

主な内容

- ・打楽器や言葉のリズムに身体の動きを反応させたり、「立たないで逃げる」「できるだけ遠くからタッチ」「音が止んだときの格好で静止」などの「ルール付き鬼ごっこ」等を通し、自分の身体を開放し遊ばせる自己表現への道筋を見つける。
- ・日常的な所作と隣り合わせにあるアーティスティックな様態 の面白さを発見する。

アーティストから

今回の活動を通し、先生方とは違う目線で、子どもたちが人と 関わること、面白い、豊かだと感じることなど表現へのキッカ ケ作りを手伝えたように思います。参加、体験することは双方 向的な「学びあう」関係です。我々と子どもたち、子どもたち 同士、やり取りの中から生まれる学びがありました。子どもの中にある「面白い」の価値観は、それを出すまでがちょっぴり大変なだけで、ほんの少し背中を押せばいつでも「表現」へ繋がると感じます。

私たちは「学校には居ない人」「表現や音楽、ダンス、演劇に興味がなければ会わない人」だったかもしれません。学校は、親や自分の関心に拘わらず平等に体験出来る場です。芸術や表現に興味のない子どもたちにどのように関わるか。参加したい人だけが参加するのではないからこそ、私たちにも子どもたちにもお互いに学びがあると思います。

コーディネーターから

篠田さんの発案で、身体表現と打楽器分野を中心に3人のプロフェッショナルの協働によるユニークなワークショップとなった。中学生になり9か月目の子どもたちは、恥ずかしがりながらも意外と積極的に授業に参加していた。当初はウォーミングアップの後、ボイスパーカッション『野菜の気持ち』を題材に展開予定だったが、1クラス目を経て、各クラスの子どもたちの様子に応じて柔軟にプログラム内容が動き始め、結局4クラスすべてオリジナルなワークショップとなった。参加した中学生とアーティストが「顔の見える関係」を取り結び、子どもたちの中に今回の体験の「痕跡」が確かに残ったのではないかと思う。

先生から

昨年度はダンスを中心にダンサーの方が言葉を使わずに表情や動作だけで行う形式だったのですが、本年度は打楽器にあわせて動きを表現する形式で行いました。目的が表現活動ということで身体も含めた動きづくりだったので、難しい部分もありましたが、講師の方の働きかけもていねいにしていただいた部分もあり、生徒は徐々に様々な動きをつくり出していました。表現活動の「きっかけ」づくりには適切な時間だったと思われます。今後とも継続して行っていきたいと考えております。宜しくお願い致します。

子どもたちから

表現活動は楽しいと感じることができた。たまには、シャイなところを捨てる授業がもっとほしいと思った。体を動かしてあたたまる所がおもしろかった。



盲特別支援学校 + STスポット横浜

ちょっとだけ特別な日常

担当アーティスト	片岡祐介 (打楽器奏者、作曲家)、北村成美 (ダンサー、振付家)
実施校	横浜市立盲特別支援学校(神奈川区)
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型/音楽・コンテンポラリーダンス/全学年、65人
実施日程	2011年9月16日、11月2日、12月5日、2012年1月11日、2月15日、2月16日、2月17日



授業のねらい

視覚障害を中心として、知的障害や肢体不自由等との重複障害 がある児童生徒が在籍する学校において、身体感覚を他者と共 有していく中で、コミュニケーションの多様性を子どもたちに 伝える。

主な内容

(小学部) 関わり合いの中から見つけていく。(中学部) 好きな 言葉を出し合い、動きと音をつけていく。(普通科総合コース) 普段やっていることや面白いと思っていることをもとにパフォ ーマンスをつくる。(普通科生活コース)音楽とダンスの即興的 な取組を通じて、子どもたちの反応を引き出す。

アーティストから

片岡祐介:いま、ここでしか、この人としかできない音楽をや ろうとした。皆がそれぞれのやり方で創造し、演じ、味わった。 具体的な抽象性、抽象的な具体性がそこにあらわれた。なんと も言えない味わい。命そのもの…のような…。ワークショップ は僕にとって「発見の場」であり「遊びの場」であり「学びの 場」であり「感動の場」だった。子どもたちと先生方にとって もそうであったならば、より幸せです。

北村成美:小・中・高等部の全4グループと関わることが出来、 それぞれ全く違う出し物を創り、発表できたことが、とても良 かったと思います。小学部は、毎月のワークショップがわずか 30分と短く、当初、先生方との関係づくりが難行しました。そ れだけに、給食を一緒に食べ、昼休みを教室で過ごせたことは、 とても貴重で、そこで得たことが良い形で反映され発展したと

思います。中学部・高等部生活コース・総合コースでは、作品 づくりを愉しむことが出来ましたが、回数が少なかったため、 もっと深めたいという欲求が出てきたところで終了となったこ とが少し残念でした。いずれにしても、片岡祐介さん、スタッ フ、先生方、参加者のみなさんとの連携プレーで、盲特別支援 学校という、限られた空間を舞台に作り変えていくことが出来 たと実感しています。どうもありがとうございました。

コーディネーターから

視覚障害のある子どもたちとの取組は初めての経験でした。見 えないあるいは見えにくい状況にある子どもたちと芸術はどの ような関わりを持てるのか、大きな挑戦になりました。取り組 みを通して、子どもたちがこちらが想定していた以上に、お互 いの存在を認識しあっている印象を受けました。アーティスト はその認識の幅や種類をひろげることができたように思います。 また、今回は、学校ぐるみでの取り組みとなり、たくさんの先 生方とも関わりを持てたことも有意義な時間となりました。

先生から

(小学部) 特にきまりのない中で、すぐにリズムや音にのって 動ける子は楽しそうに活動することができ、全盲の児童でも自 ら踊ろうとしていたり、恥ずかしがる児童が体を動かしていた のは意外だった。(中学部) 見えなくても体の動きを頭の中では っきりイメージすることはできるのでしょうか。よりなめらか な、よりのびやかな動きを、頭の中で描いて、体に動きを伝え ることはできるのでしょうか。もっと時間をかけて生徒と関わ っていただく中で「体の自由」を獲得させてあげたいと思って います。(普通科) その場に集まったメンバーと雰囲気を即座に 感じ取り、それを自由な形で音楽と動きに表現していく流れが とても驚きました。椅子の手すりにまたがって足踏みの音を聞 かせる、というのは、音もそうだが、ふくらはぎがすぐ眼前に くる、という「見え方」も(その生徒が)楽しんでいて、おも しろいな、と思った。考えもしない接し方だった。

子どもたちから

(小学部) いろいろながっきができたのが思い出に残った。(中 学部)他の学部の発表もおもしろかった。(普通科)しげやんの 元気さがあり、勇気をたくさんもらいました。体が柔らかくて さすがダンサーだなって思いました。すけさんのドラムのリズ ム感があり、ピアノもすごくよかったです。短い間でしたがと ても楽しかったです。しげみさんの不思議な動きに対して反応 していくことで一つのおどりが完成していくのがおもしろかっ た。こんな表現もあるのだと新しい発見だった。

美術・工芸分野の取り組み



自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。自分や友だちの多様な表現に触れる機会となります。



駒岡小学校 + 横浜市民ギャラリー 新種発見!生き物ハットをつくろう

担当アーティスト	玉田多紀(造形作家)
実施校	横浜市立駒岡小学校(鶴見区)
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/現代美術/6 学年、4 学級、123 人
実施日程	2011年12月1日、12月8日、12月9日



授業のねらい

作家が日頃制作している「生き物」は子どもたちにも親しみや すいモチーフであり、素材も身近なダンボールを使用するため、 このプログラムを体験して、子ども自身の造形活動に広がりを 持たせること。

主な内容

(1日目) プログラムの説明、アーティストの自己紹介、テーマの紹介と制作のプロセスについての説明(ワークシートの作成)(2日目) 材料と道具についての説明(利用方法と注意)、制作、講評(3日目)材料と道具についての説明(利用方法と注意)、制作、講評

アーティストから

6年生といってもなんでもスムーズにいくわけではないですね。 今回は新企画の帽子作りだったので不安がありましたが、実施 した結果、予期しなかった作品が仕上がり、驚きとともに感動 しました。作家としても子どもたちの作品を通して自分にもよ い影響を受けました。

コーディネーターから

毎回学校とアーティストの間に立ち、一つのワークショップを つくりあげるという貴重な経験です。何校経験しても決して同 じでないのも魅力です。始めは学校とアーティストのお見合い から、双方が何を期待し、何を目指したいのかを掴むプロセス が新鮮です。講座の骨子が決まると三者が協力して実施へと向って一気に勢いが出ます。ただし、学校、アーティストともに 多忙で調整の難しさがあることも感じました。

先生から

文化的な生活から離れている子どもたちにとって、芸術家と出会い作品に触れ、同様の手法で自分の作品を作り出すことができ、子どもたちは大満足でした。作品を持ち帰る日も多くの子がかぶって帰った様子からもわかります。「本物と出会う」ことの大切さを実感するとともに有意義な時間を過ごすことができたことに感謝申し上げます。

子どもたちから

意外に時間がかかってしまった。ダンボールを水につけてはが す時気持ちが良かった。自分で計画した通りにはできなかった が、最後までつくりあげられた。玉ちゃん先生の作品にすごく 驚いた。玉ちゃん先生がやさしく教えてくださってうれしかっ た。





洋光台第四小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 木炭画で似顔絵、自画像を描く(1)

担当アーティスト	黒田晃弘(美術作家)
実施校	横浜市立洋光台第四小学校(磯子区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/木炭画/5 学年、2 学級、72 人
実施日程	2011 年 11 月 9 日、11 月 10 日

授業のねらい

- 1 似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高めます。また集中力を養い、情緒の安定を促進します。
- 2 友達の顔を描くことで、相手の友達そして自分自身のことを考えるきっかけを提供します。
- 3 創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成就感を感じる機会を提供します。

主な内容

(1日目)粘土で横顔、木炭を使ってみる(2日目)木炭で友達の似顔絵を描く

アーティストから

一日目の授業の朝、昨年就任し今回また再開することになった 校長先生に「元気よくぶつかってやってください。」と言われま した。はるばる北海道から来て、自分の信じる道を進むアーティストとしての、私の生徒に対する存在感を考慮して下さって の言葉と受け止めました。絵を教えるほんの短い時間、関わる、 多感な小学5年生。私は私なりの人生観を持ったメッセージを 指導の途中に盛り込みました、時には子供たちのツボに入った のか、みんなの眼が鋭く自分に注がれる時もあり。授業が終わって、帰り際、数人の子供たちが「ありがとう」「また来てね」 と気さくに声をかけてくれました。毎回思うのは「私は何を彼 らに伝えられたのだろう?」ということ。彼らが年を重ねた時 に、今回の授業を覚えていてくれたら、幸いです。

コーディネーターから

2時限・90分間を目一杯に使ったプログラムは、講師のプロフェッショナルな技術を子どもに伝えるシーンが要所に盛り込まれ、集中力が途切れることのない充実した内容となりました。粘土でのモチーフづくりを通した木炭画は、触覚・視覚にダイレクトに響く行為として子どもたちの絵画の固定概念を取り払ってくれたように思います。この機会を通して、少しでも視点・感覚の拡がりに繋がればと思います。

先生から

芸術家の黒田さんの描く本格的な絵のすごさを子どもたちは一番感じていたように思います。たくさん良いものと出会い、子どもたちはそれを吸収し成長してほしいと思っていますので、今回のプログラムはすばらしかったと思います。「粘土を使って陰影のことがよくわかった」や「レレレを使って人の顔を描くこと」など楽しかったと満足な気持ちの子が多いようです。ぜひこれからもこのプログラムを続けてほしいと思います。ありがとうございました。







新羽小学校 + 大倉山記念館 いろ×いろまん、作って食べよう

担当アーティスト	ドゥイ(造形作家)、 yoyo. (料理研究家)
実施校	横浜市立新羽小学校(港北区)
コーディネート	大倉山記念館
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型/造形/2 学年、3 学級、96 人
実施日程	2011年11月7日、11月8日、11月9日



授業のねらい

様々な食材を用いて自由な発想で自分だけのオリジナル饅頭づくりをおこなう。このオリジナル饅頭づくりを通じて、自身の 感性や創造性を高めるとともに、食に対する興味の喚起を促し、 食育の一助とする。

主な内容

小麦粉に色々な食材を混ぜて練った、カラフルな生地をベースに粘土細工のように形を作って、野菜やナッツ、ドライフルーツなどをトッピングして蒸して食べる、オリジナル饅頭づくり/ 五感で感じるアート蒸しパン。

アーティストから

つくって食べられるクリエイティブな遊びの時間「いろ×いろまん」を、多勢の子に楽しんでもらう事が出来て、とても嬉しいです。素材に食べ物を使うという事は、アレルギーや食中毒を出さない様にと、気を遣わなくてはならなくなる部分が多くなるわけですが、その様なリスクよりも、こどもが感じる楽しさや喜びを優先してくださった先生方には、本当に感謝してます。みんなの素直な反応がとても可愛いかったです。貴重な体験をありがとうございました。

コーディネーターから

子どもたちの、うちに秘めた創造の芽を刺激すること。五感のすべてで感じながら、子どもたちの自らが持つ感性のままに創作して食す。こんな体験を提供できないものかと、アーチストと試行錯誤しながら、学校側との協議を進めてなんとか実現にこぎつけました。担任の先生をはじめ、アーティストやスタッフまでもが子どもたちと一緒になって楽しみながら創食できたことはうれしい誤算でした。、予想した以上に子どもたちからの評価(屈託のない笑顔)をいただけ、地域の文化振興の一助と成り得たのではないかと思います。今後、地域の学校からのアーティスト要請(プラットフォームを利用しない場合も)にも柔軟に対応できる組織づくりを目指したいと思います。

先生から

食物を扱い難しさは有りましたが、子どもたちはとにかく楽しくてしかたがないといった様子でした。粘土あそびに似た感覚で生地をこねて造形し、さらにそれを食べるという活動は無条件で楽しいものだったようです。事前の打ち合わせでは他のプログラムに着いての説明もありましたが、学校でできる活動という意味では、もう少し選択の幅があるとうれしいという気はしました。何度も足を運んでいただき丁寧な対応をしていただき、誠にありがとうございました。

子どもたちから

自分でパンをつくれたこと。/教えてくれた人たちがやさしかったのでうれしかった。/いろいろな材料があった。



品濃小学校 + アートの時間

仮面パレード 2011

担当アーティスト	深澤純子 (アートファシリテーター)
実施校	横浜市立品濃小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/造形/5 学年、3 学級、85 人
実施日程	2011 年 10 月 17 日、10 月 24 日

授業のねらい

- ・普段の授業ではやれないことをやる。
- ・様々な表現に気づく。
- ・それぞれ違う顔から出発する作品は、それぞれ違う仕上がりになる過程を互いに見ることで自他の良さを認め合う機会となる。
- ・共同作業のなかから互いの信頼感を高めていく。
- ・仮面をかぶることで違う自分と出会い、気持ちを開放するきっかけとする。

主な内容

(1日目) 石膏包帯による仮面の型どり (2日目) 仮面への装 飾、校内パレード

アーティストから

仮面を使っての変身、非日常の体験をめざすプログラムも今年で3年目となった。こどもたちは日常と非日常の接触、変換を自動的に自然に行った。今回、知人からもらった皮革の切れっ端を大量に持ち込んだ。 彼らは素材感がしっかりした皮革を、お面に自由に張りつけていった。紙や絵の具とは違う手応えのある質感は、こどもたちの感性を一段と広げたように思う。全般的に落ち着いて作業が進んだのも、彼らが上級生のパレードを覚えて、何ができあがるかをおぼろげながら知っていたことによると思う。

コーディネーターから

昼食前に「今日は○○組はお説教モードで…」というクラス。さぞかしブルーな感じでやって来るかと思いきや、どのクラスより意欲的に仮面の装飾に取り組んでいる。何かを発散するかのようにパレードも元気がいい。担任の若い男性の先生は真剣な表情で、丹念に新聞紙を丸めて子どもたちが持つ剣を作っている。この光景が用意されないコミュニティに入っていく面白さ。アートが持つ『非日常』の力を多くの先生方に活用して欲しい。



先生から

子どもに実施を伝えると昨年のパレード(他学年)の様子をイメージしていました。期待は大きかったようです。当日、友だちに顔をふれてもらい、型を作ってもらうために身をまかせる事になりました。落ち着かずにいる子、友を信頼している子、様々でしたが、徐々に相手に任せる姿、よりよいかかわりを見せる姿など見取ることができました。今後は、1つの概念にとらわれることなく、自分のイメージを豊かに広げて表現する楽しさを感じていければと思っています。

子どもたちから

自分にぴったりのマスク、すごくうれしかった。毎年5年生ができるといいです。工夫をすることの楽しさを感じた。



都岡小学校 + サンハート

木炭画で似顔絵、自画像を描く(2)

担当アーティスト	黒田晃弘(美術作家)
実施校	横浜市立都岡小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目·教科名	図画工作
実施概要	体験型/似顔絵/6 学年、2 学級、68 人
実施日程	2011 年 11 月 30 日、12 月 2 日



授業のねらい

- 1. 似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。
- 2. 友達の絵を描くことで、相手の友達そして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。
- 3. 創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

主な内容

(1日目) 似顔絵制作(2日目) 自画像制作

アーティストから

6年生という多感な年のため、完成する似顔絵にも表情に主張があり、キラキラとした目の輝きが表現されているものもありました。二日目の自画像の授業では、口の描き方など細かい完成度を上げるための質問が多くでました。向上心のある授業に熱心な子供が多くいました。

コーディネーターから

一日目はテレビの取材が入ったので、児童が少しカメラに気を 取られてしまうかと心配したが、皆大変良く集中して似顔絵を 描いていたと思う。先日の二俣川小学校の4年生と比べ、好きな事や生活スタイルも自立してきているので、絵の中にも自己主張が感じ取られると共に、「人と違う」事に対する抵抗が見え隠れしているとも感じた。

先生から

今までの顔の描き方は輪郭から描き始めることが多く、小さい顔になりがちだった。今回は文字で名前や興味有ることを描いて、塗りつぶして顔全体を描くのでどの児童も大きくのびのびと描けたように思う。目などの描き方も独特で非常に新鮮であり驚きであったことがアンケートから分かった。教師から見ても、よく特徴がとらえていて、絵が苦手な児童も思った以上にうまく描けたと満足している姿が見られた。一人一回は体験させたいので、今後も続けて指導をお願いしたいと思う。

子どもたちから

話しながら相手と心をあわせて描いているから生き生きと絵が描けた。/機会があったら木炭画を描きたい。/中学でも使ってみたい。/大きな紙にどんどん担任の先生の顔が出来上がっていく様子がまだ印象に残っている。



二俣川小学校 + サンハート

木炭画で似顔絵、自画像を描く(3)

	黒田晃弘(美術作家)
実施校	横浜市立二俣川小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/似顔絵/4 学年、3 学級、113 人
実施日程	2011年11月7日、11月8日

授業のねらい

- 1. 似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。
- 2. 友達の絵を描くことで、相手の友達そして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。
- 3. 創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

主な内容

(1日目) 似顔絵制作(2日目) 自画像制作

アーティストから

1年ぶりに訪れた二俣川小学校。迎えて下さった校長先生とは 昨年ぶりに教育談義です。斎藤校長は本当に図工を学校の教育 に取り入れることに熱心です。4年生はまだ無邪気で、似顔絵 と自画像の授業に積極的に興味を持って向かいました。とても 理解力がある子供が多く、難しい内容を指導しても上手く取り 込めているようでした。

コーディネーターから

学校に到着した途端、たくさんの先生方から「ご無沙汰しています。お元気でしたか。」「今年もこの時期ですね、どうぞよろしくお願いします。」等の声をかけていただき、学校全体でとても暖かく迎え入れていただく雰囲気があった。児童も授業をとても楽しんでいる様子で、大変和やかな授業となったと感じる。

先生から

毎年 10 月末の学校ひらく週間に合わせて日程を設定していたのですが、今年度は調整が難しく、11 月上旬でした。とても充実した内容なので、保護者や地域の皆様にもご覧になって欲しいと思います。子どもたちも非常に楽しんでいて、素直な反応でした。絵を描くことによって、友だちや自分を見つめ直す機会ができたことに感謝しております。ありがとうございました。

子どもたちから

私は絵をかくより字を書く方が好きだったけど、今回の木炭で 絵をかいたら絵をかくのってこんなに楽しいことが分かりまし た。/いつもうまく絵が描けないから苦手と思いこんでいたけ ど今回の授業で上手下手関係なく楽しくかけたので良かったで す。/緊張したけど楽しかった。





竹山小学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野自分の作った色で絵を描く、動物をつくる

担当アーティスト	うめぐみ(ワークショップアーティスト)
 実施校	横浜市立竹山小学校(緑区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/美術/2 学年、2 学級、40 人
実施日程	2011 年 12 月 12 日、12 月 13 日、12 月 14 日



失生から

1 日目の色水作りは、3 原色でこんな色が作れるんだと驚いていた。2 日目は、体育館に模造紙を敷いて思い思いの花の絵を描いて楽しんだ。3 日目は画用紙に線を引いた紙を使った動物を作った。同じ材料で作ってもそれぞれ個性が出せていた。普段は大きいと言ってもせいぜい4つ切りの画用紙に描いている絵を模造紙に大きく描けて良い体験ができたと思う。

子どもたちから

大きな紙に花の模様や花の絵を描けて楽しかった。

授業のねらい

3つの活動を行った。1日目<色水のオリエンテーリング>あか、あお、きいろ、しろの4色のポスターカラーを使い、水の入った容器に色を混ぜながら桃、朱、水、黄緑、緑、紫、茶色の7色作りに挑戦した。2日目<自分の花を描こう>教室の床いっぱいに広げた紙の好きな場所に自分でつくった色で自分の描きたい花を描いた。3日目<自分のつくった色紙で動物をつくろう>前回つくった色紙を使って造形をおこなった。

主な内容

(1日目) 色水のオリエンテーリング (2日目) 自分の作った 色で自分の花を描こう (3日目) 自分のつくった色紙で動物を つくろう

アーティストから

よく話を聞いて自分で工夫する様子が見られました。同じ指導を受けながら、一人ひとり個性的な表現ができました。

コーディネーターから

この活動はえのぐの導入と描画への指導のあり方の基本となる ワークショップで、現場の教師の育成の面を持っている。





公田小学校 + リリス

アクリル板で遊ぶ、つくる

担当アーティスト 松本光世(造形・五感ワークショップ講師)
実施校 横浜市立公田小学校(栄区)
コーディネート 栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名 総合的な学習の時間
実施概要 体験型/造形/2、3、6学年、1学級、4人
実施日程 2011年11月9日、11月15日



授業のねらい

普段の授業では使用できない材料や材質を使用して今までに体験したことのない造形作品を制作。また、製作の段階で音楽の要素などもあると良い。後日成果が分かるように展示可能な作品を作る。

主な内容

(1日目)アクリル絵の具を使用した板絵の作成(2日目)アクリル絵の具を使用した板絵の作成・装飾

アーティストから

事前に先生方と打ち合わせをしていたため、初対面の時も自然な出会いができたように思う。民族楽器や絵本による導入に、子どもたちが興味を持って参加している手応えが感じられた。子どもたちは、集中する場面では真剣な表情で取り組み、全体的には楽しそうに活動していた。絵の具の色選びや模様には、それぞれの個性が表れていたため、全員の作品を並べると、色や形がバラエティー豊かで、変化と調和を楽しめる作品になった。

コーディネーターから

事前にアーティスト・先生同席の上打合せをしたため、そのあとの進行が非常にスムーズでした。アーティストの人柄もあり、当日は子どもたちもアーティストとコミュニケーションをとりながら、楽しんで製作していました。 板絵というシンプルな素材ではあったものの、工夫次第では色々と手をかけることができるので、作業の早い子も遅い子も飽きずに作業を続けることができたように思います。子どもたちと交流を通して、お互いが色々なことを学ぶことができたプログラムになったかと思います。

先生から

講師の方の人柄がよく子どもたちもとても講師の先生に親しみを持って活動することができて満足しています。また、様々な材料・教材にも興味・関心を持ち子どもたちも集中して充実した時間を過ごすことができました。来年もぜひ申し込みたいなと考えています。機会がありましたら、よろしくお願いします。

子どもたちから

竹ドラムを作ったのが楽しかったです。/またやりたいです。



伊勢山小学校 + テアトルフォンテ

つんでつんでならべてならべて ~虹のアーチ~

担当アーティスト	齋藤眞紀(美術家)
実施校	横浜市立伊勢山小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/美術工芸/2 学年、2 学級、51 人
実施日程	2011年10月4日、10月19日



授業のねらい

- ・夢や創造した世界を、互いに協力しあい、大きな立体作品と して作りあげることを楽しむ。
- ・素材の一部を自由に選択することにより、子どもの個性を引き出す
- ・作品を始めから終りまで根気よく作ることにより、達成感を 得る。 またそれにより創造する楽しさを感じる。
- ・芸術家の指導により、自由な発想、形にしていく楽しみを発 見する。

主な内容

(1日目) 工作用紙に正四面体の製図を行う(2日目) 製図を切り取り、正四面体を作成する。正四面体に色紙を貼る。作成した正四面体をつなげ、アーチを組み立てる。

アーティストから

造形講座でも、特に立体造形では辛抱して作る地味な課程も出て来ますので、どれだけ子供達が飽きずにやってくれるのか?この点が多少不安でしたが、私が思っていた以上に、子供達は指示を良く聞いて制作をしてくれたと思います。ただ、美術館等での講座と違い、こちらが小学校へ出向くというのは、子供達が自分のホームグランドでリラックスして行える利点がある反面、一度コントロールを外してしまうと、授業自体が成立しなくなるリスクもある様に感じ、改めて難しさを実感しています。

コーディネーターから

「製図・図形の組立・色紙貼り」の工程を一人一人が行い、一つの造形物を作成し、それを共同で組み立て一つのアーチを作り上げる「はじめからおわり」までを体験できるプログラム内容だった。製図・図形の組立などの作業も、予想していたより子ども達が集中し頑張って作成しており、色紙貼りではそれぞれの工夫も見えた。プログラムの一部を授業参観で実施し、親子ともに体験してもらえた。もし時間があれば最後に子ども達の意見を聞く時間を設けられると良かった。プログラムを通じて、「つくる」「創造する」ことを子ども達なりに感じ取ってもらえたのではないかと思う。

先生から

どの工程ででも子どもたちはとても楽しんで取り組めていました。立体の作図はまだ学習していないこともあり、苦戦していたようなのですが、先生方が細かくご指導下さったので、無事書き上げることができ、子どもも満足気でした。一人ひとり好きな色の折り紙を貼ったりし、個性を生かしながら、全員で一つの作品に取り組んだことは子どもたちにとってとても良い経験だったと思います。また先生方のような素晴らしいアーティストさんに教えていただくことができ、本物との出会がどれほど大切かということを実感致しました。今後とも、本校にて様々な芸術活動をお願いできれば、大変嬉しく思います。

子どもたちから

アーチができたこと。アーチが出来るとは思っていなかった。 にじをくぐれて楽しかった。さんかくだけでアーチになった。 今までで一番たのしい授業だった。





山田小学校 + 黄金町エリアマネジメントセンター 普段動かないモノに、自分で動きを与えてみよう

担当アーティスト	Papermoon Puppet Theatre (アーティスト)
実施校	横浜市立山田小学校(都筑区)
コーディネート	NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型/人形劇/5 学年、3 学級、91 人
実施日程	



授業のねらい

アートの実践者との交流により、アートが持ち備える柔軟性や 可能性にふれること。個人の表現と社会との深い関わりを体験 すること。

主な内容

①簡単なジェスチャー付き自己紹介②緊張をほぐすためのゲーム(並べ替えゲーム、波・嵐ゲーム)③新聞紙を使ったヘビのパペット(人形)作り④ヘビの実演発表⑤ペーパームーンパペットシアターの作品である車人形の実演⑥終わりの挨拶

アーティストから

子どもたちはとても可愛らしく、彼らと同じ時間や経験をシェアすることができてとてもよかったし、興奮しました。彼らがどんどん元気になるので、私たちも釣られて元気になったのです。私たちは子どもたちに活力をもらったのだと思います。ただ、1回につき 45分という時間は短すぎました。内容をこなすことに精一杯になりがちで、また、子どもたちもせっかく気持ちが高まっていたところで終わりとなってしまったので、それは非常に残念でした。けれどもあの日のワークショップは、私たちにとって幸せな時間でした。

コーディネーターから

今回のアーティストはインドネシア人だったが、偶然にも当学校にインドネシア人の先生がいるとのことで、子どもたちに大きな戸惑いはなかったように感じた。また、身体を動かすゲームにも時間を割き、緊張をほぐすプログラムを経て、パペットを動かす流れとすることで気楽な雰囲気づくりを行なった。クラスによって子どもたちの雰囲気や反応は全く異なったが、全体的に集中して進められたのではないかと思う。ヘビのパペット以上に子どもたちが興味新々で見ていたのはアーティストの作品が登場し、それが動きだした場面である。車人形という珍しい人形劇の特徴はもとより、アートの実践者が作り出す作品の魅力を感じられたのではないかと思う。

先生から

海外の芸術にふれるという点では、よかったかも知れない。ただ、短い時間(45分)であったため、アーティストの方も苦労したのだと思う。



六角橋中学校 + 横浜市民ギャラリー

六角コネクション

担当アーティスト	AS 輪組(アーティストグループ)
実施校	横浜市立六角橋中学校(神奈川区)
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型/現代美術/2 学年、8 学級、291 人
実施日程	2012年1月16日、1月23日



授業のねらい

身近な生活空間(学校空間)を2年生全員が分担して再デザインすることで、誰もが実生活のなかで快適な空間を創出することができるということと、「良いデザインとはなにか」ということをグループ・ワークを通じて共有し、実現することでクリエイティブな職業のあり方・制作プロセスに触れる。

主な内容

ミッション配付(グループ分け)~制作説明~色付け、構成・ デザイン~壁面設置



アーティストから

授業では生徒さんたちの Power を感じました。普段の鳥塚先生の真摯な教育的効果の高い授業には及びも付きませんが、私どもにとりまして、勉強になり楽しい取り組みをさせていただき、感謝申し上げます。

コーディネーターから

制約や条件を自らの限界と定めないアーティストとしての基本 的姿勢と学校側の要望の中間地点を見定めるのがコーディネー ターの役割であり、求められるものと感じました。泉のような アイディアが提示される一方で、授業時間・生徒一人ひとりの 現時点での容量を勘案すると、セーブ役にまわることが多いの も事実です。学校現場に自由でクリエイティブな空気をよびこ む力があるのもアーティストなので、これからも良質なアーティストを生徒に出会わせる機会が継続されることを望みます。



汐見台中学校 + 横浜美術館

美術館へ行こう・美術から広がる仕事

 担当アーティスト
 清水勝清 (美術表具師)

 実施校
 横浜市立汐見台中学校 (磯子区)

 コーディネート
 横浜美術館

 実施科目・教科名
 美術

 実施概要
 鑑賞型/美術/1 学年、4 学級、146 人

 実施日程
 2012 年 1 月 16 日、1 月 17 日



授業のねらい

中学生向け美術資料(神奈川の美術)に、「美術館へ行こう、美術から広がる仕事」というページがあります。今回は、横浜美術館の施設やそこに携わる様々な仕事について紹介します。特に美術から広がる仕事として、まず、学芸員や美術作品と美術表具師との関係について専門学芸員から話をします。次に美術表具師の実演を行います。作品をいつまでも大切に展示するためには、優れた技が必要である事、また、美術館は様々な人が支え合って成立っている事を中学生に知っていただきます。

主な内容

学芸員の仕事、日本画について。美術表具師実演、裏打ち体験等。様々な協力で成り立っている美術館。

アーティストから

現在、美術表具の仕事を知る人が少ないので、今回は、中学生の頭の隅っこに少しでも記憶が残ってくれれば良いと思った。 表具の仕事は、人に着物を着せるようなもので、作品をどのように飾るかという事。仕事の一部分だが、今回行った裏打ちをする事で、墨の濃淡がはっきりとでる事や、紙がピンと張って丈夫になる事、材料を丁寧に選んで扱う事は、美術や美術以外の事でも役に立つ事を知ってもらった事は、非常に良かったと思う。

コーディネーターから

美術館の日本画担当八柳学芸員の仕事や掛け軸等の取り扱いについての話と実演、日本画の表具について美術表具師(清水氏)の話と裏打ちの実演の後、、あらかじめ用意した生徒の習字作品で、希望者による裏打ち体験をした。表具の技術が作品をより良く見せる事や作品を保存する為に重要な事を知った。また、美術館で多くの人が関わって仕事が行われているのと同じように、表具も様々な職人さんの協力で成り立っている事、絵を1枚展示する為には様々な仕事が関係している事を知ってもらった。

先生から

「自ら作品を創る」「芸術作品と向き合い、その良さを伝える」 「芸術作品を保存修復する」など芸術に関するプロフェッショ ナルな方たちにふれ、その「心」や「技」、仕事内容などについ て話をしていただくことで、美術の広がりや社会とのつながり について体験的に学ばせることができた。また、講師による「裏 打ち」体験により屏風絵、ふすま絵といった芸術作品を支える 技としてだけではなく、伝統的な生活の中で培われてきた技や 知恵を体験し、日本美術を身近なものとして体験できた。彼ら が今後修学旅行などで接する作品にも親近感を持ち接すること ができるだろう。

子どもたちから

伝統の技術、道具などに対する発見や驚き。/日本の和紙の優秀さに対する驚き。



大正中学校 + 横浜美術館

絵具のざいりょう

担当アーティスト	鈴木淳(画家・絵画保存修復家)
実施校	横浜市立大正中学校(戸塚区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型/絵画/1 学年、5 学級、200 人
実施日程	2011年12月7日、12月8日

授業のねらい



2010、2011 年度のプログラムをベースにデモンストレーションを交えながら画材や絵画の保存・修復についてのレクチャーを行う。中学生たちが普段使用している画材も含め、美術館に展示されている絵画などが、どのような画材で描かれているのかなどの知識を深めてもらうとともに、美術館に展示されている作品が、様々な人々の手により大切に維持され、未来に向けて受け継がれて行くべきものであることを理解してもらうことをねらいとする。また、今年度は、より生徒たちの関心を高め、プログラムの内容を身近に感じてもらうために、校内の土を使って絵具を作る試みを実施する。

主な内容

絵を描くために使う絵具の役割としくみについて。講義、資料 提示、絵具作製デモンストレーション。

アーティストから

過去2年の経験を含めて、授業前の準備の大切さを実感している。今年は学校の敷地で採取した土から絵具の顔料を作る工程を示した。準備には例年以上に時間を要したが、実演を熱心に見る生徒の表情に接し、絵具への関心を高めることができたと感じた。

コーディネーターから

3年目となる大正中学校の今回の授業では、過去の積み上げを 元に新たなアイデアと工夫を盛り込み万全の準備をしていただ いたアーティストの方と本年度から本プログラムを引き継いだ にも関わらず、大変協力的に取り組んでいただいた美術担当教 論の方のおかげで、大半の生徒の皆さんに興味を持って授業に 参加いただけたと思う。

先生から

鈴木先生が生徒の注意を引きつけるように工夫していただいて 感謝しています。生徒が落ち着いていない中での授業ありがと うございました。





鴨志田中学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野 学校展覧会

担当アーティスト	· 淺井裕介(美術家)
実施校	横浜市立鴨志田中学校(青葉区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型/美術/1 学年、2 学級、80 人
実施日程	2011月10月13日



アーティストから

個人の作業から全員で一つのものを作り上げることにつなげていった。中学校の一角をたくさんの鳥で満たすことができた。

コーディネーターから

中学校の美術にコンテンポラリーアートは欠かせられないもの。 今回担当したアーティストは、子どもになじみやすいと思った。

先生から

今年で3回目の取り組みとなり、他教科の先生方からも良い感想を頂いています。子どもたちも、アーティストの個性に触れることができたようで時間がたつのも忘れて取り組んでいました。こちら側の希望をくんでくださる、市民ギャラリーあざみ野の方々との連携も取れましたので、安心して当日を迎えました。今後も引き続き取り入れていきたい活動です。ありがとうございました。

子どもたちから

皆で協力して大きな作品が作れて楽しかった。/またやりたい。 /自分の作品に誰かが手を加えることは、小学校ではなかった ので新鮮でした。

授業のねらい

1 校時目、淺井裕介が自身の作品の解説をしながらコンテンポラリーアートについての授業をする。 2 校時から 4 校時にかけて校舎内の壁面にカラー養生テープで植物のインスタレーションの制作をする。

主な内容

集団制作





中村特別支援学校 + ART LAB OVA

まひるのディープ・ヨコハマ*アートクラブ・ナイト

 担当アーティスト
 村井啓哲(サウンド・パフォーマー)、来島友幸(美術家)、ノシロナオコ(ダンサー)、北村伊知郎(美術家)

 実施校
 横浜市立中村特別支援学校(南区)

 コーディネート
 ART LAB 0VA

実施科目・教科名 自立活動

実施概要 体験型/現代美術/全学年、63 人

実施日程 2012年1月23日、1月24日、1月25日、1月26日、1月27日



授業のねらい

この学校の対象児童・生徒が、重度心身障害児たちなので、「学校や家庭だけでは、なかなか経験できないことを体験させたい」ということで、学校側が、5日間通して使える部屋を用意してくれた。メディア系のアーティストやダンサーなどを日替わりで招聘し、毎日、ちがう感覚と空間を体験できるように作りこんだ。

主な内容

(1、2日目) 小さな音、弱い光などの、微細な変化に身をおき、感覚を開いてゆく。 (3日目) 音響空間の中で、ダンサーとともに、揺れや振動を通してコミュニケーションをする。(4、5日目) 自分や友だちの心臓音を、聞いたり、見たり、体感することで生まれる空間を楽しむ。

アーティストから

村井啓哲:心拍音を感じて遊ぶイベントを行ったが、4人のアーティストと OVA のコラボレーションによる五日間の複合的なプログラムであった為、アイデア面でも機材面でも様々な恩恵と刺激を受けた。生徒と職員の皆様はそれぞれの在り方において多様な印象を抱かれたことと思われる。心拍音の意外な多様性を聴き進む中で、いくつかの笑顔と不思議そうな表情が印象に残った。また作品制作の前提と対象を改めて再考すべき機会を授かり、常になく感謝している。

来島友幸:ドアノック、どれだけノックできたのだろうか。そもそもドアなどあったのだろうか? ワークショップで気にかけたこと、それはどこまで子供たちの感覚に直接響くことがで

きるのかってこと。 大人、健常者、先生よりも実際に体感する であろう子供たちに。 あの子たちの顔、振る舞い、それが答え だよね。 わぁ今まで見たことない笑顔だよ。そして最後にいた だいた花が美しく、うれしかった。 ああ、ちょっとは届いたの かな、

ノシロナオコ:エアマットに身を委ねた子どもたちの間をダンスしながら、子どもたちが各々の身体感覚で私の動向を観察しているのが感じられました。そして次第にその感覚は研ぎ澄まされていくようでした。しばらくすると、わくわく、どきどき、びくびく、といった一人一人の異なる感情さえ伝わってくるようになりました。何と繊細で感情の豊かな子どもたちだろう。コミュニケーションの形にも個性がある。今、また更なる可能性を感じています。

北村伊知郎:生命感を象徴する「心臓」の音をスピーカーで拡張したり、振動や光の点滅に変換する装置などを配した教室で、子ども達と非言語的な対話を心がけた。あるクラスでは、一人の男の子が音や光に合わせて大太鼓を叩き始め、授業時間が終わってもリズムを刻み続けた。先生方には驚きも見受けられたが、その場にいる皆から笑顔がこぼれ、穏やかな時間が流れていた。子どもたち、先生方、アーティストが一緒になって空間をつくりあげ、それぞれが多くの刺激をすくい取れた有意義な時間だったのではないだろうか。

コーディネーターから

今回、会場が校舎から独立した手ごろな広さのプレハブであったこと、日数が5日間あったことなどから、じっくりと取り組むことができました。毎日2名のアーティストを配置したことによって、アーティスト同士お互いに様々な話し合いや工夫をすることができ、充実した内容にできた理由と思います。そしてなにより、アーティストが毎日、こどもたちや先生といっしょに昼食を食べたことは、こどもの日常に触れながら授業を考えたり、関係づくりに欠かせない重要な時間でした。

先生から

「まひるのディープ・ヨコハマ*アートクラブナイト」と題して、 日頃授業では作り出せない空間をプロデュースしていただきま した。音・光・振動・リズム…等、どれもが子どもたちにとっ て新鮮な体験でした。今回で終わらず、さらにバージョンアッ プした"秘密の空間"を子どもたちと一緒にぜひ楽しみたいと願 っています。

伝統芸能分野の取り組み



古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している 伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、 ふだん触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。 知らない世界と出会う楽しさがひろがります。



羽沢小学校 + よこはま音楽広場実行委員会

琴を体験しよう

担当アーティスト	吉澤延隆(箏・十七絃箏)、池上亜佐佳、小池摩美、三浦可栄
実施校	横浜市立羽沢小学校(神奈川区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/邦楽/4 学年、3 学級、97 人
実施日程	2011年9月28日、9月30日



授業のねらい

日本の伝統楽器に触れる機会を持つことで、日本固有の音楽への理解に繋げたい。「さくらさくら」を授業で合唱した経緯から、異なる楽器で同曲を演奏することで、さらに音楽への学びを深めたい。

主な内容

(1日目) 琴の紹介、楽譜の読み方から演奏法までの基本事項 を習得、練習(3名一面共有)(2日目)練習、さくらさくらの 発表会、講師によるコンサート

アーティストから

昨年度に続き二度目の派遣授業となった今回は、校長先生やPTA、地域の方々も参観にくる一コマもあり、学校一丸で子供たちの箏体験・体感に取り組んでくださっていることを実感する授業となりました。授業の箏体験では、楽器1面をグループ3名で順番に体験する形をとり、その順番を待つ間、友達のために絃名を口ずさんでいたり、楽譜を指さしたり、一緒に一つのことに向かっている子供たちの光景がとても印象的でした。

コーディネーターから

昨年度と同じプログラム内容のご希望により、同じ講師による 取り組みとなったが、今年度は事前に保護者に周知されていた ことで、保護者のみでなく兄弟や PTA の方も熱心に参観される 機会となった。自宅でもお琴の話で盛り上がったことを伺うと、 この体験がいかにこども達に新鮮な表現の機会をもたらしたか と、家族も含めて学校全体が昨年度の経験を踏まえて、よりアーティストとこども達との関係性を尊重して下さったことを感じた。

先生から

今回、琴の演奏体験、琴曲の鑑賞の授業を行って頂きました。 まだ触れたことのない楽器に子どもたちははじめは不安な様子 もありましたが、アーティストさんが楽器についてや楽器の演 奏の仕方について分かりやすく丁寧に指導して下さり、2 時間 目の授業では発表会で「さくらさくら」を演奏でき、達成感を 味わい喜んでいました。また、日頃の鑑賞の授業で音楽の良さ をどう伝えていけばいいのか悩むのですが、生の演奏に、琴の 音の美しさや日本の音楽の良さをしっかり感じ取ることができ たようでした。子どもたちに貴重な経験をさせることができて よかったです。ありがとうございました。

子どもたちから

はじめは難しかったけれど、先生たちが優しく教えてくれて弾けるようになってうれしかった。また、演奏してみたい。/先生たちが最後に演奏してくれた「さくら変奏曲」がすごかった。/琴の音はとても美しかった。





南神大寺小学校 + 久良岐能舞台

狂言を体験しよう(1)

担当アーティスト	善竹富太郎、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	横浜市立南神大寺小学校(神奈川区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型/狂言/5、6 学年、4 学級、98 人
実施日程	2011年11月28日



授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

アーティストから

今年のアウトリーチも3回目となり、だんだん体験事業でやりたい話の内容などが出来上がり、子供たちにも楽しんでもらえる内容が固まったから良かった。全員の参加する姿勢が素晴らしい。

コーディネーターから

担当した先生がとてもしっかりした方で、準備段階からとても助かりました。先生がしっかりしているので子供たちもしっかりと集中して参加している姿勢が印象的でした。当日は午前と午後で2校回りましたが、こちらの学校には給食もご用意頂き助かりました。

先生から

日本の伝統文化でありながら普段なかなか見る機会の少ない狂言を間近で鑑賞できるのは大変貴重でありがたいことだと思います。子どもたちにとってはほとんどの子どもが初めてのことなので「どんなものが始まるのか…」という感じでしたが舞台が始まったとたんにくぎ付けになっていました。また、見るだけではなく実際に自分も動いてみる、ということもあり、より興味を持つことができたのではないかと思います。解説も楽しく難しく考えていた子どもたちも笑いながら狂言について詳しく知り楽しむことができました。このようなプログラムが、どこの学校でも毎年のように体験できれば日本の文化・芸能に関心を持ち大切にしようとする心も育まれるのではないかと思います。

子どもたちから

今のお笑いよりもおもしろかった。他の演目も見て見たい。何を行ってるのかわからない時も会ったが、動きで大体わかった。 声の高低が自由に出せてすごい。「面白い」の意味がわかってよかった。言葉の表現の仕方が面白い。笑うとみんなが楽しくなった。



大鳥小学校 + 久良岐能舞台

狂言を体験しよう(2)

担当アーティスト	善竹富太郎、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	横浜市立大鳥小学校(中区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型/狂言/6 学年、3 学級、99 人
実施日程	2011 年 11 月 16 日

授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

アーティストから

参加する姿勢がとても礼儀正しく、講座もとてもやりやすかった。 教科書の内容についてもよく学んでいて良かった。

コーディネーターから

狂言の講座として鑑賞・体験と通して実施しましたが、誰ひと りとして列を乱すことなく素直に参加してくれてとても参加態 度の良い学校でした。

先生から

伝統文化というと何か重くかたいイメージがありますが、それを感じさせないユニークな口調と方法で日本の文化のすばらしさを伝えていただきました。今後は今回の体験で得たことを大切にしていって欲しいと思います。子どもたちの興味関心は、いつも新しいものばかりに向いているのではなく、時に古いもの、よいものにも向けられるということを感じました。そういったきっかけをこれからも教師として子どもたちに与えていきたいと思います。







本牧南小学校 + 荒馬座

エイサーを体験しよう

 担当アーティスト
 荒馬座 (民族歌舞実演家)

 実施校
 横浜市立本牧南小学校 (中区)

 コーディネート
 荒馬座

 実施科目・教科名
 総合的な学習の時間

 実施概要
 体験型/エイサー/5 学年、2 学級、52 人

 実施日程
 2011 年 9 月 7 日、10 月 5 日



授業のねらい

- ・「動き」だけでなく踊りの「心」を感じる取り組みにしたい。
- ・自分たちの暮らす生活圏とは異なる場所や時間の中で生きている文化に触れることで、自分たちの国の文化や伝統に対する 愛着を深めるきっかけにしたい。
- ・体いっぱい動かして仲間と一緒に踊る楽しさを体験する。

主な内容

(1日目) 見本の踊りをみてイメージを膨らまし、エイサーの 南嶽節と唐船ドーイを覚える。(2日目) 前回の復習と隊形移動 も入れて簡単な構成を作りクラス毎に踊る。

アーティストから

唄やかけ声も恥ずかしがる事なく大きな声を出し、一生懸命楽しみながら踊ってくれていた。太鼓は教材業者から購入している簡易の物なので壊れやすく残念。2回目にはバチ裁きや体の向きが徐々に揃ってきて隊形移動をしながら踊る事も出来るようになり、運動会では更にかっこよく踊ってくれそうだった。子どもたちがおもしろがって取り組んでくれたのが良かった。

コーディネーターから

昨年に引き続き2年目の学校ですが、前任者や実施希望調書を書いた副校長が異動となり今プログラムについての引き継ぎが校内でされておらず学校側の責任者が最後まではっきりせずに終わった感がある。実施内容については1日目と2日目の間がかなり空いてしまったので心配でしたが、担任の指導もあり仕上げに向けてスムーズにすすめることができました。子どもたちは2日間とも一生懸命取り組み、休憩中も休むことなく踊っていたりと運動会に向けてモチベーションも高まり体いっぱい使って表現してもらえそうだ。

先生から

どんな領域でも言えることだと思いますが、本物に触れるということは子どもたちにとって非常に良い刺激になると感じました。今回エイサーを教えていただきましたが、始めに見せていただいた時の驚きや感動、迫力のすごさが心の中に残っていたので、練習でうまくいかなかったり、くじけそうになったときでも、あきらめずにがんばることができたように感じます。2回に分けて教えていただきましたが。2回目のときにこれまでがんばって練習してきたことをほめてもらえました。専門のアーティストの方に認めてもらえたことも子どもたちの励みになったようです。

子どもたちから

1回目に教えてもらった時は失敗ばかりだったけど、2回目のときはうまく踊れたのでうれしかった。教えていただいた舞を運動会で踊った時、家の人にほめてもらったのでうれしかった。





並木第一小学校 + 久良岐能舞台

狂言を体験しよう(3)

 担当アーティスト	善竹富太郎、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	横浜市立並木第一小学校(金沢区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型/狂言/全学年、12 学級、357 人
実施日程	2011年11月28日



授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

アーティストから

全校生徒が参加する事でひとつの学校行事になっていたように 感じた。低学年の児童も全員が集中して楽しんでいたのが本当 に良かった。話もよく聴き、笑い声がいろんなところから聞こ えてきてとてもやりやすい学校でした。

コーディネーターから

体育館いっぱいに子供たちが綺麗に座り、最初は緊張しているようでしたが、善竹さんの話でとても和やかな雰囲気になり、特に低学年の子供たちは楽しそうに笑い合っていたのが印象的でした。体験は高学年にしぼって開催しましたが、ある程度の緊張感を持ちながら楽しんでいたので全体的に良い構成だったと思います。

先生から

狂言を鑑賞し体験するという経験は、なかなかない貴重な経験であった。「百聞は一見にしかず」である。教科書で数枚の写真を目にし、CDで聴いたが、やはり実際に見ることに勝るものはない。アーティストの方が狂言について分かりやすく説明をしてくれたので1~6年生という幅広い学年が鑑賞したが、十分に楽しめ、狂言への理解を深めることができた。「いいものは、取り入れる」という狂言師(アーティスト)の言葉が印象的で学級でも再度同じような話をしました。目で見て、いいものは、どんどんぬすんでいってほしいと思います。今回学んで「いいな」と思ったことは、自分に取り入れてほしいです。

子どもたちから

体験したら太ももが痛くなって、これでセリフを言ってると考えたらすごいと思いました。/ほかの狂言も見てみたいです。 /本物だと、とても迫力がドッドンと違うのでとても良かったです。





川上小学校 + 横浜市芸術文化振興財団

三味線を体験しよう(1)

担当アーティスト	安田忠義(三味線)、千葉暢(三味線)、千葉郁代(唄)
実施校	横浜市立川上小学校(戸塚区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型/三味線/6学年、2学級、63人
実施日程	2011年12月6日



授業のねらい

日ごろ邦楽に触れる機会の少ない子供たちに、その機会を提供する。三味線への関心を喚起することに始まり、いづれ日本の伝統文化への関心も高めてほしい。児童が三味線を弾くことを中心にした体験型授業。

アーティストから

川上小学校の生徒たちは素直で礼儀正しく、大変やりやすかった。日本の伝統を子供たちの代へ伝えるのは重要な事であり、 大人になってからではなく、感受性豊かな子供の内にこそ、このような機会が必要である。邦楽のプログラムはぜひ続けてほしい。 (安田忠義先生談)

コーディネーターから

授業に対する生徒の反応はとても良かった。邦楽への抵抗が全くないのには驚かされた。ジャンル問わず伝統的なものには、 子供の頃から触れさせた方が良い。

先生から

今回は2時間の中で三味線の扱い方を知り「さくらさくら」を 演奏できるようになろうというめあてで学習が進められました。 子どもたちは先生のお話や模範演奏に非常に興味を持ち、食い 入るように見ていました。盛りだくさんの内容でしたが、足の しびれも忘れて集中して取り組んでいる様子が印象的でした。 また三味線に触れてみたい、日本の音楽について学習したいと いう思いを持ったようです。貴重な体験をさせていただきあり がとうございます。

子どもたちから

初めて触ったので難しかったけど、弾けるようになって嬉しかった。/アドバイスをいていただいてきれいな音が出るようになってうれしかった。/三本の弦だけなのに、それを巧みに操ってきれいな音色を出していたので素晴らしいと思った。/またさわれる機会があったらぜひ挑戦してみたい。/他の和楽器も学んでみたい。



下郷小学校 + 横浜市芸術文化振興財団

三味線を体験しよう(2)

担当アーティスト	阪本剛二郎 (三味線)、吉住小津弥 (長唄)、安田忠義 (三味線)
実施校	横浜市立下郷小学校(戸塚区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型/三味線/4、6学年、4学級、124人
実施日程	2011 年 12 月 19 日



授業のねらい

日ごろ邦楽に触れる機会の少ない子供たちに、その機会を提供する。三味線への関心を喚起することに始まり、いづれ日本の 伝統文化への関心も高めてほしい。講師の演奏を中心にした鑑 賞型授業。

アーティストから

初めて三味線の演奏を聞く生徒にとっては、この授業が邦楽の イメージを決定づけることになる。中途半端な責任感ではでき ない。

コーディネーターから

邦楽は日本の伝統芸能でありながら、学校教育の中で長らく抜け落ちていた学科であり、リバイバルのためには、今の子供の代から親しんでもらう必要がある。また、その際には三味線二人、唄一人という構成が最低限必要である。

先生から

はじめに、このたびはこの事業に参加させていただきましたこ と、本校校長をはじめ、教職員、児童一同、心より感謝してお ります。今回は阪本剛二郎先生を中心とした三味線と長唄の演 奏を子どもたちに聴かせていただきましたが、私自身もなかな かこのようなジャンルの演奏に触れる機会が少ないものですか ら、新たな刺激を受け、目を開かせていただいた一日でした。 日ごろの音楽の学習の中では和楽器を取り上げる時間は少なく、 また、学校の備品の中にも楽器自体がないところから、和楽器 や邦楽に触れることができないと日々感じておりましたので、 阪本先生においでいただき、演奏や楽しいお話、そして実際に 楽器の体験をさせていただいた一時間は大変充実した時間とな りました。予備知識もなかったにもかかわらず、二十数分にも 及ぶ鏡獅子の長唄と三味線の演奏を子どもたちは(4年生と6 年生) 食い入るように見つめ、聴き味わっておりました。厳し いきりりとした表情で演奏された先生が、次の瞬間打って変わ ってユーモアたっぷりに楽しいお話をしてくださったり、質問 にていねいに応えてくださったり、子どもたちは大満足でした。 学校には三味線は二丁しかないのですが、次の日から、子ども たちが入れ替わり立ち替わり「三味線をさわらせてください」 とやってくるようになりました。子ども達のみならず、私たち 教職員にも、このような経験と時間を与えてくださり、本当に ありがとうございました。



戸塚小学校 + 久良岐能舞台

能楽囃子を体験しよう

担当アーティスト	成田寛人(笛)、森貴史(小鼓)、大倉慶乃助(大鼓)、大川典良(大鼓)
実施校	横浜市立戸塚小学校(戸塚区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	音楽、総合的な学習の時間
実施概要	体験型/邦楽/6 学年、4 学級、126 人
実施日程	2011年12月12日、12月13日



授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し能楽や囃子音楽の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、講師4名による囃子の演奏を盛り込みながらそれぞれの楽器体験を1クラス毎に開催し理解を深める。2日目には合同発表会を開催し楽しみながら能楽囃子を体験し、講師から丁寧な解説を受け、古典芸能に対する知識や興味を高めるように繋げる。

主な内容

(1日目) 1クラスずつ楽器体験:3クラス実施(2日目)楽器体験(1クラス実施)、学年合同で鑑賞事業

アーティストから

体験時間は子供たちひとりひとりが実際に楽器に触れる時間を持つことに重点を置きました。時間は決して十分ではありませんが、楽器を鳴らすことが目的ではなく、能の楽器は難しいと実感してもらうことが目的なのでそれは達成したと思います。鑑賞事業では囃子の最も難しい気合いや集中力のいる名曲を演奏に入れる事で、子供達にもプロの熱意が伝わっていれば幸いです。今回のような企画はとても有意義で必要だと思いますのでぜひ継続してください。

コーディネーターから

今回はアウトリーチでは初めての囃子楽器体験事業で2日間に渡り実施し、学校とも事前打ち合わせとして講師と出向きました。子どもたちはとても集中して楽しんでいたので実施した後は本当に良かったと思いました。

先生から

子どもたちにとっては大変良い体験ができ、良かった。生の迫力有る演奏を間近で感じることができると言うのはとてもすばらしいことだと改めて感じた。能という伝統芸術はほど遠いところにある音楽だと思っていたが、昔から生活に密着しているということも理解し、多くのことを学ぶことができたと子どもを観察していても思った。

子どもたちから

日常触れることのできない楽器に触れられたのはよかった。演奏者が真剣に取り組み、迫力があったのがよかった。





鳥が丘小学校 + 横浜にぎわい座

落語を体験しよう

担当アーティスト	桂枝太郎(落語家)
実施校	横浜市立鳥が丘小学校(戸塚区)
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型/落語/6 学年、4 学級、141 人
実施日程	2011年11月7日、11月16日



授業のねらい

古典芸能である「落語」に親しんで、その中で話し方での抑揚のつけ方等表現方法や話し方を学びます。課題として落語「つる」設定し、発表を希望する児童にが考えてきて発表する。それをクラス全員で聞いて自己表現やコミュニケーション手段としての声の出し方、自分の気持ちを伝えるヒントを取得する。合わせて、謎かけをクラス全員が考え、発想の転換や言葉の面白さを体感する。

主な内容

(1日目) 落語や寄席に関するレクチャー/課題落語「つる」 の鑑賞/宿題:自作の「謎かけ」を考える(2日目)課題落語 「つる」の発表/大喜利~自作の謎かけ発表

アーティストから

今年も引き続き鳥が丘小学校に呼んでいただき、学校プログラムとして、落語の授業をさせていただきました。昨年の生徒さんと同じく、積極的に演じ、発表してくれていました。その中には、生徒さんでなければ思いつけないようなネタや発想もたくさんあって、私の方が参考になったかもしれません。1日に4回の「つる」を演じるのは、寄席に出るよりも重労働な気もしましたが、その労力に見合う反応を返してくれていました。次は、寄席にも足を運んでいただき、「観る」体験もしていただければと思います。

コーディネーターから

短くてシンプルな噺とはいえ、きちんとした落語の演目である「つる」を、子どもたちが大きな口を開けて笑っている姿に、プロの演者の話芸の技術を実感するとともに、「落語」を学校のカリキュラムの中に持ち込むことに、普段、それに接している自分たちの方が勝手にハードルを上げてしまっていたのかもしれないと感じました。また、同じ学校に、同じ演者で実施したこともあって、先生側の理解も深まっていおり、プログラムを自由に進めさせていただけたことも、やりやすい環境につながっていたと思います。



南舞岡小学校 + 荒馬座

荒馬踊り

担当アーティスト	荒馬座(民族歌舞実演家)
実施校	横浜市立南舞岡小学校(戸塚区)
コーディネート	荒馬座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型/荒馬踊り/4 学年、2 学級、43 人
実施日程	2011年11月10日、11月28日、12月3日



授業のねらい

- ・今授業で行う芸能の体験が5年生で行う稲作と深く結びついている事を知り、米作りへの意欲を高める取り組みとする。
- ・思いっきり体を動かし表現することの楽しさと友達と一緒に 踊る楽しさを感じる。
- ・学校の伝統として「荒馬踊り」を受け継ぐ。

主な内容

(1日目)座員による見本の踊りを見て、イメージを膨らませる。荒馬踊りが踊られている背景や振りの意味を知り、基本の振りを踊ってみる。馬、ハネト、お囃子に分かれて練習。「2つ飛び」「4つ飛び」「ギャロップ」の3つの振りで構成をつくって踊ってみる。(2日目)前回の踊りの復習。かけ声を掛け合いながら踊る練習。1回目の構成に「かもしか飛び」を加え、新たな構成にして踊る。グループ毎に踊り、その後全体踊りを数回繰り返す。(3日目)披露に向けて踊りの復習後、児童・保護者・地域の方々へ披露。(全5回披露)終了後、担当講師より講評。

アーティストから

毎回、事後指導を先生方がしっかりおこなってくれていたので子どもたちの混乱もなく、踊りのポイントやかけ声の大事さなど細かい所への指導ができた。子どもたちは素直で、踊れば踊るほど目を輝かせ、顔つきが変わり、踊りとお囃子の一体感が出てきて荒馬踊りを好きになって行く様子が伝わってきた。3日目の5回の発表も沢山の皆さんに見てもらうことができ、大きな拍手やかけ声の応援でひとりひとりの笑顔が輝く場面がたくさん見られ、嬉しい発表会となった。

コーディネーターから

踊りの引き継ぎが事前に行われていたので、子どもたちのやる 気を毎回の授業の中で引き上げていくことができ、最終的には 子どもたちが自信を持って踊りきっている様子に胸を打たれた。 道具に関しては、「ある物を補修して使う」にとどまり、新調す るところまで至らなかったのが悔やまれる。次年度も取り組み たいという強い要望にどう応えていくかが課題。今年も昨年に 増して卒業生の見学があり、「自分たちの時とは構成が違う」「踊 りが揃っていた」など感想を言ってくれ、4年生の時に踊った 感覚が蘇ってきた様子だった。

先生から

毎月4年生に「荒馬座」のご指導をお願いし、今年も子どもたちはとても楽しみにしていた。11月10日に基本の指導、28日に仕上げの指導で来校していただいたが、子どもたちはとても意欲的に真剣に取り組むことができた。12月3日土曜参観日に保護者・地域の方々・他学年の子どもたちに対して計5回の発表を子どもたちが行ったが、とても充実した発表となり見てくださった方々からもおほめの言葉をいただき、子どもたちもとても満足感・達成感を持つことができた。本校での伝統となってきており、これからも「荒馬座」の来校・ご指導をお願いしたい。





希望ヶ丘小学校 + 横浜にぎわい座

筝を通して日本の音色を知る

担当アーティスト	米澤浩(尺八)、熊沢栄利子(筝)
実施校	横浜市立希望ヶ丘小学校(旭区)
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/筝/6 学年、3 学級、90 人
実施日程	2012 年 1 月 23 日、1 月 26 日



授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器である「筝」の演奏を体験し、学校の OB でもある講師による尺八と箏の演奏を鑑賞することで、日本古来の音色に多様な形で触れる機会とする。限られた時間の中で、筝を自由な発想で使用して行う「音づくり」からスタートし、耳になじんだ「かえるの歌」「さくら」を、邦楽用の縦型の譜面に沿って練習。その成果発表として、お互いに演奏を披露し、最後に講師の演奏を鑑賞することで、邦楽の魅力に多面的に触れる機会とする。

主な内容

(1日目) 筝を使った音作り/「かえるの歌」の練習(2日目) 響き体験/「かえるの歌」「さくら」練習/クラス発表+講師ミ ニコンサート

アーティストから

希望ヶ丘小学校におけるワークショップも4年目となったが、今年度は2日間での実施となったため、「音づくり」と、1人1台の筝を使用して楽器に親しむ時間の確保を行いつつ、学校側から要望でもある「春の海」の鑑賞まで、本プログラムの中心要素を抽出して盛り込む形とした。これが可能だったのは、これまでのプログラムの中で蓄積されてきた経験と、先生・コーディネーターとの連携が威力を発揮した成果と思料します。

コーディネーターから

4年連続での実施で、講師・先生・コーディネーターの3者の 連携が取れていたのに加え、毎年実施してきた効果として、生 徒の側にも「自分たちの番」という感覚が見られ、実施時間が 短くなったにもかかわらず、内容的には充実したものとなった。 学校行事やカリキュラムの変更等に伴い、年々、学校側に実施 時間を確保していただくことが難しくなっているように感じる が、きちんとプログラムの要点を認識して構成すれば、限られ た時間でも充分な成果を生むことができると考える。



長津田第二小学校 + 久良岐能舞台

狂言を体験しよう(4)

担当アーティスト	善竹富太郎、前田侑太郎 (大蔵流狂言師)
実施校	横浜市立長津田第二小学校(緑区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型/狂言/4、5、6学年、320人
実施日程	



授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

アーティストから

先生も子供たちも元気いっぱいで楽しんでいて良い学校でした。 これからまたさらにいろんな学校へ訪問する機会を増やし、狂 言普及に尽くしたいと思います。また来年も狂言の講座が開催 できるように宜しくお願いします。

コーディネーターから

担当した先生が積極的に進行なども進めてくれて、とても明るい雰囲気の中で楽しい時間を作り出すことができていました。子供たちも元気に挨拶していて良かったです。狂言は準備時間等も無いので比較的実施しやすい講座だと思います。子どもたちも初めてみる内容に目を丸くして楽しんでいるので、また今後も継続して頂きたいと思います。

先生から

狂言師の方をお迎えして、狂言を学べるといいうのは大変貴重な体験でした。六年・国語で「柿山伏」を取り扱っていることもあり、子どもたちも興味関心を持って鑑賞・体験ができていました。六月末あたりに「柿山伏」の学習を行いましたが、教師側の事前の教材研究も知識が少ないため、なかなか難しいものでした。今年度に入ってからの日程決定であったため、11月末の学習ということで時間が空きました。できれば早い段階で決定できると学習の流れがつくれたかと思いました。

子どもたちから

狂言の舞台に行ってみたい。/教科書ではわからなかったこと まで教えていただいてうれしいです。/次は家族で見たいです。 /劇など見て劇をやってみたくなった。



美しが丘東小学校 + 横浜にぎわい座

筝の音を知る

担当アーティスト	奥田雅楽之一(筝曲)
実施校	横浜市立美しが丘東小学校(青葉区)
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/箏/6 学年、3 学級、112 人
実施日程	2011年12月7日、12月8日、12月13日



授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「箏」に触れる体験と、邦楽奏者の実演やレクチャーを通じて、邦楽曲や邦楽器の音色の魅力や、普段耳にする機会の多いクラシックやポピュラーの曲との違い/共通点に気づき、「日本の音」「日本らしい音」とは何かについて考える端緒とします。また、1つの曲をクラス全員で仕上げ、それを相互に発表しあうことで、クラスの連帯感や個々の達成感を育みます。

主な内容

(1日目) 全クラスでレクチャー後、クラス単位で練習(練習曲:「荒城の月」「さくらさくら」)(2日目) 全クラスでレクチャー後、クラス単位で練習(練習曲:「荒城の月」「さくらさくら」)(3日目) クラス単位で練習後、2クラスずつで成果発表

アーティストから

昨年度からの変化として、クラス数が4クラスになり、プログラムの時間数も6時間が3日間から、5時間が2日と6時間が1日での実施となったので、全体でのレクチャーの後に個別での稽古という流れにしてみました。結果として、説明的な部分をまとめると効率的に進められる部分もあり、45分ずつでも、楽器に触れる体験部分にしっかりと時間が取れ、生徒の個性に加えて、クラスごとの個性も見てとることができたので、良い構成になったと思います。

コーディネーターから

学校の授業時間が1日6時間であることから、4クラス以上の 学年で実施するのは、クラスごとに確保できる時間が限られ難 しさもありましたが、その分、ポイントをしぼって、より濃密 な時間を過ごすことができました。

先生から

"こと"のプログラムを4年間続けて来ています。落ち着いた雰囲気の中で子どもたちが興味を持って取り組むので指導してくださる先生に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。子どもたちも6年生になったらプロの先生に"おこと"を教えていただけると楽しみにしています。是非来年度も奥田先生に来ていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

子どもたちから

先生方と触れ合えた。/みんなで給食を食べたり、休み時間に 過ごしたりして楽しかったです。/やってみると案外難しかっ た。/箏をひくと何かきれいな音にさわるような感じがした。



勝田小学校 + 神奈川県立音楽堂

古来の楽器に親しむ

 担当アーティスト	中村仁美(雅楽/篳篥奏者)
実施校	横浜市立勝田小学校(都筑区)
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目·教科名	音楽
実施概要	体験型/邦楽/6 学年、3 学級、107 人
実施日程	2011年11月22日、11月24日、11月25日



授業のねらい

「この企画を成功させよう」という意思が3者ともあり、打ち合わせの当初から歯車がかみ合って行えたこと。

主な内容

(1日目) 雅楽の3種類の管楽器の音を出して体験する。(2日目)「越殿楽(えてんらく)」1行目実習(篳篥/笙)。鞨鼓を体験する。(3日目)「越殿楽」を合奏練習で仕上げる。発表会で5年生に聴かせる。

アーティストから

小学生に篳篥(ひちりき)を吹かせるワークショップは行ったことがあるが、3日間通して「「越殿楽(えてんらく)」の1行目を演奏するために指導を行ったのは初めてだった。毎日新しい課題が出てきて子供達とその課題に対して向き合うのが楽しかった。

コーディネーターから

西洋音楽が中心の音楽授業で日本古来の楽器のワークショップを行うのは難しいのではないかとの一抹の不安があったものの、小学校、音楽堂、講師3者との協力により素晴らしいワークショップとなった。また、演奏後の子供たちが、"目標に達成した!"という達成感に満ち溢れた笑顔を見せてくれたのが印象的だった。

先生から

子どもたちには、本物に触れさせることが大切であると、強く感じさせられた。 視聴覚教材だけでは味わうことのできない音の響きや音色を全身で感じとったり、実際に演奏してみて、雅楽の楽器の難しさ、奥ゆかしさ、何より音が出せた時の満足感を味わえたりできたことは子どもたちにとってすごく大きな経験となった。そして雅楽を身近に感じることができたという子どももいた。この素晴らしい体験を学校の教員1人で続けていくには困難なことがあまりにも多い。 ぜひこのプログラムの同校継続をしていただければ大変幸せである。

子どもたちから

初めて知ったことがたくさんあって、いろいろな楽器に触れる ことができたのですごく楽しかったです。/日本にこのような 楽器や音楽があり、歴史にも一緒に知れてよかった。/先生の 「ひちりき」が音楽室中に響き渡ってすごいなと思った。





東俣野特別支援学校 + STスポット横浜 笙の音色に身をまかせる

担当アーティスト	石川高(笙、竿、排笙)
実施校	横浜市立東俣野特別支援学校(戸塚区)
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	鑑賞型/笙/全学年、30人
実施日程	2012年2月24日



授業のねらい

触れる経験の少ない伝統音楽について知る。笙の音色や響きを 感じる。アーティストと児童生徒との触れあいを楽しむ。

アーティストから

東俣野特別支援学校での演奏が終わりました。打合せのときに、 ご家族の方々が子供達の日常を詳細につづったパンフレットを いただき、子供の命を支える家庭のご苦労、愛について、演奏 準備として私なりに理解を深めることができました。また、先 生方はまさにアーティストでした。教室の中は、手助けを必要 とする子供達に芸術的創造の喜びを体験させるための独創的な 工夫と、作品に満ち溢れていました。

豊かな感受性を持った子供達、先生方、ご家族と共に深い心の 交流ができたと思います。笙や古代の歌謡には、空間に広がり 包みこむような響きの特性があり、視覚や身体に障害のある子 供達にもなじみやすかったのではないかと思います。進行の仕 方などいくつか反省点もあり、このたびの経験を生かしてより よいプログラムをつくることができると確信しております。再 びこうした機会をぜひいただきたいと願っております。ありが とうございました。

コーディネーターから

重度重複障害のある子どもたちが多く在籍する学校での取り組みは、コーディネーターにとっても、アーティストにとっても、考えること、感じること、得るものの多い時間となりました。今回は、笙という空間をつくっていく音の出る楽器の特性や子どもたちの間を移動しながらの演奏を通して、音の中にどっぷりと浸る経験ができました。即興演奏の場面では、子どもたちや先生方が出す音と笙の音があわさって、一つの音楽をつくることができました。

■アーティストプロフィール

担当したな主な芸術家の略歴は、以下の通りです。実施時点のもので、五十音順です。

ART LAB OVA

1996 年アーティストによる非営利グループとして発足。2010年、10年間拠点としていた桜木町から横浜最後の名画座であり唯一の独立系映画館であるシネマ・ジャック&ベティのある多文化な下町、若葉町に移転。映画館、スナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトとして活動を展開している。

淺井裕介

1981 年東京生まれ、在住。絵描き。日常にある身の回りの素材を用いながら、絵画やドローイングを制作。代表作として、マスキングテープを用いて植物の絵を増殖させる「Masking Plant」や、現地で採取した泥や土を使用した泥の壁画などがある。建築家、ミュージシャン、ダンサーとのコラボレーションプロジェクトやワークショップなども多数行っている。VOCA2009 展大原美術館賞受賞。

AS 輪組

横浜美術大学中野滋教授が主宰する、アーティストグループ。メンバーは、アーティスト、建築家、デザイナーなど。学校の環境をできるだけ楽しく明るい場にしたいとの考えから、子どもたちと一緒に学校のトイレを素敵な空間にするプロジェクトを手がける。活動のスローガンは「学校のトイレをアートな空間に、子ども達のために豊かなスペースをし

Anointed Mass Choir

ゴスペル団体。全国8拠点にグループを持ち、総勢1,000名の全国的に活動を展開しているゴスペル団体。宗教、年齢、性別に関係なく、「一人一人のメッセージ」を楽譜にとらわれない心のハーモニーで表現することは、他に追随を見ない。自主コンサートのほか、著名なアーティストとの共演も多い。また、「心の免疫力を上げる」ワークショップにも積極的に取り組み、各地域の成人式や全国70を超える学校コンサート、チャリティコンサートなど、社会貢献活動にも力を入れている。

石川高

1990 年より笙の演奏活動をはじめ、国内、世界中の音楽祭に出演してきた。近頃は催馬楽などの歌唱でも高い評価を受けている。雅楽古典曲のみならず、現代作品や自主作品の演奏、即興も情熱的に行っている。宮田まゆみ、豊英秋、芝祐靖各氏に師事。雅楽団体「伶楽舎(れいがくしゃ)」に所属。和光大学「日本の芸能1(前期)」担当。学習院大学「日本の伝統芸能」参加。沖縄県立芸術大学、九州大学にて集中講義担当。朝日カルチャーセンター「古代歌謡」担当。

井上大輔

桜美林大学総合文化学科卒業。大学より木佐貫 邦子にコンテンポラリーダンスを師事。07・08 年は 伊藤キム主宰のダンスカンパニー『輝く未来』で活 動。退団後自身振付によるソロダンスを 3 作品発表、自己の表現者としての修練に励む。また桜美林大学主催の市民参加型群読音楽劇への出演や、ピアニスト・指揮者の中川賢一とのコラボレーション WS、パーカッショニストのはたけやま裕、遊佐未森の LIVE で踊るなど他ジャンルの表現者との活動にも力を入れている。

うめぐみ

ワークショップアーティスト。うめぐみは廣島佐映 子、遠山和美、川崎 信の3人のユニット。横浜美 術館子どものアトリエでの指導補助の経験を活か した子どもが自ら描きつくる気持ちを大切にした 指導をする。

漆原啓子

1981年、東京藝術大学付属高校在学中、第8回 ヴィニャフスキ国際コンクールに於いて最年少18 歳で日本人初の優勝と6つの副賞を受賞し、翌 年、東京藝術大学入学と同時に本格的演奏活動 を開始。1986年、ハレー・ストリング・クァルテットと して民音コンクール室内楽部門で優勝並びに斎藤秀雄賞を受賞。これまで F. ライトナー、H. シフ 等の指揮者や、ハンガリー国立響、スロヴァキア・ フィル、ウィーン放送響等のオーケストラと共演。 常に第一線で活躍を続け、安定した高水準の演奏は音楽ファンのみならず、指揮者、オーケストラ・メンバー等の音楽家の間でも非常に高い信頼を得ている。東京藝術大学を経て、現在は国立音楽大学客員教授。

大川典良

1973 年生。金春惣右衛門に師事。国立能楽堂三役研修終了。これまでに「乱」、「望月」、「道成寺」、「石橋」を披く。地元千葉での能楽普及事業など積極的に活動。久良岐能舞台主催「能楽入門講座(囃子講座)」講師。(社)日本芸能実演家団体協議会[芸団協]主催「キッズ伝統芸能体験」主任講師。

柏木陽

演劇百貨店店長・代表理事。俳優・演出家。1993 年、演劇集団「NOISE」に参加、演出家・劇作家の 故・如月小春と活動。2003年にNPO法人演劇百 貨店を設立、代表理事に就任。全国各地の劇 場・児童館・美術館・学校などで、子どもたちととも に独自の演劇空間を作り出している。近年の主な 仕事に、兵庫県立こどもの館での中高生との野外 移動劇創作、世田谷パブリックシアター「地域の 物語ワークショップ・ティーンズ班」の演出・進行な ど多数。

片岡祐介

打楽器奏者、作曲家。1969 年生まれ。愛知県豊橋市で育つ。少年時代に独学で、木琴やピアノの演奏をはじめる。東京音楽大学で打楽器を学び、映画やコマーシャル音楽での経験を積んだ後、97 年から 2000 年まで、岐阜県音楽療法研究所にて研究員として勤務。障害児者との演奏共演

を多数行う。マリンバのソロコンサートなどジャンルに拘らない演奏活動の他、音楽療法士のための実践的な講座を全国各地で行っている。また、幼児から高齢者まで幅広い人を対象に、即興演奏のワークショップも行っている。2006年度、NHK教育テレビのエキセントリックな音楽番組「あいのて」に「黄色のあいのてさん」としてレギュラー出演し反響を呼ぶ。マリンバ奏者として、新作の委嘱、演奏活動を数多くおこなっている。CDに片岡祐介と子どもたち「ポリフォニック・パーカッション」(NPO法人クリエイティブサポートLet's)、著書に「CDブック音楽ってどうやるの」(野村誠と共著:あおぞら音楽社)がある。http://www.usiwakamaru.or.jp/~usuke/

川田知子

1991 年、東京藝術大学を首席で卒業。第5回シュポア国際ヴァイオリンコンクールにて優勝。 1993 年、ソニー・クラシカルよりデビューアルバム発売。1994 年、サンクト・ペテルブルク交響楽団のソリストに起用される。2003 年にはモービル音楽賞奨励賞を受賞。

河原厚子

歌手。成蹊大学時代よりジャズクラブで歌い始める。その後コーラス・ヴォーカリストとして、数多くのスタジオワークやツアー、CM製作等をこなす。1983年にニューヨークへ渡り、ハーレムのジャズスクール、ジャズモービルで本格的にボーカルを磨き直す。帰国後、東京・横浜のジャズクラブで精力的にライブ活動を展開する一方、親子のためのコンサート、小・中学校、生涯教育学校でのトーク&ライブ等、3歳から大人までのジャズの実験教室など、多彩な場所で活躍している。

神田佳子

パーカッショニスト。横浜生まれ。東京芸術大学卒業及び同大学院修了。ドイツ: ダルムシュタット国際現代音楽夏期講習会で奨学生賞を2度受賞。 久石譲、小椋佳等らのコンサートツアーの参加や、 NHK 大河ドラマ『北条時宗』の音楽をはじめ、数多くのレコーディングなどに参加。現在、独自のリズムワークショップも展開中。

北村伊知郎

1983 年 8 月、長崎県佐世保市生まれ。2007 年 3 月、京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業。2009 年 3 月、東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了。2009 年 8 月、ヨコハマ国際映像祭 事務局インターン。2010 年 7 月、墨東まち見世 ネットワークプロジェクト アーティスト参加。

北村成美

ダンサー、振付家。1971年1月15日、大阪府生まれ。やぎ座B型。人はどんな境遇にあっても、生を楽しみ、切り開いてく力を備えていると考えている。この「創造力」を根本に、ストイックでエンターテイメント性豊かな舞台作りを目指している。そうした作品群には、戦い続ける勇姿の切なさや滑稽さ

があり、観客を巻き込むパフォーマンス、小さな身 体から炸裂するバカおどりには、いつも笑いと哀 愁が漂う。真剣に身体を張るところにソロダンスの 醍醐味と自身の存在価値を見出しており、一週間 ひとりで踊り続ける「ダンスマラソン」や、ご家庭の 居間にダンスをお届けする「ダンスアットホーム」な ど、パワフルな活動を展開している。また、ダンス を作り見せるだけにとどまらず、その楽しみ方を 様々な形で社会に提案していくことがコリオグラフ ァーの使命であるとし、生活の現場で起こる様々 な動きの中にダンスがあることを発見するワークシ ョップや、観客・地域住民との共同製作によるダン ス公演づくりにも積極的に取り組んでいる。バレエ カンパニー、市民ミュージカル、劇団、養護施設 などへの作品提供も数多く手掛けている。 http://www.shigevan.com/index.html

来島友幸

美術家。2000年より環境と自身の時間感覚をテーマとしたフィールドワークによるインスタレーション作品"Form is Rhythm"を開始する。主な展覧会スキマプロジェクト(コマンド N)、中島望・来島友幸二人展(金沢 21世紀美術館)など。

黒田晃弘

美術作家。1970 年北海道生まれ。札幌市在住。2000 年より黒田一人による芸術文化向上委員会「lopnor」の活動を開始。さまざまなイベントや展覧会などを企画・制作する。他者との関係生成のきっかけとして「似顔絵描き」をはじめ、最近ではそれが主要な表現活動、兼自身の生活の一部となりつつある。この「似顔絵描き」から、「横浜トリエンナーレ 2005」に招聘された。

五田詩朗、那須亜紀子、齊藤直樹、渡邊梓

洗足学園音楽大学・大学院を卒業した若き音楽家たち。数々のオーケストラやアンサンブル団体で演奏するほか、洗足学園音大附属音楽教室講師などを務める。フィリアホールでの2,3 才児向け音楽ワークショップやホールオープンデーでの親子向け演奏会(2010年/兵士の物語、2011年/動物の謝肉祭)、クリスマス・ファミリー・コンサートなどに出演。子どもたちへ良い音楽を届けようとする意志と愛情は深い。

齋藤 眞紀

美術家。1964 年川崎に生まれる。和光大学人文学部芸術学科卒。鶴見区在住。舞台美術を皮切りに、絵画、立体造形、版画や風景スケッチと、抽象、具象を問わず様々なジャンルで制作活動を行っている。近年は、川崎市市民ミュージアム、郡山市立美術館、岩崎ミュージアムなどでのワークショップをはじめ、スケッチ会の主催に保育園での絵画教室と、さまざまな年齢の人達とふれあいながら、美術の楽しみを広める活動にも力を入れている。

阪本剛二郎

長唄東音会 三味線方。三味線を味見亨に師事。 長唄東音会同人。過去にも教育ブラットフォーム 事業での講師経験あり。横浜在住。

さわたり組

さわたりちひろ、石井桂による。高校卒業後、地元の地域劇団に入団。1984 年、劇団気まぐれ座結成。神奈川県藤沢市、新潟県六日町などで公演。1989 年、出前二人芝居『宮澤賢治童話集』開始。劇場に足を運んでもらうのではなくてこちらから観でもらいに行く、様々な理由から劇場に来られない方や芝居に触れる機会の少ない方へこちらから届けに行くと言う発想から始めた出前芝居。"賢治童話の原文を全てそのまま台詞にした芝居"『宮澤賢治童話集』は、日本全国の個人宅、商店、幼稚園、学校、子ども会、親子劇場、公民館、地域作業所、老人施設など様々なところに呼ばれ、宮澤賢治の故郷・岩手県花巻市での「賢治生誕祭」でも上演。2004 年までの 15 年間におよそ 500回の上演を重ねる。

篠田浩美

東京芸術大学打楽器科卒業。ヤングアーティストピアノコンクール(第2位)、川ロピアノコンクール(第3位、教育長賞)、全国ジュニア管打楽器コンクール(銅賞)。Rolandの電子パーカッションやシンセサイザー、電子ピアノのデモンストレーター。リトミックのチーフインストラクターとしても活動の場を広げる。また多数のレコーディングに参加。ジャンルを問わず多くのコンサートに出演。

清水勝清

美術表具師。1943年4月18日生まれ(現在68 才)。1958年(昭和33年)入店。1968年(昭和4 3年)表具1級技能士取得(神奈川県知事賞受賞)。主な仕事先、永平寺(福井)、総持寺(鶴見)、大雄山(松田)、可睡斎(掛川)、高龍寺(函館)、本覚寺(神奈川)。他各地御寺院様。現在、横浜市中区福富町仲通2-4清水丸経本店(表具処志みず)創業1895年(明治28年)3代目。

城田有子

ピアニスト/歌手/作曲家/編曲家/プロデュー サー。尚美音楽院でジャズピアノ、水島早苗ボー カルスクールでジャズボーカル、メイト音楽院でジ ャズ理論を学び大学在学中より音楽活動を始める。 1981 年渡米し、シダー・ウォルトンにジャズピアノ を師事。"城田有子とサンシャインベイブ"結成。 テイチクよりオリジナルアルバム「フローラルブリー ズ」をリリースして注目を高める。1985年、1986年 ゴールデンカイド世界音楽祭に2年連続日本代 表として出演し優秀作品賞、編曲賞を受賞。2000 年横浜から世界に向けて文化を発信しようというコ ンセプトのもと Yokohama Asociation of Artists(Y.A.A)を主宰する。最近では自身のゴス ペルグループやサイケデリックダンスバンドなどの グループを率いながら、プロデューサーとしても活 躍中。

鈴木 淳

画家/絵画保存修復家。59 年:東京都生まれ。 横浜市在住。86 年:東京芸術大学油画卒業、88 年:同大学院保存修復技術修士課程修了、93 年:博士課程修了、美術博士。84 年-現在:個展, グループ展等。99-02 年:文化庁芸術家在外派 遺研修員、文化財保護振興財団在外研修員。ボストン美術館などで保存修復に従事しながら西洋 絵画の組成を研究。93-96 年:東京芸術大学非 常勤講師、現在:多摩美術大学、群馬県立女子 大学、工学院大学非常勤講師。04-09 年: 横浜美 術館、横浜市民ギャラリー、平塚美術館等で市民 講座を担当。06 年: beacon art studio (絵画保存 修復)、ACP美術保存パートナーズ(多分野美術 作品保存修復)、絵画技法材料研究会(社会人 絵画教室) 設立。

鈴木廖江

ソプラノ歌手。横須賀市出身。東京芸術大学卒業及び、同大学院オペラ科修了。第29回イタリア声楽コンコルソ第1位ミラノ大賞受賞により、イタリアのG. ニコリーニ国立音楽院に推薦留学。第31回 V. ベッリーニ国際声楽コンクール最高位受賞。多くのコンサート活動・オペラ出演の他、2002年NHK「紅白歌合戦」、2003年NHK「ニューイヤーコンサート」などテレビにも多く出演。「Fiore」、「Regalo」、「ニンナ・ナンナー大人のための子守歌」、「Caloreーぬくもり」等のCDをリリース。

善竹富太郎

大蔵流狂言師。社団法人能楽協会会員 昭和54 生まれ 善竹十郎氏 長男。祖父故善竹圭五郎、 父・善竹十郎に師事。3 才より稽古を始め、5 才の 時に狂言「靭猿」の小猿役で初舞台。その後 20 才で「三番三」、22 才で「那須」、24 才で「釣狐」を 披く。「SORORIの会」「狂言道場」主宰。昭和音 大講師。

高畠伸吾

テノール歌手。武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。大学院在学中、JT主催の『期待の音大生によるアフターヌーンコンサート Vol.215、Vol.245』に出演。これまでに、《コジ・ファン・トウッテ》フェッランド、《秘密の結婚》パオリーノ、《ラ・ボエーム》ロドルフォ、《ジャンニ・スキッキ》リヌッチョとしてオペラに出演。声楽を、加茂下稔、松村健太郎、堀内康雄の各氏に師事。東京都出身。現在、武蔵野音楽大学研修員。

武田力

俳優。1983 年生まれ。立教大学教育学科を卒業後、幼稚園勤務を経て俳優としての活動を始める。『三月の5日間』をはじめとするチェルフィッチュ作品、飴屋法水演出『4.48 サイコシス』等に出演。アートプロデュースも行い、YOKOHAMA 創造界限コンペ 2008 を受賞した『手のひらが横濱』や、日比野克彦氏の作品、野外ヒノキ舞台[But-a-1]にて開催した『いけぶくろの動物園』のプロデュースなど、演劇の枠にはまらず様々なアート・パフォーマンス分野に活動を拡げている。

棚川寛子

舞台音楽家。演劇の舞台音楽や、ワークショップ活動、セミンコオーケストラの活動など。平成18年度新進芸術家国内研修修了。ワークショップデザイナー育成プログラム青山学院大学5期修了。セミンコオーケストラ http://www.seminko.net

珠 (TAMAKI)

Steel Pan奏者。幼少よりピアノを習いその後パーカッションを学ぶ。2005年にトリニダードトバコ共和国に渡航、現地の Steel Pan Band に参加、同共和国最大のコンテスト PANORAMA に出場、参加バンドが優勝する。ソロ活動、バンドサポート、

アントニオ・古賀氏のサポートメンバーとして全国のコンサートや海外公演のほか、首都圏6箇所でSteelPan教室講師。2011年には自身の初 CD をリリース。日本の童謡唱歌を Steel Pan でアレンジ、好評を博している。現在 NHK 甲府放送局「金曜山梨・甲斐道めぐり」に旅人として出演中。

玉田多紀

造形作家。1983 年生まれ。多摩美術大学造形学科卒業。ダンボールをレリーフ状に張り合わせる技法による平面、立体作品を中心に活躍。絵画造形教室や小学校、各地のアートイベントなど幅広くワークショップを開催。YOKOHAMA創造界隈ZAIMコンペ受賞。2011年世田谷芸術アワード賞生活デザイン部門受賞。展示・ワークショップでは2011年NHK環境キャンペーン地球エコイベント参加。

田村緑

ピアニスト。桐朋女子高校音楽科卒業後、英国財団の奨学金を受け渡英。ギルドホール音楽院ピアノ科首席卒業、シティ大学院音楽部演奏学科修士課程修了後、音楽院に勤務。IC・ベートーヴェン・ピアノコンクール第 1 位受賞、ヨーロッパへの演奏活動を行う。帰国後、その躍動感に満ち、情感あふれる演奏スタイルと、独創的プログラムが注目され、全国でコンサートやアウトリーチ活動を行う。音楽を楽しめる体験とする為、様々な手法を生み出すピアニストとして貴重な存在である。NHK-BS「ぴあのピア」出演。(財) 地域創造協力アーティスト。最新 CD 「田村緑 魅惑のピアノ名曲集」。

ドゥイ

造形作家・料理研究家。ドゥイ:小野亜斗子・轟岳によるユニット。1999年より5年間、絵画造形教室「アトリエ・ラピン」のスタッフとして勤務。(小野)2005年より轟が加わり、2007年3月まで深沢アート研究所/馬車道の土曜日コースを担当。2006年より、横浜・石川町の洗濯屋さん店舗跡を改装した「ドゥイの実験室」にて、こども造形教室をスタート。2009年より、鎌倉山ナワールガーデンにある竹林での活動「本気根気理」。2010年より、葉山おひさま学童あおぞらでの「ドゥイの出張こども造形教室」。その他、各地イベントにてワークショップを考案・実施。参加者それぞれの面白さやひらめきと即興性を大切に考える、「クリエイティブな遊びの時間」を研究しています。

TONES

2006 年結成、マリンバを中心とした打楽器アンサンブルグループ。打楽器から溢れ出る色とりどりの音を伝えたく、カラフルなイメージを持ってTONES と名付けた。3回のリサイタル公演を行い、どの公演も満員の上高評を博す。 現在、幼稚園、小学校、福祉施設、各種イヴェントなど様々な場所で演奏活動を行い、個々でもライブ会場での演奏、後進の指導、教育機関でのワークショップなど多方面で活動している。

tomoko

シンガーソングライター。確かな歌唱力、ピアノ演奏とでシンガーソングライター振りを発揮。アメリカ、ロサンゼルスにて8年の音楽活動後、帰国。英語詩でのオリジナル曲を歌う。400年の歴史を持つ

Caesari Vocalises 発声法を継承した唯一の日本 人でもある。横浜出身、新たな音楽世界を創造の ためロサンゼルスにて音楽の基盤を作り上げてき た。

中村 仁美

篳篥を中心に、雅楽古典曲・現代作品の演奏を 行う。篳篥、楽筝、左舞、雅楽全般を大窪永夫、 芝祐靖、上明彦など各氏に師事。東京芸術大学 大学院音楽学専攻修了。雅楽演奏団体「伶楽 舎」メンバー。国立音楽大学、沖縄県立芸術大学 非常勤講師。

中村信子

人形劇俳優・美術家。2006 年度より横浜市芸術推進教育プログラム「パペット」を担当。劇団風の子国際児童演劇研究生を経てどんさい劇場に入団。公演活動のほかTV、映画でも操演。現在NHK「おかあさんといっしょ」人形操作レギュラー出演中。パペットワークショップとして総合学習の表現活動やPTA、親子行事、幼稚園・保育園その他のコミュニケーションづくりのイベントなど開催している。NPO法人地域学習会副理事。中野区社会教育委員。

西川珠香子

ジャズ ボーカリスト。昭和音楽大学音楽学部声楽学科卒業。在学中、オペラやイタリア歌曲等を学ぶ傍ら、以前から興味のあったラニー・ラッカーのゴスペルワークショップに参加。その迫力に魅了され仲間達とゴスペルクワイアを結成する。ライブや病院への慰問等積極的に活動開始すると共に、ジャズボーカルのスキルをジャズピアニスト城田有子に師事。現在、都内・横浜を中心にライブ等で活動中。

ノシロナオコ

演劇学を学び、パフォーマンス制作を経て、2002 年よりダンスに転向。2005年より「trans-mission」 をキーワードに制作を続けている。テーマは「主 体と客観を行き来する身体、そして存在」および 「環境と身体のインタラクション」。そのダンスは独 自のドラマトゥルギー「身体の連想ゲーム」によっ て紡がれる。

早川朋子

ダンサー、振付家。筑波大学芸術学部卒業。01 年文化庁在外派遣研修員として渡英、ラバンセン ターにて学ぶ。帰国後はユニット「箱入りオブラー ト」として"ブックエンド""パンとアコーディオン"な ど物語性あるダンス作品をつくり続けている。04 年度セッションハウスレジデンスアーティスト。06 年神楽坂ディプラッツ「ダンスがみたい!新人シリ ーズ」、横浜ソロデュオコンペティションに出場。小 学生、大学生や学校の先生、俳優とのワークショ ップを各地で行うほか、07 年エイブルアート・オン ステージにて演出家わたなべなおこのプロジェク トに参加、障害を持った人との作品づくりや、08年 国立西洋美術館にて「どようびじゅつーロダンの 彫刻からダンスをつくろ」親子ワークショップ。東 京理科大学建築学科の学生と、空間を生かした パフォーマンスづくりなどにあたる。また 09 年、児 童養護施設で暮らす中高生との合宿ワークショッ プ「Remix」を担当するなど活動の幅を広げている。 http://d.hatena.ne.jp/hacoob/

東野祥子

振付家、ダンサー。ダンスカンパニーBABY-Q 主宰。身体から織り成される感情の起伏や衝動、個々の人間の本質をダンスの根底に置き、ダークかつカッティングエッジな電子音響と機械仕掛けの硬質な美術、様々なモチーフの交錯する舞台を創りだす。ソロダンス活動として、煙巻ヨーコ名義で即興アーティストとのセッションをクラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2004年TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2004『次代を担う振付家賞』、2005年横浜ソロ×デュオ〈Compe´ition〉+群舞部門『未来へ羽ばたく横浜賞』、2006年オン★ステージ新聞『ベスト新人振付家賞』、2009年『舞踊批評家協会新人賞』等、受賞多数。

百武惠子

東京音楽大学、大学院(伴奏科)を経て、パリ国立高等音楽院(伴奏科、室内楽科)を一等賞を得て修了。在学中よりロンティボー国際コンクール、ジャンフランセ国際コンクールの Vn 部門、その他パブロ・カザルス音楽祭、カリアリ国際アカデミーなどの公式伴奏者。

深濹純子

多摩美大卒。~89 年まで同校勤務。アート、ジェンダーのワークショップを女性センターや社会教育施設等多数手がける。現在、NPO法人ヒューマン・サービスセンター主宰、港区コミュニティカフェを運営。ジェンダー論で神奈川大学の講師を務める。横浜在住。

古川はじめ、あらたに葉子、上村純

多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する東京カンソン。メンバーの個性でアフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーと葉子の透明感のある歌声で、日本の童謡叙情歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回は、東京カンソンから、3人のメンバー選出による企画。

ペーパームーン・パペットシアター

アーティスト。インドネシア・ジョグジャカルタを拠点に活動するリアとイワンの二人組です。人形劇の作品を手がけています。こどもと大人が共通して体験する日常を、アートと演劇の要素を取り混ぜた独自の世界観で描きだします。

ほうほう堂

新舗美佳と福留麻里による身長 155cm ダンスデュオ。これまでに国内外 20 都市の劇場や美術館などで作品を発表。特に近年では、月に一度、廊下や屋上、ジャンボサボテンの前など、劇場を飛び出して様々な場所で躍る「ほうほう堂@」シリーズを継続して行い、Youtube 上で発表。2010 年 11 月にはその集大成のイベントとして「ほうほう堂@留守番」を下北沢の素敵な一軒家で行なった。また、ほうほう堂の振付に対し、DJ や音楽家など複数のミュージシャンが異なる音楽を合わせる事で、作品の見え方、多様性を引き出す「ほうほう堂×DJs」シリーズなども行なう等、ダンスの拡張を様々な方法で試みている。http://hoho-do.net/

松井イチロー

音楽家。神奈川県座間市出身 横浜市在住。現在、ラテンジャズバンド「LA NOCHE」、小編成の「GRUPO CERVEZA」、サンバ・ボサノババンド「JYOSAMP」3 つのバンドを主宰。オリジナル曲を中心に神奈川・東京のライブハウスで活動を行う。また、「LATINESTRELLA」に参加。北海道から沖縄まで全国各地を演奏活動で旅している。個人では、音楽イベントの企画プロデュース多数。演奏活動の傍ら農業を実践。約五反の畑を借りて露地野菜の栽培、「引き売り」をしている。

松本光世

造形・五感ワークショップ講師。兵庫県生まれ。 (小6より)横浜市在住。幼稚園勤務の後、美術を 学び、1985年よりこどもの造形指導をスタート。19 92年~2007年まで、神奈川県青少年総合研修 センター及び県立青少年センターに勤務。児童 文化担当として、「こどもアート教室」や「若者のた めの児童文化教室」などを実施。また、不登校・ひ きこもりなどに関心のある人のためのゆるやかな 交流の場「ゆうゆうひろば」を開催。2007年4月~ フリーの立場で、アートを通した活動を展開中。

松本祐二

洗足学園音楽大学、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団。1988年4月洗足学園短期大学入学。在学中よりドラムセットを中心として演奏活動を開始。90年3月同短大を卒業後、岡田知之打楽器合奏団に所属。91年から93年にかけて、ドイツ、ブルガリア、シンガポール等世界各地での打楽器アンサンブルツアーに参加。94年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団に打楽器奏者として入団。

松山冴花

ヴァイオリン奏者。兵庫県西宮に生まれ、2歳でヴ ァイオリンを始める。9 歳でニューヨークへ渡り、ジ ュリアード音楽院のプレ・カレッジでドロシー・ディ レー、ロバート・チェンに師事。2007 年ジュリアー ド音楽院修士課程修了。現在は、アメリカ・日本を 中心に積極的にコンサート活動を行っている。エ リーザベト王妃国際音楽コンクール第 4 位(2005 年)、仙台国際音楽コンクール第1位及び聴衆賞 (2004年)他受賞多数。 津田:1982年仙台市生 まれ。05 年東京藝術大学を首席卒業、安宅賞他 を受賞。07 年第 3 回仙台国際音楽コンクールに て第 1 位、および聴衆賞、駐日フランス大使賞を 受賞。10 年東京藝術大学大学院修士課程を首 席修了、併せてクロイツァー賞を受賞。11 年ベル リン芸術大学を最優秀の成績で卒業、ソリストとし てベルリン交響楽団、日本フィルハーモニー交響 楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と協演。

民族歌舞団 荒馬座

講師は全員舞台公演を中心に行う公演班に所属 しています。日常的には保育園・小中学校・一般 向け公演を行い、その他数々の教室、講習会に おいては各人、主任講師・講師助手等を務める。

村井啓哲

サウンド・パフォーマー/アーティスト。主にエレクトロニクスを利用して身体の微かで不随意な動き や自然現象によってシステムを反操作的に制御 することから「音楽」を導く試みを続ける他、観念と 認識の問題を巡る視覚作品も制作する。またフル クサス参加作家によるイベント作品、ジョン・ケー ジの図形楽譜など非五線記譜法による非器楽曲 の研究および解釈と演奏も行っている。

望月純吉

文学座 演出家 平成17年度文化庁新准芸術家 留学制度にて 1 年間ニューヨークで滞在。 2001 年に文学座座員になり現在に至る。これまでの演 出作品は『THE CRISIS - ザ・クライシス』『ダウト DOUBT-疑いをめぐる寓話-『運転免許 わた しの場合』他。山梨県県民文化ホール、鎌倉芸術 館市民参加ワークショップ、松戸市、甲府市、可 児市、新潟県長岡市、横浜市高校演劇ワークショ ップなど、講師経験多数。平成17年度文化庁新 進芸術家海外留学制度では、文学座アトリエの会 『THE CRISIS』(2004 年演劇雑誌・テアトロベスト 20)の演出力と将来性が評価されニューヨークへ。 ブロードウェイで作品の創作に携わりながら、作品 研究に取り組む。 また、アメリカ・ブロードウェイ作 品の日本初演プロデュースについても積極的に 活動し、ロングランヒットを記録した『ダウト』の日 本初演を実現させた。

森美紀子

ジャズシンガー。日本人には珍しいアメリカンソプラノの明るい歌声とそのパーソナリティーは聞く人の心を捉えて離さない。作曲家中村八大氏に見出された後、ピアニスト市村敏幸氏に師事。現在はライブハウスで多くのピアニストと共演。また、「ふぁとふるコンサート」を定期的に行うほかポピュラーソング教室を主宰し、こどものための「読み聞かせ教室」を開催。ジャズをベースにクラシックまでの幅広いジャンルの曲に取り組んでいる。

康本雅子

ダンサー、振付家。1974 年東京生まれ。1999 年よりダンサー活動を始める。2001 年より振付を発表し。日本国内12 都市とイタリア、韓国、マレーシア、タイ、インドネシアにて公演。04 年『脱心講座〜昆虫編』で旧バニョレ国際振付賞/ナショナル協議員賞、06 年『メクラんラクめ』でトヨタコレオグラフィーアワード最終審査会/オーディエンス賞を受賞。ダンス公演のみならず、演出家・松尾スズキの舞台や映画の振付・出演、一青窈やゆずのコンサートやミュージックビデオの振付など、演劇、音楽、映像、ファッション界等、多岐に渡るジャンルで活動し、各界から注目を集めている。

山口佳子

ソプラノ歌手。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程独唱科修了。第37回日伊コンコルソ入選。2005 年渡伊、2006 年オルヴィエート市歌劇場公演「ラ・ボエーム」ムゼッタ役、2008年トスカーナオペラフェスティヴァル「カルメン」フラスキータ役等、国内外のオペラやコンサートに出演。リクルート・オペラスカラシップ第35回生。19年度文化庁派遣芸術在外研修員。日本ロッシーニ協会会員。サントリーホール・オペラ・アカデミー・メンバー。藤原歌劇団団員。

やまもときょうこ

ラテンジャズボーカリスト。弾き語り、小編成のバン ドはもとより、ブルーコーツ、ノーチェ・クバーナ等 を始めとした、日本を代表するビックバンドや数多くの全国のビックバンドとも共演し、スペイン語圏の曲を中心に、英語、日本語、ポルトガル語、フランス語などを駆使した多彩な言語、表現力とリズムのグループで聴衆を楽しませる。

ユキ・アリマサ

ジャズ・ピアニスト。3 歳よりピアノを始め、12 歳頃オスカー・ピーターソンを聞いてジャズに魅了され独学で勉強。玉川大学英米文学科卒業後、渡米。バークリー音楽大学でジャズピアノ演奏、作編曲を学ぶ。ピアニストとしてハンク・ジョーンズ賞、デューク・エリントン作曲賞を受賞。1986年に卒業後、同校ピアノ科助教授として勤務。帰国後、Yuki Arimasa Trioのリーダー及び作編曲家として活動を続ける。洗足学園音楽大学ジャズコースでソルフェージュとピアノのクラスを担当。

yoyo.

野菜好きがこうじ、印度旅行後のベジタリアニスムとの出会いをきっかけに野菜の料理をつくりはじめる。2007年、東京・高円寺のバーの定休日をレンタルし、毎週水曜日のみオープンする「VEGEしょくどう」をオープン。その後2010年より拠点を原宿のフリースペース VACANT に移す。NY や南米など、国内外の旅先でも菜食料理のイベントや講師を担当。食に関するさまざまな活動に取り組む。VEGEしょくどう日誌 http://vegecanteen.seesaa.net

横浜シティオペラ

各々音楽大学、または大学院を卒業。横浜シティオペラ主催のオペラ公演やコンサートに出演する。 また、他のオペラ団体が主催する公演、コンサートにも数多く出演し活躍している。

吉澤延隆

等・十七絃等。1982年、宇都宮市生まれ。7歳より、 和久文子師のもとで等を始める。2006年6月から 2007年3月、平成18年度文化庁新進芸術家国 内研修制度研修員として、研修題目「筝の現代作 品と古典三絃の修得」の研修を行う。2007年、東 海大学大学院芸術学研究科音響芸術専攻修了。 2008年、第15回賢順記念全国等曲コンクールに おいて最高賞の賢順賞受賞。2009年、NHKー TV 芸能花舞台「今かがやく若手たち」に出演。現 在、沢井筝曲院講師。

Ria & Rie

ヴァイオリン・ピアノ デュオ。ヴァイオリン李 文佳・ピアノ高橋理恵。2008 年コンサートでのテレビ出演 (YOU テレビ)をきっかけに結成。 情熱的で息のあった演奏が魅力で Ria&Rie のステージをきっかけにクラシックファンになったという声も多い。 結成以来全国各地で演奏を行っている。

わたなべなおこ

演出家・ワークショップファシリテーター。劇団あなざーわーくす主宰・NPO 法人 PAVLIC 理事。1974年生まれ。兵庫県赤穂市出身。東京都在住。新しい舞台表現の可能性を追求し、観客参加型のスタイルである「レクエーション演劇」を独自に開発。斬新な舞台空間と楽しい演出が日本各地で好評を得ている。

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターの団体概要は、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

株式会社オフィスマキナ

オフィスマキナでは、教育・学術関連のイベント、セミナー、コンサート等の企画制作を行っています。おもに、科学教育と音楽の企画を手がけています。平成18年度より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」の「声楽」ワークショップを担当。20年度からは「ジャズ」ワークショップのコーディネーターも担当しています。

http://www.office-makina.com/

企業組合 Media Global (メディアグローバル)

2005年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は1998年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。2006年より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」のコーディネーターを担当。

http://www.mediaglobal.info

よこはま音楽広場実行委員会

よこはま音楽広場は「地域にひらかれた音楽(コミュニティ・ミュージック)」を実施するため、平成 19年に発足しました。平成 19~20 年度には横浜市市民活力推進局による「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」として横浜市崎見区に在住の外国人と近隣の住民を対象としたワークショップを行い、演奏家を交えたコンサートを行いました。平成 20 年度から「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」「クラシック・ヨコハマ サロンコンサートブリッジ」の事業に携わり、病院や小学校などに演奏家を派遣し、体験型のコンサートを行いました。教育や福祉、または医療機関などで音楽を行う意味や意義を領域横断的な視点から研究しています。

特定非営利活動法人子どもに音楽を

世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成18年の設立以来、各地の小中学校等で78回の演奏活動を実施しています。

http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/

特定非営利活動法人 横浜こどものひろば

横浜こどものひろばは平成13年2月に神奈川県

認証の NPO 法人として設立しました。0~18歳までの子どものための優れた芸術文化活動を振興し、子どもたちの芸術文化体験の場と子ども自身の社会参画の場の創出が豊かな子ども時代の創出に繋がるよう努めてきました。近年は、0~3歳の子どもと子育て世代の親たちが自身で運営していく、芸術文化体験による子育てのひろばを毎月開催しています。また「わらべうたの伝承者」を広げる活動も並行して行い、0~3歳の子育てひろば等とかみ合う活動をすすめています。 また横濱世界演劇祭、みなと横浜演劇祭等の事務局の一翼も担当しています。

http://www.yokohama-kodomo.com

特定非営利活動法人芸術家と子どもたち

NPO 法人芸術家と子どもたちは、2001 年に設立された特定非営利活動法人です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動をしています。「ASIAS(エイジアス)」(Artist's Studio In A School の略)は、公立の小中学校、特別支援学級、幼稚園、保育園などにおいて、アーティストと先生が協力してワークショップ型の授業を実施する活動です。横浜市芸術文化教育プログラムでは、平成19年度より毎年いくつかの授業をコーディネートしています。他、地域コミュニティにて活動する「ACTION!(アクション)」などを展開しています。

http://www.children-art.net/

ART LAB OVA アートラボ・オーバ

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして1996 年から活動をしています。2010 年秋、桜木町駅近くの「13 坪のアートセンター」から横浜唯一の独立系映画館シネマ・ジャック&ベティ1階に開設した「横浜パラダイス会館」に拠点を移しました。今後も引き続き、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開中です。

http://artlabova.org

民族歌舞団 荒馬座

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。 私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族 芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をお こなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能 を通して 「明日を生きる力」となるような舞台や、 人と人とをつなげる文化活動を広げています。

http://www.araumaza.co.jp/

アートの時間

アートの時間は、「アートをもっと町なかに!」と、2007年より活動を始めました。 コンサートホールや劇場、美術館などから飛び出して、アーティストとともに地域や学校へ出向き、美術・演劇・ダンス・音楽など様々なアートイベントやアートプログラムの企画運営を行っています。 また戸塚区と協働で、アートを通じ人と人のつながりを生み出す、地域づくり事業にも取り組みました。 アーティストのパフォーマンスだけでなく、その息遣いまで感じられるシチュエーションを作りたい。そして、特に子どもたちには、より身近にアーティストの感性に触れるという体験を通して、「いつもと違う自分」を発見して欲しい。そんな思いで活動しています。

NPO 法人 Offsite Dance Project (オフサイト・ダンスプロジェクト)

NPO 法人 Offsite Dance Project は、アーティストの新たな挑戦の場、観客との新たな関係づくり、様々な分野や地域のパートナーシップ拡大を目指し、国内外の様々な場所で劇場外に特化した活動を展開している。2008 年の設立以後、毎年ダンス・コミュニティ・フォーラム「We dance」を主催する他、2010 年から国内外の都市空間を舞台に、日本と海外のアーティストが共同で創作・上演に取り組むダンスコラボレーションプロジェクトを開始。まちづくりやビジュアルアーツを振興する団体と連携したパフォーミングアーツの普及、教育機関における普及事業も行っている。

http://www.offsite-dance.jp

黄金町エリアマネジメントセンター

黄金町エリアマネジメントセンターは、かつて売買春の街として知られていた黄金町地域の再生を目指し、行政、企業、大学、警察の協力のもと『アートによるまちづくり』に取組んでいます。街を舞台とする美術の祭典「黄金町バザール」の年に一度の開催や、空き店舗を活用したアーティスト・イン・レジデンス、商業活動の導入などを通して、アーティストやまちづくりの担い手の支援を行っています。地域住民などが、安全に安心して過ごせるようなまち、地域とアートが共存する魅力と活気に満ちたまちの実現に向け、様々な取組みを行っています。

http://www.koganecho.net/

NPO 法人横浜シティオペラ

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽く し、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・ 佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員 会の指導のもとに、横浜市在住の音楽家 30 名に よって、発足した。その後、市・県の助成を受け、 青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成3年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの3本による『神奈川芸術フェスティバル』を19年間連続で催している。地域の文化発展に貢献した功績により、1993年に横浜文化賞を受賞。

http://www.cityopera.jp/

青葉区民文化センター フィリアホール

フィリアホールは 1993 年にオープンしたクラシック 音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの公演を年間約 30 回主催し、また、音楽愛 好家・アマチュアの方々の音楽の練習や発表の 場として数多く利用され、地域密着型のホールと して地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいてい ます。ファミリー・コンサートや2、3 才児向け音楽ワ ークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、 2007 年度からは青葉区・緑区の公立小学校への 訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い 普及に日々努めています。

http://www.philiahall.com

泉区民文化センター テアトルフォンテ

テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る――この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。2008 年度から、泉区に伝わる昔話や地域を題材にしたオリジナルミュージカルを上演しています。(出演は一般公募の区民)。また、こども向けの演劇ワークショップや、暮らしの中の創作講座、地域のアーティストを招いての事業など、芸術鑑賞の場を提供するだけでなく、地域に根ざした文化活動の発展にも力を入れています。

http://www.theatre-fonte.com

栄区民文化センター リリス

本郷台駅より徒歩3分の立地にある区民文化センター。平成18年4月より、指定管理者として神奈川共立をはじめとする共同事業体が運営している。アコースティック音楽に適したホールを持ち、クラシック鑑賞事業に特に力を入れているほか、区内の福祉施設・学校等を会場にしたアウトリーチコンサートを平成19年度以降、継続している。

http://www.lilis.jp

神奈川区民文化センター かなっくホール

H21 年度、開館 5 周年を迎えるかなっくホールは、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民の皆様への上質の芸術パフォーマンスのご提供にとどまらず、地域の中に芸術の作り手を増やす働きかけにも積極的に取り組んでいます。区民から企画を公募して開催する「区民応募企画」や、「区民プロデューサー育成事業」のほか、若手アーティスト支援事業「フロムかなっく」出演アーティストや朗読ワークショップで勉強した参加者を地区内の様々な場所に派遣してのアウトリーチ活動などを通じ、区民の皆様が日常生活の中で芸術文化に触れ合い、

自らが芸術の作り手となって区民文化センターを 活用・運営していく"区民がつくる文化のかたち" をめざした事業展開を行っています。

http://kanack-hall.ip/

横浜市大倉山記念館

79 年の歴史を誇る建造物 現在の横浜市大倉山 記念館は、実業家で後に東洋大学学長を務めた 大倉邦彦(1882-1971)により昭和7年(1932)「大 倉精神文化研究所」の本館として創建されました。 設計は、日本建築史に大きな足跡を残した古典 主義建築の第一人者、長野宇平治(1867-1937) です。古代ギリシャ以前の"プレヘレニック様式"と いう世界的にも希少な建築様式を用いたのみなら ず、東洋の意匠も取り入れ、まさに東西文化が溶 け合った独特の様式美を持つ建造物を創り上げ ました。昭和56年(1981)横浜市が寄贈を受け、 大改修のうえ建物の保存を図るとともに、昭和59 年(1984)横浜市大倉山記念館として生まれ変わ り、平成3年(1991)には横浜市指定有形文化財 に指定されました。開館以来、1万人以上の入場 者を集める「大倉山秋の芸術祭」、こどもの日にち なんだ「こどもフェスティバル」、12月の「小さな丘 のメリークリスマス」、など地域に密着した催し物が 多数行われる文化施設として市民に親しまれてい ます。また、ギリシャ神殿様式のピロティー、昭和 初期の雰囲気を残す第5集会室、神社建築の木 組みを取り入れたホール、エントランスなど、映画 やテレビのロケ地としても数多く活用されていま

http://www.o-kurayama.com

NPO 法人アートプラットフォーム 急な坂スタジオ

急な坂スタジオは、舞台芸術(現代演劇・ダンスなど)の創造拠点として、2006年10月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小5つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。

http://kyunasaka.jp/

株式会社シグマコミュニケーションズ /久良岐能舞台

横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良 岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽 古や発表会、茶室でのお茶会など市民に開かれ た能舞台として利用されています。四季折々の草 花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。株式会 社シグマコミュニケーションズでは劇場管理・ホー ル運営事業を進め、平成18年9月より久良岐能 舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より 委託されています。一年間に自主事業を10公演 開催し、10月には近隣地区小学校を無料招待す る小学校向け狂言鑑賞教室も開催しています。

http://www.kuraki-noh.jp/

鶴見区民文化センター サルビアホール

2011年3月5日に開館した横浜市鶴見区にある 文化施設。最大652名を収容し、プロセニアム形 式から反響板形式、そしてフルフラット形式など、音楽・演劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールの他に、100名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、器楽・合唱からダンス・演劇の練習・稽古に使用できるリハーサル室、練習室等を兼ね備えています。貸館業務だけでなく自主事業も行い、地域の文化振興を目指しています。http://salvia-hall.jp/

旭区民文化センター サンハート

横浜市旭区民文化センター「サンハート」は、相 鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ 5F にあり、 交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々 のための文化センターです。多目的にご使用い ただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に 最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」で は美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミ ーティングルーム」や各種練習室等を兼ね備えて います。~人を愛するサンハート、人から愛される サンハート~をコンセプトに、各施設の貸し出しだ けではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづ くり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目 指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を 通して、旭区からパワーを発信しています。

http://www.sunheart.info/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市吉野町市民プラザ

吉野町市民プラザは、南区に平成元年7月15日に開館した文化施設です。ホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習の場として、開館以来、多くの方にご利用いただいております。 地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。http://www.yaf.or.jp/yoshino/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリー

開館以来 40 年以上にわたって、市民の発表の場として貸館事業を運営するほか、横浜ゆかり作家の作品の収集・保存、今日の多様な表現をさまざまな視点で紹介する企画展やコレクション展、夏恒例の「横浜市こどもの美術展」、子ども向けの造形を主体とする講座「ハマキッズ・アートクラブ」、絵画教室などの自主事業を行ってきました。また、市内の美術展覧会情報を網羅した情報誌『アートョコハマ』を発行するなど、市民の活動を支援する身近なギャラリーとして親しまれています。

http://www.yaf.or.jp/ycag/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野

横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。

http://artazamino.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜美術館

1989 年開館の横浜美術館は、見る、創る、学ぶ、 を掲げ開館以来鑑賞と共に、制作プロセスを通し た美術館普及に力を入れてきました。今回の学校 訪問のプログラムでは、横浜美術館の施設と仕事、 特に美術表具師の仕事についてや絵画の修復 や技法を学ぶことを通して美術に興味を持ち親し んでいくことのきっかけとし、さらに、今回の訪問 授業が、生徒さんの美術館を訪れての創作や鑑 賞につながればと考えています。

http://www.vaf.or.ip/

横浜にぎわい座

横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、大 衆芸能の専門館として生まれました。 かつて寄 席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ横浜の 町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わっていただ く場、そして新しい芸能を生み出す場として、横浜 にぎわい座は歩んできました。芸能ホール(391 席)は、やぐらをイメージした舞台廻りや桟敷席、 仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間 で、毎月1日~15日は落語、漫才、マジック、民 謡など様々な主催公演を開催しています。また、 その他に、小ホール・練習室・制作室を備え、各 種の練習や創作活動にご利用いただけます。施 設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸術文 化振興財団が行っています。

http://www.yaf.or.jp/nigiwaiza/

横浜みなとみらいホール

横浜みなとみらいホールは、横浜の新都心「みなとみらい21地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。1998年2月に小ホールが稼動を開始し、同年5月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間600回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。

http://www.yaf.or.jp/mmh

神奈川県立音楽堂

神奈川県立音楽堂は、1954 年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。 ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは 50 年を経た今でも人々に感動をあたえつづけています。

http://www.kanagawa-ongakudo.com/

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財 団 協働推進グループ

(財)横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の巣新を図り、もってゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成14年度に設立されました。 平成16年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、STスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・特別支援学校において実施しています。 協働推進グループも「芸術文化教育プログラム」を市内学校においてコーディネータとして参画し、アーティストを講師として派遣し、美術、伝統芸能等の授業を実施しました。

http://www.yaf.or.jp/ycc/

NPO 法人 ST スポット横浜

STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和62年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。平成16~20年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との恊働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。平成20年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。

http://stspot.jp/

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業 横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 平成 23 年度事業報告書

発行:横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

(STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局)

作成: STスポット横浜 公開開始: 平成 24 年 7 月 12 日

《お問い合わせ先》〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15 横浜STビル 208 NPO法人STスポット横浜 アート教育事業部 内 横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局 電話・ファックス: 045-325-0414 メール: toiawase@y-platform.org